

授 業 計 画

平成 24 年度

# *Syllabus 2012*

---

生涯福祉学部 社会福祉学科

生涯福祉学部

社会福祉学科

# 兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

## 兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



### アドミッションポリシー (AP)

#### 入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

### カリキュラムポリシー (CP)

#### 教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

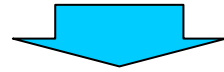
### ディプロマポリシー (DP)

#### 学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

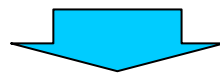


兵庫大学

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

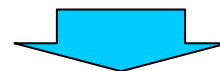


生涯福祉学部

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)



社会福祉学科

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

みなさんは、

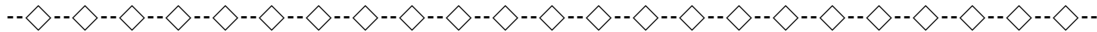
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

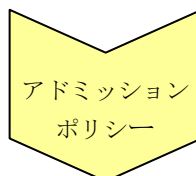
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

## 生涯福祉学部ポリシー

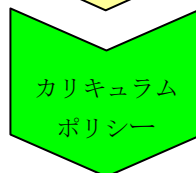
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・生涯福祉学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲と学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し、向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・生涯福祉学部では、「和」の精神に基づく教養を広く基礎として、人と人の生涯発達について理解するとともに、主に小都市・町村での学びを通して、生涯発達に応じ人を支援する地域社会に貢献できる「幅広い職業人」の育成を目指してカリキュラムを編成します。</p>	<p>・生涯福祉学部では、人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



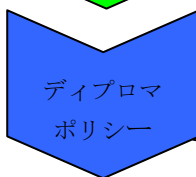
### 3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

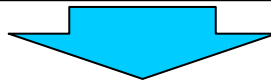
## 社会福祉学科ポリシー

社会福祉学科は、学部ポリシーに基づき、「和」の精神と地球規模でのソーシャルワークの価値と倫理を理解し、主に小都市・町村において実践する福祉の専門職を養成するとともに、生涯にわたって福祉社会の一翼を担う市民の育成を目指します。

### アドミッション ポリシー

・生涯福祉学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

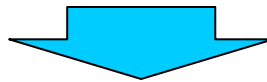
1. ソーシャルワークの専門職を希望し、自ら学ぶ意欲のある人
2. ソーシャルワークの価値である、社会的な弱者を支援することを希望する人
3. 社会福祉の分野に関心を持ち、将来にわたり地域や社会に貢献する意欲のある人



### カリキュラム ポリシー

・社会福祉学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学で学ぶための基本的学習技術を習得し、ソーシャルワークの価値を理解し倫理を身につけるために、調べ、考え、議論をする学習態度を身につける
2. ソーシャルワークの価値と倫理を認識し身につけるために、「人」と「人を取り巻く社会」との関係及び文化など社会の基盤と高い精神性を養う幅広い学問分野の知識や技能を身につける
3. 人の生涯に関わり、社会の変革者たるソーシャルワークの実践的専門家になるために必要な、学際性のある専門的知識や技能を習得し、運用する力を身につける
4. 主に小都市・町村を中心として、社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や技能を運用し行動する力を身につける
5. 福祉社会の一員たる市民として、また、ソーシャルワークの実践的専門家として、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける



### ディプロマ ポリシー

・生涯福祉学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（社会福祉学）の学位を授与します。

1. ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力
2. ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力
3. ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力

#### 「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
授業科目の名称		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
基礎科目	日本語(読解と表現)			◎												
	英語			◎												
	コンピュータ演習		○	○			◎									
	生物基礎		◎													
教養科目	宗教と人生		○									◎				
	生命倫理学		○									◎				
	哲学		◎													
	文学		◎													
	芸術		◎													
	色彩とデザイン		◎													
	心理学		○							◎						
	仏教と現代社会		○									◎				
	国際理解と文化Ⅰ(キリスト教)		○									◎				
	国際理解と文化Ⅱ(イスラム教)		○									◎				
	法と社会		○			○						◎				
	日本国憲法		○									◎				○
	人権の歴史		○			○					○	◎				
	政治学		◎			○										
	社会学		◎			○										
	経済学		◎								○					
	化学		◎													
	生物学		◎								○					
	食と健康		◎													
	実用英語(初級)	○	◎													
実用英語(中級)		○	◎													
中国語(初級)	○	◎														
中国語(中級)		○	◎													
韓国語(初級)	○	◎														
韓国語(中級)		○	◎													
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)		◎														
健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	◎							○								
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	◎							○								
私のためのキャリア設計	○		○	○	◎											
専門科目	人間の生物学的機能と反応		◎							○						
	人間の心理・社会的機能と支援	○	◎					○	○	○						
	社会理論と社会システム	○	◎					○								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		○	○		○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		○	○		○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
	美と感性	○	◎							○						
	法学			○								◎				○
	生涯学習社会とライフデザイン								○				○			◎
	行政法					○						◎		○		
	家族社会学		○							◎	○		○			
	家族福祉論		○							◎	○	○	○	○		
	発達心理学	○	◎							○		○				
	社会心理学	○	◎			○			○		○					
	演習Ⅰ			○	◎		○									
	演習Ⅱ						○	○	◎	○	○					
	現代社会と福祉Ⅰ	○	○							◎	○	○	○			
	現代社会と福祉Ⅱ	○	○							◎	○	○	○			
	社会保障論Ⅰ	○	○							○	○	○				○
	社会保障論Ⅱ	○	○							○	○	○				○
	社会調査の基盤						◎									
社会調査の応用							◎									
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	○	○							◎	○	○	○	○			
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	○	○							◎	○	○	○	○			
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	○			○				◎	○	○	○	○	○		
地域福祉の理論と方法Ⅰ								◎			○					
地域福祉の理論と方法Ⅱ											○		◎	○		
保健医療サービス	○		○	○		○			◎							
医療ソーシャルワーク	○		○	○		○		○	○	○	○	◎				
低所得者に対する支援と生活保護制度									○	○	○	○	◎	○		
権利擁護と成年後見制度				○						◎	○			○		
福祉行政と福祉計画										◎				○	○	
ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	○	○	○		○			○	○	○	◎	○	○	○	○	
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	○	○	○		○			○	○	○	◎	○	○	○	○	
ソーシャルワーク基礎演習	○	○	○		○	◎										
社会福祉特別演習											○	○			◎	
卒業演習			○	○			○	○		○	○			○	◎	

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
授業科目の名称		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせた柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専 門 シ ヤ ル ワ ーク 目 録	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度															
	就労支援の制度とサービス										◎	○	○	○	○	
	介護概論					○				◎						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
	ソーシャルワーク実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
	ソーシャルワーク演習Ⅰ										○	○	◎	○	○	○
	ソーシャルワーク演習Ⅱ										○	○	◎	○	○	○
	地域ソーシャルワーク実践		○	○		○	○	○	◎	○	○		◎	○	○	○
	成人教育と地域発展											◎			○	○
	更生保護制度		○										◎			
	福祉サービスの組織と経営									○				◎	○	
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ		○										◎			○
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		○										◎			○
	精神障害者の生活支援システム		○										◎			◎
	精神疾患とその治療Ⅰ													◎		
	精神疾患とその治療Ⅱ													◎		
	精神保健の課題と支援Ⅰ	○		○	○	○	○	○	○	◎						
	精神保健の課題と支援Ⅱ	○		○	○	○	○	○	○	◎						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	○		○	○	○	○	○	○	◎						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	○		○	○	○	○	○	○	◎						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	○		○	○	○	○	○	○	◎						
	精神科ソーシャルワーク演習										○	○	◎	○	○	○
	精神保健福祉援助実習指導										○	○	◎	○	○	○
	精神保健福祉援助実習										○	○	◎	○	○	○
	インターンシップ	○			○	○				○	○				◎	○
専 門 シ ヤ ル ワ ーク 目 録	レクリエーションワーク												◎	○		
専 門 シ ヤ ル ワ ーク 目 録	人間関係論	○									◎					○
	親子関係の心理学										◎	○				
	健康心理学	○	○			○		○			◎					
	集団心理学	○	○			○		○			◎					
	コミュニケーション心理学	○	○	○			○	○			◎					
	教育心理学			○							◎					
	認知心理学	○	○						○		◎					
	心理統計学			○			○	◎	○							
	臨床心理学										◎					
	心理学研究法	○	○	○			◎	○	○	○	○					
	心理学基礎実験	○	○	○	○	○	◎	○								
	心理学研究実習	○	○	○	○	○	◎	○								
	心理療法										○		◎			
	心理検査法実習										◎		○	○		
	行動分析論	○	○				○	○			◎					
	加齢及び障害に関する理解										◎		○	○		
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解										◎		○	○		
	福祉工学	○	◎								○	○	○		○	
	まちづくり論	○	○							○					○	◎
	国際福祉論	◎	○								○	○		○		○
	スクールソーシャルワーク		○	○		○	○		○	○	○	○	◎	○	○	○
	仏教と社会福祉	◎	○							○		○	○			○
	社会福祉特別講義Ⅰ	○	◎							○	○	○				
	社会福祉特別講義Ⅱ	○	◎							○	○	○				



# シラバスの見方

## 「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1			2				3							
自己を認識し、他者を理解し、思いやる心と志をもって社会で生き抜く力			経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、とむに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力							
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
王様明太子のコミュニケーション	プリンター				経営学初級	経営学初級	システム初級	ビジネス基礎		ソフトウェア基礎	社会の発展	経営学の発展	経営学の発展	情報処理の発展

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

## 《シラバス例》

**授業の概要：**科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

**授業の到達目標：**科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

**成績評価の方法：**学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

**授業計画：**授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

科目名	担当者氏名	授業方法	単位	選択区分	開講年次
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			◎	1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-4 ビジネス 基礎力 ○ 3-1 キャリア 形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用	
《授業の概要》					《テキスト》
《授業の到達目標》					《参考図書》
《成績評価の方法》					《授業時間外学習》
《授業計画》					《備考》
週	テーマ (全角22文字)	学習内容など			
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

**テキスト：**授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。  
**参考図書：**テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

**授業時間外学習：**履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

**備考：**担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

平成 24（2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度（2012年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2					2									[安井・辻本・野田]	11
	英語	演習	2					2									(平本 幸治)	12
	英語	演習	2				△	2									[小泉 毅]	13
	英語	演習	2					2									[Michael. H. FOX]	14
	コンピュータ演習	演習	2				△	2									[佐竹 邦子]	15
	生物基礎	講義		2					2								[池内 敢、他]	16
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2						2								本多 彩	17
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②		[浅沼 光樹]	18
	哲学	講義		2					②		②		②		②		[三浦 摩美]	19
	文学	講義		2					②	②		②	②				[安井 重雄]	20
	芸術	講義		2					②	②		②	②				[柳楽 節子]	21
	芸術	講義		2					②	②		②	②				[岩見 健二]	22
	心理学	講義		2					②	②		②	②				北島 律之	23
	仏教と現代社会	講義		2					②	②		②	②		②		本多 彩	24
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2					②	②		②	②				[徳穰 修司]	25
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2					②	②		②	②				[重親 知左子]	26
	色彩とデザイン	講義		2					②	②		②	②				浜島 成嘉・稲富 恭	27
	法と社会	講義		2					②	②		②	②				[國友 順市]	28
	日本国憲法	講義		2			△	②	②		②	②					[笹田 哲男]	29
	人権の歴史	講義		2				②	②		②	②					(西脇 修)	30
	政治学	講義		2				②	②		②	②					(斎藤 正寿)	31
	社会学	講義		2				2									吉原 恵子	32
	経済学	講義		2				②	②		②	②					(石原 敬子)	33
	化学	講義		2				②	②		②	②					[岡本 一彦]	34
	生物学	講義		2				②	②	②	②	②	②				(本多 久夫)	35
食と健康	講義		2					②	②		②	②				(亀谷 小枝)	36	
実用英語（初級）	演習		2					②	②		②	②				[加藤 恭子]	37	
実用英語（中級）	演習		2					②	②		②	②						
中国語（初級）	演習		2				②	②		②	②					[佟 曉寧]	38	
中国語（中級）	演習		2					②	②		②	②				[佟 曉寧]	39	
韓国語（初級）	演習		2				②	②		②	②					[李 知妍]	40	
韓国語（中級）	演習		2					②	②		②	②				[李 知妍]	41	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②	②		②	②				(三宅 一郎)	42	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②	②		②	②				(徳田 泰伸)	43	
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2			△	②	②		②	②					(三宅一)・(徳田)・(権本)・(矢野)	44	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2				②	②		②	②					(三宅一)・(徳田)・(権本)・(矢野)	45	
私のためのキャリア設計	講義		2				②	②		②	②					[有働 壽恵]	46	

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎科目》

科目名	日本語（読解と表現）				
担当者氏名	安井 重雄、辻本 恭子、野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）				

《授業の概要》

授業内容は、大学での学習、日常生活、社会生活で活用する、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などである。毎回問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、辞書を引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考文献》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字、慣用表現を適切に使用し、読解できる。主語と述語をしっかりと呼応して用いることができる。助詞を適切に使用できる。敬語を適切に使用できる。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席しなければ単位を与えない。授業時に複数回実施する小テスト（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、必ず国語辞典を持参すること。電子辞書も可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	漢字には同じ音を持つものがたくさんあり、それらの意味による使い分けを学ぶ。
3	四字熟語	四字熟語には多くの種類があり、それらを理解する。それによって、日本文化の理解や、日常のコミュニケーションの理解に繋げる。
4	慣用表現・ことわざ	慣用表現は永く使い慣らされてきた表現。ことわざは教訓や生活の知恵を簡単に覚えることができる。
5	慣用表現・故事成語	故事成語は昔の出来事や書物を出典とする慣用表現。日常生活の知識として有効である。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
7	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の違い、「に」と「へ」の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	主語と述語、助詞の用法について復習する	主語と述語、助詞などについて復習し、発展問題を解く。
11	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	敬語についてまとめを行う。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』  
クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）				

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。[Enjoy English]（長崎出版）

《参考文献》

NHKラジオの「新基礎英語 I」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて→話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までする。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《備考》

1. 出席重視です。2. 席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3. 恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4. 授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics (Alphabet) 英検 5級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics (Alphabet) 英検 5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics (子音) ①英検 4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics (子音) ②英検 4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics (母音) ①英検 3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics (母音) ②英検 3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習① 英検 5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習② 英検 5級（全体）
10	～しましょうか？ ～しませんか？	小テスト、会話、Phonics (silent E) ① 英検 4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics (silent E) ② 英検 3級（全体）
12	～はいかがですか？と物を すすめる	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ① 英検準 2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ね る・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ② 英検 5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考え をいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習① 英検 3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習② 英検準 2級総復習

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話し
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	試験or自己評価	試験or自己評価

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考文献》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。

授業は毎回実習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやネットワークが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらと良好につきあっていくための基礎的技能を身につけられる。

メールやインターネット、各種アプリケーションソフトなどの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- ・平常点（30%）
- ・提出課題（70%）

ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

《テキスト》

- ・「学生のためのOffice2010&情報モラル」, noa出版

《参考文献》

- ・よくわかるMicrosoft Office Excel2007（基礎）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office Excel2007（応用）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office Word2007（基礎）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office Word2007（応用）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office PowerPoint2007, FOM出版

《授業時間外学習》

- ・次回の授業範囲を予習すること。
- ・テキストに分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。

《備考》

- ・出席を重視する。
- ・欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。欠席分の遅れは、自ら取り戻すことを原則とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要の説明、実習室ログオンアカウントの確認、管理方法の理解、学内情報システムに関する理解、実習室環境の理解
2	Windowsの基礎、電子メール（1）	Windowsの基礎的操作 電子メールの送受信、署名の設定、基礎知識
3	電子メール（2）	ファイルの添付、メールに関するマナー
4	インターネットによる情報検索（1）	検索サイトの仕組み、検索サイトの活用、論理式を使った検索、情報の信頼性の検証方法
5	インターネットによる情報検索（2）	セキュリティについて、情報モラル、著作権、個人情報の保護
6	ワープロソフトの基礎（1）	基本的な使い方の習得
7	ワープロソフトの基礎（2）	基本的な使い方の習得
8	表計算ソフトの基礎（1）	基本的な使い方の習得
9	表計算ソフトの基礎（2）	基本的な使い方の習得
10	プレゼンテーションソフトの基礎（1）	基本的な使い方の習得
11	プレゼンテーションソフトの基礎（2）	基本的な使い方の習得
12	レポート作成のためのPC活用（1）	アウトラインの作成
13	レポート作成のためのPC活用（2）	アンケート結果の集計
14	レポート作成のためのPC活用（3）	アンケート結果をレポートにする
15	レポート作成のためのPC活用（4）	アンケート結果をスライドにする



《基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	池内 敢、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいない呼吸もある？
5	生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝Ⅱ 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
14	生態系と人間	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」  
数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分—管理栄養士・栄養士のために」  
五明紀春他著（技報堂出版）

「細胞の分子生物学」アルバート他著（ニュートンプレス社）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約20%  
 定期テスト 約50% この3項目で評価する。  
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る①	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る②	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る①	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をええざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011  
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。  
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。  
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がり努めてみよう。  
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》

身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から 1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から 2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から 3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拝 神道 仏教
6	仏教美術 - 1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 - 2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 - 1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 - 2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 - 3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 - 4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 - 5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 - 6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 - 7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 課題レポート（100%）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%  
 レポート・小テストなど10%  
 受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)  
 『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって、どういうこと?(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2~4》
8	君って、どんな人?(性格)	性格という、分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2~3》
10	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1~2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷。《第6章 §2》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振り返り)	これまでの内容の振り返り。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。



《教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約30%  
 定期テスト 約40% この3項目で評価する。  
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

\*キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

\*キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち 初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

\*日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。  
\*配布する資料が散在しないように整理しておく。  
\*新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

\*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》

- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目》

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

本授業は色彩とデザインの両分野について取り上げる。前者においては色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。後者においては、身の回りの様々なデザインと価値感との関連について多面的に考察する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解できるようにする。またデザイン一般に関する基礎知識を身につけるとともに、デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考文献》

- ・『生活と色彩』（朝倉書店）
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』（日本色研事業）
- ・『世界デザイン史』（美術出版社）
- ・『近代椅子学事始』（ワールドフォトプレス）
- ・『北欧デザイン(1)～(3)』（プチグラフィック）
- ・『20世紀ファッションの文化史』（河出書房新社）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めない。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。(担当:浜島)
2	色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
3	色の感情効果	赤、橙、黄、青など、それぞれの色相もっている、色の感情効果について。色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。(担当:浜島)
4	色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。(担当:浜島)
5	配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それに従って配色を考えれば良い。メージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
6	デザインの概念	実用品、贅沢品、芸術作品という観点からデザインを理解する。(担当:稲富)
7	ギリシア・ローマ期からゴシックの様式	クラシックなデザインの系譜について理解する。(デザインの歴史(1))(担当:稲富)
8	ルネサンスから新古典の様式	科学技術の発展を背景としたデザインの変化について理解する。(デザインの歴史(2))(担当:稲富)
9	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムの様式	社会の変化とデザインの関わりについて理解する。(デザインの歴史(3))(担当:稲富)
10	建築とインテリア	建築・椅子のデザインを通じて、材料・技術の発展について理解する。(担当:稲富)
11	ファッションデザイン	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象の関わりについて理解する。(担当:稲富)
12	和風のデザイン	懐石料理と茶室の背景を理解し、和風デザインの系譜について学ぶ。(担当:稲富)
13	映像デザイン	映画・ドラマを通じて、映像作品の構造と文法を理解する。(担当:稲富)
14	プロダクトデザイン	アメリカ・イタリア・北欧のプロダクトデザインと社会の関連について理解する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する (知識・理解) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる (リーダーシップ)				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道徳、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法 第3版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下での平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。  
差別を見抜く力を身につけましょう。  
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。  
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》

共生教育のすすめ 仲田 直  
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡  
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・靴、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図



《教養科目》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
- 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2007，有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシング
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類（社会的カテゴリー）
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域（公的領域）、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	（適宜指示を行う）
15	学習の総まとめ(2)	（適宜指示を行う）

《教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

「経済学」というと、「企業」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。  
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて 考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について 考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について 考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について 考えよう (3)	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方をを用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について 考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①. 10問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。 ②. 10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。 ①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせ、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E. F. Neuzil 著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J. E. Brady, G. E. Humiston 著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」東京化学同人。（1991）J. N. Spencer, G. M. Bodner, L. H. Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造 I	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造 II	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造 III	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造 IV	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造 V	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造 I	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造 II	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造 III	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態 I	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態 II	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液 I	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液 II	溶液の性質の続き。
13	化学反応 I	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応 II	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応 III	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期、II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつけられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》

生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。全回出席が原則。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつけられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたなら細胞は死ぬ。組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的增加（指数関数）の増加のものをすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きていだけであるのに、主体性がある、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナプスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的ふるまってもできてしまう関係である。

《テキスト》

使わない。図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。  
 『細胞の分子生物学』 アルバーツ他著、  
 『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、  
 『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《教養科目》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他編（南江堂）
- 「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編（学文社）
- 「私たちの食と健康」 吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

"Ultimate Solution to the TOEIC Test" by Tatsuo Kimura and David Coulson. Macmillan Languagehouse

《参考文献》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1~UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10: Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11: Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞 ・ 助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習



《教養科目》

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』  
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
『パスポート朝鮮語小事典』  
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
『韓国語を学ぶⅡ』  
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音+母音の後に来る子音、支えろと意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니체）、～は（助詞）について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요체）、～が（助詞）について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も（助詞）について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に（助詞）について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で（場所+에서）を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社、2011年  
 韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。  
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

《参考文献》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。  
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。  
 健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力” を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》

価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間与えるテーマに対するミニレポート (50%)  
 受講に取り組む姿勢等の平常点 (20%)  
 学期末に課題に対するレポート (30%) の総合で評価する。

《授業時間外学習》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦 (大修館書店)  
 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著 (杏林書院)  
 『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他 (杏林書院)  
 『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫 (市村出版)

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する (その1)。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する (その2)。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考文献》

○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) ○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) ○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) ○『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題

小テスト(20%)各分野の学習後に課すレポート課題(60%)平常点(20%)

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5 週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1 年 I 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自 1 日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	1 0 週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだロジック入門』(宮下充正(大修館))

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだロジック入門』(宮下充正(大修館))

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞  
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
＜復習方法＞  
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
随時テーマに対するレポート提出(20%)  
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） <input checked="" type="radio"/> 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つようとする態度（社会的責任）				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、（1）自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。（2）長期に亘るキャリアについて考える。（3）経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

（1）家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。（2）ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。（3）生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。（4）収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- （1）筆記試験 50%
- （2）課題提出物 30%
- （3）授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

（1）大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 （2）矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 （3）最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 （4）スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- （1）次回のプリントを読んでおくこと
- （2）「読む力」の課題をしておくこと
- （3）新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- （1）毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える (1)	生活経営とは何か
2	生活を考える (2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活 (1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活 (2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択 (1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択 (2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択 (3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択 (4)	職業の選択とライフロール (映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論 (1)	職業キャリアからライフキャリアへ (スーパー)
10	キャリア発達理論 (2)	組織におけるキャリア発達 (シャイン)
11	キャリア発達理論 (3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ (克蘭ボルツ)
12	キャリア発達理論 (4)	転機へのアプローチ (シュロスバーグ)、視点の変化 (ハンセン)
13	生涯学習の必要性 (1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性 (1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

平成 23～21（2011～2009）年度入学者

基礎科目・教養科目



カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ		
			必修	選択				1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2				△	2											
	英語	演習	2				△	2											
	コンピュータ演習	演習	2				△	2											
	生物基礎	講義		2					2										
教 育 系	宗教と人生	講義	2						2										
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②		[浅沼 光樹]	51	
	哲学	講義		2					②		②		②		②		[三浦 摩美]	52	
	文学	講義		2				②		②		②		②			[安井 重雄]	53	
	芸術	講義		2					②		②		②		②		[柳楽 節子]	54	
	芸術	講義		2					②		②		②		②		[岩見 健二]	55	
	心理学	講義		2				②		②		②		②			北島 律之	56	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2					②		②		②		②		本多 彩	57	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		[穂積 修司]	58	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2					②		②		②		②		[重親 知左子]	59	
	生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		稲富 恭	60	
	色彩学	講義		2					②		②		②		②		浜島 成嘉	61	
	音楽表現	演習		2					②		②		②		②		[大串 和久]	62	
	アメリカ文学	講義		2						②		②		②			(平本 幸治)	63	
	論説と評論	講義		2						②		②		②			[安井 重雄]	64	
	歴史学	講義		2					②		②		②		②		(金子 哲)	65	
	日本語表現法	演習		2						②		②		②			[野田 直恵]	66	
	社 会 系	法と社会	講義		2					②		②		②		②		[國友 順市]	67
		日本国憲法	講義		2				△	②		②		②		②		[笹田 哲男]	68
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		(西脇 修)	69
政治学		講義		2					②		②		②		②		(斎藤 正寿)	70	
国際関係論		講義		2						②		②		②			(斎藤 正寿)	71	
社会学		講義		2					2										
ジェンダー論		講義		2						②		②		②			吉原 恵子	72	
経済学		講義		2					②		②		②		②		(石原 敬子)	73	
数学		講義		2						②		②		②		②		(山本 真弓)	74
物理学		講義		2					②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	75	
自 然 科 学 系	化学	講義		2					②		②		②		②		[岡本 一彦]	76	
	生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	77	
	食と健康	講義		2					②		②		②		②		(亀谷 小枝)	78	
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②		(河野 稔)	79	
	語 学 系	英語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[Michael. H. FOX]	80
		英語Ⅱ	演習		2						②		②		②			[Michael. H. FOX]	81
		英語Ⅲ	演習		2							②		②		②		[Michael. H. FOX]	82
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		[本多 雄一郎]	83
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②			[本多 雄一郎]	84
ドイツ語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②		[竹内 節]	85	
ドイツ語Ⅱ		演習		2						②		②		②			[竹内 節]	86	
中国語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	87	
中国語Ⅱ		演習		2						②		②		②			[佟 曉寧]	88	
韓国語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②		[李 知妍]	89	
韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②			[李 知妍]	90		
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②		(三宅 一郎)	91	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②		(徳田 泰伸)	92	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2				△	②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(楳本)・(矢野)	93	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2					②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(楳本)・(矢野)	94	
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2					②		②		②		②				
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	95	
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②			[山本 清美]	96	
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	97	
就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②			[山本 清美]	98		

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目  
 ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目  
 △は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度(2010年度)入学者対象  
( )は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎 科 目	日本語(読解と表現)	演習	2				2											
	英語	演習	2				△	2										
	コンピュータ演習	演習	2				△	2										
	生物基礎	講義		2					2									
人 文 系	宗教と人生	講義	2				2											
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②	[浅沼 光樹]	51	
	哲学	講義		2					②		②		②		②	[三浦 摩美]	52	
	文学	講義		2				②		②		②		②	[安井 重雄]	53		
	芸術	講義		2					②		②		②		②	[柳楽 節子]	54	
	芸術	講義		2					②		②		②		②	[岩見 健二]	55	
	心理学	講義		2				②		②		②		②		北島 律之	56	
	宗教と文化Ⅰ(仏教)	講義		2					②		②		②		②	本多 彩	57	
	宗教と文化Ⅱ(キリスト教)	講義		2					②		②		②		②	[穂積 修司]	58	
	宗教と文化Ⅲ(イスラム教)	講義		2					②		②		②		②	[重親 知左子]	59	
	生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②	稲富 恭	60	
	色彩学	講義		2					②		②		②		②	浜島 成嘉	61	
	音楽表現	演習		2					②		②		②		②	[大串 和久]	62	
	アメリカ文学	講義		2						②		②		②		(平本 幸治)	63	
	論説と評論	講義		2						②		②		②		[安井 重雄]	64	
歴史学	講義		2					②		②		②		②	(金子 哲)	65		
日本語表現法	演習		2					②		②		②		②	[野田 直恵]	66		
社 会 系	法と社会	講義		2					②		②		②		②	今井 俊介	67	
	日本国憲法	講義		2				△	②		②		②		②	今井 俊介	68	
	人権の歴史	講義		2					②		②		②		②	[中川 智章]	69	
	政治学	講義		2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	70	
	国際関係論	講義		2						②		②		②		(斎藤 正寿)	71	
	社会学	講義		2					2									
	ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	吉原 恵子	72
	経済学	講義		2					②		②		②		②	(石原 敬子)	73	
自 然 系	数学	講義		2						②		②		②		②	(山本 真弓)	74
	物理学	講義		2					②		②		②		②	(湯瀬 晶文)	75	
	化学	講義		2					②		②		②		②	[岡本 一彦]	76	
	生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	(本多 久夫)	77	
	食と健康	講義		2						②		②		②		②	(亀谷 小枝)	78
	コンピュータ応用演習	演習		2						②		②		②		②	河野 稔	79
	語 学 系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	[Michael. H. FOX]
英語Ⅱ		演習		2							②		②		②	[Michael. H. FOX]	81	
英語Ⅲ		演習		2								②		②		②	[Michael. H. FOX]	82
フランス語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②	[本多 雄一郎]	83	
フランス語Ⅱ		演習		2						②		②		②		②	[本多 雄一郎]	84
ドイツ語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②		[竹内 節]	85
ドイツ語Ⅱ		演習		2						②		②		②		②	[竹内 節]	86
中国語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	87
中国語Ⅱ		演習		2						②		②		②		②	[佟 曉寧]	88
韓国語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②		[李 知妍]	89
韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	[李 知妍]	90	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義		2						②		②		②		②	(三宅 一郎)	91
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義		2						②		②		②		②	(徳田 泰伸)	92
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	演習		2				△	②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	93
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	演習		2						②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	94
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		[有働 壽恵]	
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	[山本 清美]	
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		[山本 清美]	
就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	[山本 清美]		

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目  
◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目  
△は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2				△	2									
	英語	演習	2					△	2								
	コンピュータ演習	演習	2				△	2									
	生物基礎	講義		2					2								
人 文 系	宗教と人生	講義	2					2									
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②	[浅沼 光樹]	51
	哲学	講義		2					②		②		②		②	[三浦 摩美]	52
	文学	講義		2				②		②		②		②	[安井 重雄]	53	
	芸術	講義		2					②		②		②		②	[柳楽 節子]	54
	芸術	講義		2					②		②		②		②	[岩見 健二]	55
	心理学	講義		2				②		②		②		②		北島 律之	56
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2					②		②		②		②	本多 彩	57
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②	[穂積 修司]	58
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2					②		②		②		②	[重親 知左子]	59
	生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②	稲富 恭	60
	色彩学	講義		2					②		②		②		②	浜島 成嘉	61
	音楽表現	演習		2					②		②		②		②	[大串 和久]	62
	アメリカ文学	講義		2						②		②		②		(平本 幸治)	63
	論説と評論	講義		2						②		②		②		[安井 重雄]	64
	歴史学	講義		2					②		②		②		②	(金子 哲)	65
	日本語表現法	演習		2						②		②		②		[野田 直恵]	66
社 会 系	法と社会	講義		2					②		②		②		②	今井 俊介	67
	日本国憲法	講義		2			△	②		②		②		②	今井 俊介	68	
	人権の歴史	講義		2				②		②		②		②	[中川 智章]	69	
	政治学	講義		2				②		②		②		②	(斎藤 正寿)	70	
	国際関係論	講義		2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	71
	社会学	講義		2				2									
	ジェンダー論	講義		2					②		②		②		②	吉原 恵子	72
	経済学	講義		2					②		②		②		②	(石原 敬子)	73
自 然 系	数学	講義		2					②		②		②		②	(山本 真弓)	74
	物理学	講義		2					②		②		②		②	(湯瀬 晶文)	75
	化学	講義		2					②		②		②		②	[岡本 一彦]	76
	生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	(本多 久夫)	77
	食と健康	講義		2					②		②		②		②	(亀谷 小枝)	78
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②	河野 稔	79
	語 学 系	英語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②	[Michael. H. FOX]
英語Ⅱ		演習		2						②		②		②	[Michael. H. FOX]	81	
英語Ⅲ		演習		2							②		②		②	[Michael. H. FOX]	82
フランス語Ⅰ		演習		2				②		②		②		②		[本多 雄一郎]	83
フランス語Ⅱ		演習		2					②		②		②		②	[本多 雄一郎]	84
ドイツ語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②	[竹内 節]	85
ドイツ語Ⅱ		演習		2					②		②		②		②	[竹内 節]	86
中国語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②	[佟 曉寧]	87
中国語Ⅱ		演習		2					②		②		②		②	[佟 曉寧]	88
韓国語Ⅰ		演習		2					②		②		②		②	[李 知妍]	89
韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	[李 知妍]	90
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2					②		②		②		②	(三宅 一郎)	91
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	講義		2					②		②		②		②	(徳田 泰伸)	92
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2			△	②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(楳本)・(矢野)	93
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2					②		②		②		②	(三宅一)・(徳田)・(楳本)・(矢野)	94
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2					②		②		②				
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②			[有働 壽恵]	95
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		[山本 清美]	96
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②		[山本 清美]	97
就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②	[山本 清美]	98	

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目  
 ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目  
 △は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《教養科目 人文系》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）			

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をええざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011  
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目 人文系》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がり努めてみよう。平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目 人文系》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》

身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から - 1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から - 2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から - 3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拝 神道 仏教
6	仏教美術 - 1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 - 2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 - 1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 - 2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 - 3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 - 4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 - 5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 - 6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 - 7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 課題レポート（100%）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる



《教養科目 人文系》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%  
 レポート・小テストなど10%  
 受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)  
 『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・ 復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・ 心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういうこと?(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人?(性格)	性格という、分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
10	あの人って、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷。《第6章 §2》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振り返り)	これまでの内容の振り返り。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化 I (仏教)				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる (倫理性) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約30%  
 定期テスト 約40% この3項目で評価する。  
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

\*キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

\*キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち 初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

\*日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。  
\*配布する資料が散在しないように整理しておく。  
\*新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

\*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》

- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）			

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけで

はなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような価値観を配分する行為がデザインであるとの視点に立ち、身の回りのものと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

- デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
- デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
- デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建物のかたちと理由	住宅と家族の生活の関わり(建築デザイン)
3	携帯電話が欲しくなるわけ	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法(プロダクトデザイン)
4	なぜ椅子はこんなにたくさんの種類があるのか	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展(プロダクトデザイン)
5	H&MとGAPを比較する	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連(プロダクトデザイン)
6	ウェッジウッドが好きな人は何が好きなのか	クラシックなデザインの系譜(デザインの歴史(1):ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	機械式時計はなぜ復権したか	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(デザインの歴史(2):ルネサンスから新古典様式)
8	モダンの意味	社会の変化とデザインの関わり(デザインの歴史(3):アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	おもしろくない映画がなぜ名画に選ばれるのか	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法(映像デザイン)
10	エコカーに乗らないとだめですか	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト(インダストリアルデザイン)
11	シャネルVSユニクロ	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象(ファッションデザイン)
12	関西人が東京で迷子になってしまう原因	世界の都市における都市形態の決定要因(都市デザイン)
13	床の間は単なる無駄なスペースか	懐石料理と茶室の背景(和風デザインの系譜)
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考文献》

- ・以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
- ・『近代椅子学事始』島崎 信、ワールド・フォトプレス,2002
- ・『北欧デザイン(1)～(3)』渡部 千春、  
グチグラフィック、2004
- ・『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

○予習の方法：シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。○復習の方法：授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。○学期末レポート：「学期末レポート」の執筆を行って下さい。課題は第11週(予定)に提示します。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色か注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのか考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのような色につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

《教養科目 人文系》

科目名	音楽表現				
担当者氏名	大串 和久				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）			

《授業の概要》

歌唱・器楽活動を実践するとともに鑑賞まで範囲をひろげながら、楽しく音楽を表現する力を身に付けていきます。健康な心身をもって各自の可能性を最大限に活かせるよう歌唱を中心とした演習を行います。また、歌唱曲に関連する器楽曲を簡易なアレンジにて電子ピアノ（個人練習とスピーカによる全員合奏）で演習したり、リズムを打ち鳴らしながらの歌唱等、さらに鑑賞を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》

- 歌声を出すしくみを理解し、自分の体で実践したうえで楽曲をのびのびと歌うことができる。
- 簡易なキーボードアレンジの楽曲をパート演奏を重ね楽しく合奏したり、和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。
- 自分以外の人が行う演奏活動や行動を集中して聴き見ることによって一層自分の表現の幅をひろげることができる。

《成績評価の方法》

- ① 欠席が1/3を超える者は成績評価の対象とならない。
- ② 授業点30%（座席指定。真面目で積極的な授業参加を評価）。
- ③ レポート・課題等の提出20%（提出期日厳守）。
- ④ 授業中に実施の小テスト50%（定期試験は実施しない）。小テストは全員の前の実技（歌唱・ピアノ・和太鼓）、筆記を含む。

《テキスト》

『4訂版 歌のミュージックランド 〈楽しい歌とコーラス〉』（教育芸術社）

《参考文献》

- 『The Sound of Music: Piano Duets』（WILLIAMSON MUSIC）
- 『ピアノソロ サウンド・オブ・ミュージック』（ヤマハミュージックメディア）
- 『21世紀の音楽入門 1～7』（教育芸術社）

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。毎回の授業時の実践が一番大切であり、復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問したり図書館やWebで調べる等、各自で対応すること。

《備考》

- 1. 遅刻・早退は20分まで出席（減点）扱い。
- 2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁（発覚時は減点）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。ラップ等の芯2本と空き箱を6回までに用意。発声の基本＝呼吸（腹式・胸式）及び発声・響き等の説明と実践。簡易なアンケート調査。
2	歌う～自分の身体のメカニズムを知ろう	前回の説明内容を活かした実践＝呼吸と発声。テキストの中から歌唱。
3	歌う～のびのびと歌おう1 聴き入って見る～鑑賞1	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
4	歌う～のびのびと歌おう2 聴き入って見る～鑑賞2	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
5	歌う～のびのびと歌おう3 聴き入って見る～鑑賞3	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
6	歌う～のびのびと歌おう4 聴き入って見る～鑑賞4	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
7	歌う～のびのびと歌おう5 聴き入って見る～鑑賞5	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。関連曲の鑑賞。
8	歌う～のびのびと歌おう6 聴き入って見る～鑑賞6	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。関連曲の鑑賞。
9	歌う～のびのびと歌おう7 聴き入って見る～鑑賞7	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。関連曲の鑑賞・総まとめ（筆記テスト）。
10	やさしいアレンジで弾こう1 和太鼓を打ち鳴らそう1	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
11	やさしいアレンジで弾こう2 和太鼓を打ち鳴らそう2	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
12	やさしいアレンジで弾こう3 和太鼓を打ち鳴らそう3	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
13	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう1	全員の前で一人1曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
14	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう2	全員の前で一人1曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
15	総合復習とレポート提出	I期の総まとめとレポート作成・提出。

《教養科目 人文系》

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（1830－60）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テキストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	1776年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	1800年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家 Emerson	Ralph Waldo Emerson（1803－82）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家 Thoreau	Henry David Thoreau（1817－62）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家 Hawthorne	Nathaniel Hawthorne（1804－64）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter（1）	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter（2）	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家 Melville	Herman Melville（1819－91）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick（1）	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick（2）	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。



《教養科目 人文系》

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）			

《授業の概要》

現代に関する、教育、社会、芸術などさまざまな文章を読み、それぞれの論者の考え方を理解し、それに対する自らの意見を述べる。文章は、新書本、雑誌、新聞などのものを用いる。ひとつのテーマについて、3～4回の授業を行う。

《テキスト》

毎回、コピーを配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文章をしっかり読み、他人の多様な考え方について理解し、その上で自らの意見を述べるができる。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読して授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業回数（15回）の3分の2（10回）以上出席しないと単位を認定しない。その上で、授業中に行う評論についての意見文の提出（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
13	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
14	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

歴史って、嫌だよな。奇々怪々な暗記にウンザリしたよね。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよな。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからね。覚えるんじゃないで、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない 思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》

1. 時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。2. 現代人の魂の根底に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気づき、共感することができる。3. 人間の価値感の根底にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジюме（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》

なし

《参考文献》

勝俣鎮夫『戦国時代論』←学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。／網野善彦『増補 無縁・公界・楽』←必読教養書。危険な内容。／橋爪大三郎『はじめての構造主義』←「柔らかか頭」のための基本書。／今村仁司『排除の構造』←頭痛に襲われたいという方へ。／『週間朝日百科 日本の歴史』←前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場 1	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場 2	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場 3	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁 1	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁 2	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランシス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括 1	全体を振り返る
15	総括 2	全体を振り返る

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

- 論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
- 状況に応じて用語を使いわけできる。
- 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
- 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009  
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986  
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までに仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《教養科目 社会系》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する (知識・理解) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる (リーダーシップ)				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道徳、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目 社会系》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法 第3版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下での平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目 社会系》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>			

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。  
差別を見抜く力を身につけましょう。  
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。  
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》

共生教育のすすめ 仲田 直  
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡  
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目 社会系》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目 社会系》

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化



科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1)ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

- 毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
- 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ①	(適宜、学習内容を提示します)
7	女の時間／男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間／男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ②	(適宜、学習内容を提示します)
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ③	(適宜、学習内容を提示します)
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編  
(2005, 有斐閣)

《参考文献》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）  
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）  
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）  
 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）  
 『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3)毎回のレジメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。  
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて 考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について 考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について 考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をういて考察します。
12	「市場の失敗」について 考えよう (3)	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方をういて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について 考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目 自然系》

科目名	数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

毎時間始めに計算問題のトレーニングを行う。  
 毎時間のように違ったトピックを取り上げ、高校までの数学とは違った角度から講義を行い、一般教養を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活にも役立つ計算力を身につける。  
 数学を通じて「考える力」、「集中力」、「論理力」を身につける。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。  
 予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直しておくこと。次回の復習テストに備えておくこと。

《成績評価の方法》

試験（80%）、毎回の授業の前後に実施する小テスト（20%）

《備考》

毎時間遅刻せずに出席すること。  
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	数について	自然数、整数、有理数、実数を理解する。
2	循環小数について	有理数、無理数を小数で書き表すとどのようになるかを理解する。
3	最大公約数、最小公倍数	素数、素因数分解を理解し、最大公約数、最小公倍数の計算をできるようになる。
4	計算を速く行う方法	因数分解を用いれば速く計算できる方法などを学ぶ。
5	指数計算	指数に関する定義や指数法則を知り、指数計算ができるようになる。
6	検算	検算が速くなる方法などを知る。
7	数学の雑学（1）	フィールズ賞、円周率 $\pi$ についてなどを知る。
8	数学の雑学（2）	地震のマグニチュードと震度の意味の違いなどについて知る。
9	数学の雑学（3）	数の単位や白地図の色分け問題などについて知る。
10	数学の雑学（4）	5次方程式の一般解の公式は、存在しない話題などを知る。
11	利子	複利計算を理解する。
12	数列	数列の定義を理解し、等比数列についてより深く学ぶ。
13	等比数列の和	まず記号 $\Sigma$ の意味を理解し、等比数列の和を計算できるようになる。
14	借金の計算	10日で1割の利子がつき、10日ごとに1万円ずつ借り続けると100日目にはいくらの借金になるかなどの計算ができるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

近年、自然科学分野のみならず、幅広い分野において物理学的な世界観が取り入れられ、それらの分野の理解のためにも物理学の考え方は重要となっている。

この授業では物理の考え方を知らず、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み(20%)、レポート及びペーパーテスト等(80%)により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。

《参考文献》

- ①『物理学とは何だろうか(上・下)』朝永振一郎 岩波書店
- ②『おもしろい物理学(本編・続編・続続編)』ペレリマン 社会思想社現代教養文庫
- ③『研究者のための上手なサイエンス・コミュニケーション』英国物理学会監修 東京図書
- ④『物理入門コース』全10巻 岩波書店
- ⑤『非平衡系の秩序と乱れ』沢田康次 朝倉書店

《授業時間外学習》

毎回の授業の復習を行うこと、特に例題などを自分の頭で考え、計算してみることを。

機会を見つけて授業での考え方を実生活の中で実践してみることを。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定(大切なので履修希望者は必ず出席のこと)
2	物理の考え方(1)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(1)
3	物理の考え方(2)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(2)
4	力学の初歩と基本定理(1)	サンプル実験1 静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理(2)	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理(3)	加速度と運動方程式(1)
7	力学の初歩と基本定理(4)	加速度と運動方程式(2)
8	力学の初歩と基本定理(5)	サンプル実験2 運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理(6)	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学(1)	光や波の性質について(1) 光や波の基本的性質を考える、サンプル実験3
11	電磁気学(2)	光や波の性質について(2) 身の回りの現象を考える
12	相対論	時空間4次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習(1)	問題演習と実験
15	総合演習(2)	これまでのまとめ

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①. 10問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。 ②. 10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。 ①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせて、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E. F. Neuzil 著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J. E. Brady, G. E. Humiston 著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」東京化学同人。（1991）J. N. Spencer, G. M. Bodner, L. H. Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造 I	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造 II	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造 III	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造 IV	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造 V	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造 I	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造 II	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造 III	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態 I	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態 II	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液 I	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液 II	溶液の性質の続き。
13	化学反応 I	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応 II	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応 III	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期、II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつけられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》

生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。全回出席が原則。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつけられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたなら細胞は死ぬ。組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的增加（指数関数）の増加のものをすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きていだけであるのに、主体性がある、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナプスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的ふるまってもできてしまう関係である。

《テキスト》

使わない。図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。  
 『細胞の分子生物学』 アルバーツ他著、  
 『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、  
 『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他編（南江堂）
- 「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編（学文社）
- 「私たちの食と健康」 吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を発展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

- 読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
- 各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
- 口頭発表の資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成できる。

《成績評価の方法》

- 課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。
- 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理（ここまで）のふり返し
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	学習のふり返し

《テキスト》

- 授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
- その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》

- 矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
- 奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。
- その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。



《教養科目 語学系》

科目名	英語 I				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅲ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語 I				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿・形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（どんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語Ⅱ				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） <input checked="" type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、Ⅰ期に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令・依頼の表現	様々な状況でひとに命令・依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語 I German I				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベット、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編 1	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語Ⅱ German II				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編 2	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法 1	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法 2	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編 1	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編 2	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編 3	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編 4	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 1	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 2	動詞の人称変化。

《教養科目 語学系》

科目名	中国語 I				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞 ・ 助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習



《教養科目 語学系》

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語 I				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』  
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
『パスポート朝鮮語小事典』  
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
『韓国語を学ぶII』  
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音+母音の後に来る子音、支えろと意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니체）、～は（助詞）について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요체）、～が（助詞）について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も（助詞）について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に（助詞）について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で（場所+에서）を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語Ⅱ				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社、2011年  
 韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。  
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

《参考文献》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。  
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。  
 健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力” を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間与えるテーマに対するミニレポート (50%)  
 受講に取り組む姿勢等の平常点 (20%)  
 学期末に課題に対するレポート (30%) の総合で評価する。

《授業時間外学習》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦 (大修館書店)  
 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著 (杏林書院)  
 『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他 (杏林書院)  
 『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫 (市村出版)

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する (その1)。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する (その2)。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解)				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考文献》

○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) ○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) ○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) ○『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題

小テスト(20%)各分野の学習後に課すレポート課題(6

0%)平常点(20%)

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5 週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1 年 I 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自 1 日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	1 0 週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだロジック入門』(宮下充正(大修館))

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだロジック入門』(宮下充正(大修館))

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞  
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
＜復習方法＞  
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
随時テーマに対するレポート提出(20%)  
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目 キャリア系》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） <input checked="" type="radio"/> 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つようとする態度（社会的責任）			

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、（1）自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。（2）長期に亘るキャリアについて考える。（3）経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

（1）家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。（2）ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。（3）生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。（4）収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- （1）筆記試験 50%
- （2）課題提出物 30%
- （3）授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

（1）大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 （2）矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 （3）最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 （4）スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- （1）次回のプリントを読んでおくこと
- （2）「読む力」の課題をしておくこと
- （3）新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- （1）毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える (1)	生活経営とは何か
2	生活を考える (2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活 (1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活 (2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択 (1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択 (2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択 (3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択 (4)	職業の選択とライフロール（映画の場面から考える）
9	キャリア発達理論 (1)	職業キャリアからライフキャリアへ（スーパー）
10	キャリア発達理論 (2)	組織におけるキャリア発達（シャイン）
11	キャリア発達理論 (3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶことの大切さ（クランボルツ）
12	キャリア発達理論 (4)	転機へのアプローチ（シュロスバーグ）、視点の変化（ハンセン）
13	生涯学習の必要性 (1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性 (1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り



《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力 I				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する (情報収集力) ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う (応用力) ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力) ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる (リーダーシップ)				

《授業の概要》

コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。自らの行動パターンの分析を通し対人折衝能力を高めます。スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》

学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目指します。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム1単位「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

平常点 (授業参加態度を重視する) ・発言を奨励：40%  
 授業中に実施するレポート及び実技試験：60%  
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》

プリント資料 (講師作成)  
 テキストは使用しない

《参考文献》

ホスピタリティの教科書：林田正光 あさひ出版  
 あいさつの教科書：挨拶教育研究会 中経出版  
 あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク 草思社  
 日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する (総合的判断力・実践力) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)				

《授業の概要》

過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識一言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《テキスト》

最新最強のSPIクリア問題集13年版：成美堂出版  
プリント資料（講師作成）

《参考文献》

筆記試験の完全攻略  
内定ロボット 日経ナビ&就職ガイド編集部  
  
フィンランドメソッド実践ドリル  
諸葛正弥 毎日コミュニケーションズ

《授業の到達目標》

本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力一言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。  
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40%  
筆記試験：60%  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	SPI非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なSPI基礎知識を知る
2	SPI検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・SPI言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	SPI検査対策	SPI言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	SPI検査対策	SPI検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び3級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び2級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだSPI非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にSPI検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書1	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書2	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書3	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する (知識・理解)</li> <li>◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力)</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力)</li> <li>○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる (リーダーシップ)</li> </ul>				

《授業の概要》

社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《テキスト》

はじめてのビジネスマナー  
株式会社 同友館発行 著者 東条文千代

《参考文献》

ビジネス基本ルール120：PHP研究所  
日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業の到達目標》

「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。  
同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。  
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40%  
筆記試験（記述式）：60%  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身につける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する5つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身につけるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書1	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書2	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本—為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	認定 士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成24年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専門基礎科目	人間の生物的功能と反応	講義	2		○	◆			2								[村田 幸生]	103
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◆		□	2								北島・琴浦	104
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◆			2								吉原 恵子	105
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○	◇			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					2								
	美と感性	講義		2					2								浜島 成嘉	106
	法学	講義		2					2								[塩見 佳也]	107
	生涯学習社会とライフデザイン	講義		2									2					
	行政法	講義		2					2								[塩見 佳也]	108
	家族社会学	講義		2						2								
	家族福祉論	講義		2							2							
	発達心理学	講義		2				▲	■	2							[松田 信樹]	109
	社会心理学	講義		2					■	2								
	演習Ⅰ	演習	4							4							吉原、稲富	110, 111
演習Ⅱ	演習	6								6								
一般科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△		2								牧田 満知子	112
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△		2								牧田 満知子	113
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇					2							
	社会調査の基盤	講義	2		○				2								田端 和彦	114
	社会調査の応用	講義	2							2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○		△			2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義	2		○		△				2							
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	2		○	◇	△				2							
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○	◇					2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義	2		○	◇						2						
	保健医療サービス	講義	2		○	◇						2						
	医療ソーシャルワーク	講義	2										2					
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2		○	◇						2						
権利擁護と成年後見制度	講義	2		○	◇								2					
福祉行財政と福祉計画	講義	2		○	◇							2						
ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△				4								
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△					4							
ソーシャルワーク基礎演習	演習	2		○	◇	△					2							
社会福祉特別演習	演習		4											4				
卒業演習	演習		6												6			
ソーシャルワーク基礎科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2	○		△			2								
	就労支援の制度とサービス	講義		2	○							2						
	介護概論	講義		2			△					2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1		○		△		2								田端、井上、高橋	115
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1		○		△				2							
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1		○		△						2					
	ソーシャルワーク実習	実習	4		○		△						12					
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△						4					
ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△							4					

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度(2012年度)入学者対象

( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等学 校教諭 福祉	理 士 認 定 心	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ	
			必修	選択					1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 基 盤 科 目	地域ソーシャルワーク実践	演習		2															
	成人教育と地域発展	講義		2															
	更生保護制度	講義		1	○														
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○														
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	講義		2		◇					2								
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	講義		2		◇					2								
	精神障害者の生活支援システム	講義		2		◇						2							
	精神疾患とその治療Ⅰ	講義		2		◇		■			2								
	精神疾患とその治療Ⅱ	講義		2		◇		■			2								
	精神保健の課題と支援Ⅰ	講義		2		◇						2							
	精神保健の課題と支援Ⅱ	講義		2		◇							2						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	講義		2		◇						2							
	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	講義		4		◇							4						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	講義		4		◇								4					
	精神科ソーシャルワーク演習	演習		4		◇									4				
	精神保健福祉援助実習指導	実習		3		◇										6			
精神保健福祉援助実習	実習		4		◇											12			
インターンシップ	実習		4													12			
教 育 門 科 目	レクリエーションワーク	講義		2						2								[井上 真美子]	116
	人間関係論	講義		2						2								琴浦 志津	117
	親子関係の心理学	講義		2							2								
	健康心理学	講義		2							2								
	集団心理学	講義		2								2							
	コミュニケーション心理学	講義		2							2								
	教育心理学	講義		2			△				2								
	認知心理学	講義		2							2								
	心理統計学	講義		2				□			2								
	臨床心理学	講義		2							2								
	心理学研究法	講義		2					□		2								
	心理学基礎実験	実験		2								4							
	心理学研究実習	実験		2									4						
	心理療法	講義		2									2						
	心理検査法実習	実習		2									4						
	行動分析論	講義		2										2					
加齢及び障害に関する理解	講義		2					△					2						
人体の構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2					△					2						
福祉工学	講義		2											2					
まちづくり論	講義		2											2					
国際福祉論	講義		2												2				
スクールソーシャルワーク	講義		2												2				
仏教と社会福祉	講義		2												2				
社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2							②	②	②	②				不開講		
社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2							②	②	②	②				不開講		

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度（2012年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	認定心理士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者	
			必修	選択					1年		2年		3年		4年		平成24年度の担当者	ページ
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教職に関する科目	教職概論	講義		2			△		2								[上寺 常和]	118
	教育原理	講義		2			△		2								(廣岡 義之)	119
	教育制度論	講義		2			△		2								(廣岡 義之)	120
	教育課程論	講義		2			△			2								
	福祉科教育法	講義		4			△				4							
	特別活動論	講義		2			△				2							
	教育方法・技術論	講義		2			△				2							
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			△				2							
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△	■	2								琴浦 志津	121
	事前・事後指導	演習		1			△						1					
	高等学校教育実習	実習		2			△							4				
教職実践演習（高）	演習		2			△								2				

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

科目名	人間の生物学的機能と反応				
担当者氏名	村田 幸生				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

医療は現在、多くの問題に直面している。医者不足や医療費など制度やハード面で語られることが多い。しかし医療の専門が細分化した現在、それらを各論としてとらえるのではなく、「医療とは何か」「健康とは何か」という原点に返り、死生観、医療の目的などソフト面を重視して講義する。各テーマにつき、毎回私の医師としての体験談も紹介する。自分たちの将来の「健康」の中における役割と目的を考えてほしい。

《授業の到達目標》

現代社会における医療・医学・介護・看護システムおよびその問題点を学習する。自分が将来これらに仕事として携わる時に、何を目的とするのか、「考える」ことのできることを授業全体の目標とする。

《成績評価の方法》

学期末に筆記試験を行う（全評価の90%）。第9週にて、レポートの提出を求め、評価を行う（全評価の10%）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の医療観、死生観	過剰な健康ブームおよび病院での死が受け入れられなくなった日本人の健康観、死生観について考える。
2	生活習慣病の治療	日本で急増中の生活習慣病の治療、およびその難しさについて考える。
3	がんの治療	日本のがん治療、とくに医者の間でも賛否両論の抗がん治療について考える。
4	医療と栄養	経管栄養はよくないことなのか？ 高齢者は口から食べられなくなった時、どうするか？などについて考える。
5	医療におけるコミュニケーション	医者の説明はなぜわかりにくいのか？「説明」する難しさについて考える。
6	日本の介護制度	日本の介護制度およびその問題点について考える。
7	救急医療の問題点	なぜ救急受け入れ不能が起こるのか？について考える。
8	地域診療の問題点	なぜ地方は医者不足なのか？について考える。
9	医療経済（医療はサービスか？）	医療はサービス業足り得ない現場のジレンマについて。
10	医学の研究とは	医療における研究の意義と目的について。
11	健康食品、民間療法とは	医療の中における健康食品、民間療法の位置づけ。
12	医療ミスとは何か	日本の医療事故、医療訴訟の問題点について考える。
13	和魂洋才と現代医療（1）	医療における日本人のあうんの呼吸とプラス思考について。
14	和魂洋才と現代医療（2）	現代医療では和魂洋才がうまくいかない理由を考える。
15	ロスタイムライフ論	医療、介護の目的、「老い」「健康」の意味について考える。

《テキスト》

特になし。各回プリントを配布する。

《参考文献》

- ①『医療の限界』小松秀樹著（新潮新書）
- ②『スーパー名医が医療を壊す』村田幸生著（祥伝社新書）
- ③『平穩死のすすめ』石飛幸三（講談社）

《授業時間外学習》

講義中に提示した医療、健康に対する考えを、みなさんのお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんにも話してあげて、感想をまた授業やレポートでフィードバックしていただければ幸いです。

《備考》

おそらくみなさんの「健康」「栄養」「老い」に対する考えは、これから毎年変化してゆきます。将来「あの時の話、これのことだったのかな」と思い出していただければ幸いです。



科目名	人間の心理・社会的機能と支援				
担当者氏名	北島 律之・琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる （共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考文献》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 教養科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《成績評価の方法》

筆記テスト60% レポート・確認テスト等20% 受講態度20%

《備考》

本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学の歴史と分野
2	教養科目「心理学の復習」①	性格、感情
3	教養科目「心理学の復習」②	欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知
4	教養科目「心理学の復習」③	学習・記憶、知能・創造性・思考
5	確認テスト	これまでのテーマ内容の確認テスト。後半は解説。
6	人間環境と集団	社会的認知、集団、福祉現場とのかかわり
7	対人交流とコミュニケーション	コミュニケーションの特徴、自己表現の方法(アサーション)
8	脳とこころ(第12章)	脳の損傷とこころの世界
9	発達の概念①(第9章)	子どもの発達心理学とこころの発達心理学
10	発達の概念②(第9章)	生涯発達心理学をめぐって
11	適応とストレス①(第10章)	ストレスと身体、ストレスに関する心理学的理論
12	適応とストレス②(第10章)	ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復
13	面接・見立て(第11章)	ソーシャルワーカーの見立ての面接と様々な心理テストに関する知識
14	心理療法(第11章)	ソーシャルワーカーの面接と様々な心理療法
15	まとめ	全体のふりかえりと確認テスト

科目名	社会理論と社会システム				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）				

《授業の概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について社会理論の専門用語によって体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会理論と社会システム』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕（2010, 中央法規出版）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できるようになる。
- (2) 人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できるようになる。
- (3) 社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- ミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
- 学習のまとめにより学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、社会学とは何か〔理論社会学、社会学の隣接領域、近代社会〕、個人と社会、社会学と社会福祉
2	社会学イントロダクション(1)－社会システム－	自己、アイデンティティ、ステレオタイプ、文化・規範、価値／意味、行為と行動、社会
3	社会学イントロダクション(2)～(3)	－法と社会システム－（法と社会規範、法と社会秩序） －経済と社会システム－（市場の概念、交換の概念、労働の概念、就業形態）
4	人と社会の関係 (1)	行為論：行為の種類と類型、欲求、準拠集団、秩序問題、社会的行為論の展開、役割演技と
5	人と社会の関係 (2)	役割論：地位と役割、社会規範、社会化、役割葛藤、ダブルコンティンジェンシー
6	学習のまとめ①	学習内容を適宜提示する
7	社会集団と組織	社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織、インフォーマル・グループ、社会的ジレンマ、個人的合理性と社会的合理性、規範意識
8	地域	地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化
9	家族	家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能、ジェンダーの視点
10	学習のまとめ②	学習内容を適宜提示する
11	生活の理解	生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質
12	社会変動と人口変動	社会変動の概念、近代化、人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化
13	社会問題の理解 (1)	社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題
14	社会問題の理解 (2)	共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワーク、エンパワメント
15	学習の総まとめ③	学習内容を適宜提示する

科目名	美と感性				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

私達は音楽や絵画を鑑賞したり、美しい風景を見て感動することがあります。何故美しいと感じるのか、感動することは私達の人生にどのような意味があるのか、またそれは生きるための根源的な力となりえるのかを考えます。

《テキスト》

使用しない。（プリント資料を配付する）

《参考文献》

『理性と美的快楽』ジャン＝ピエール・シャンジュー著  
岩田誠・監訳

《授業の到達目標》

感性が豊かであるということは、人生において豊かな生涯を送ることができます。それは何故なのか？感性とはなにか、美を感じることはどのような意味があるのかを学びます。

《授業時間外学習》

音楽、絵画、風景等々で感動したことをメモしておくこと。

《成績評価の方法》

- ・ 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。
- ・ レポート課題（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	感性とは	美しさを感じる心について。
2	感性のメカニズム	感覚との関係から感性を考える。
3	知覚と感情	感動する心をもつということの意味（アウシュビッツ収容所の例から）
4	感性と情操	感性、感覚、情操について理解する。
5	美の法則	美はある一定の法則によって成り立っている。
6	自然と美	山・海・空・雲・花等々自然の中に美を発見する。
7	日本の美意識	世界に誇る日本の美の原点について考える。
8	西洋の美意識	日本の美と西洋の美を比較し、その違いを理解する。
9	美は役に立つのか	老子と弟子との問答から考える。
10	美は何故必要なのか	しなやかな心をもつという事とは。
11	美と生きることの係わり（Ⅰ）	美を感じ生きることと精神性について。
12	美と生きることの係わり（Ⅱ）	豊かなとは。
13	感性を育む	“ねむの木学園”の子供たちの絵の表現から考える。
14	感性について	アウトサイダー・アート（知的障害者の個性的な絵）から感性について。
15	豊かな人生と感性について	本当の豊かさとは何かを考える。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	法学				
担当者氏名	塩見 佳也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

社会人として生活や社会問題の理解に必要な法的基礎知識（法リテラシー）の習得につとめる。現実にはルールに沿っていないのか・現実がルールによってどうかかわってゆくかを具体例から理解する。

《授業の到達目標》

- ①法的なものの見方・考え方の基本を身につける。
- ②社会福祉士試験科目法学のうち、憲法・民法についての基礎知識を身につける。
- ③日常生活の基本的な法的知識を身につける。
- ④裁判の手続きの概要を理解する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（50%）＋小テスト（30%）＋レポートなどの課題（20%）

《テキスト》

杉光一成『理系のための法律入門（全訂第7版）』法学書院、2011（2400円）

《参考文献》

精神保健福祉士・社会福祉士養成セミナー 法学（出版社不問）  
 携帯に便利で学習に必要な六法を紹介するので、必要に応じて購入する（1000円程度）

《授業時間外学習》

- ①教科書の予習で内容を理解する必要はないが、キーワードと思うところをチェックしておいてほしい。授業ではキーワードのマークを指示する。
- ②授業内容に関連する事柄について、新聞や身近な事例などを調べる。

《備考》

行政法科目を併せて履修すること。2年次以降成年後見、権利擁護を併せて履修すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	法学で学ぶこと - 国家試験科目「法学」とこの授業の関連について
2	法学の基礎	法学を学ぶ上での共通の約束事 - 法律・判例・学説のやくわり -
3	憲法①	①基本的な人権の種類や法的なはたらきを理解する ②社会福祉と人権の関わりを理解する
4	憲法②	統治機構（国会・内閣・裁判所）の基本的な役割を理解する
5	民法①	財産法上の「人」（未成年者、法人、代理人、消費者）をめぐる法リテラシーを理解する
6	民法②	①契約をめぐる基本的な法リテラシーを理解する ②社会福祉士などの活動との関連を理解する
7	民法③	お金や不動産の貸し借りをめぐる基本的な法リテラシーを理解する
8	民法④	損害賠償をめぐる基本的な法リテラシーを理解する
9	民法⑤	結婚や相続に関する基本的な法リテラシーを理解する
10	民法⑥	権利の実現手段や法的紛争の相談について基本的な法リテラシーを理解する
11	刑法	犯罪とその処罰をめぐる基本的な法リテラシーを理解する
12	はたらく現場と法	労働基準法などはたらく場面での基本的な法リテラシーを理解する
13	民事裁判と法	裁判や裁判所以外での法的な紛争の解決手段について基本的な法リテラシーを理解する
14	刑事裁判と法	①犯罪の捜査から刑罰の実行までのながれを理解する ②裁判員制度について基本的な仕組みを理解する
15	補充説明とまとめ	授業で扱えなかった問題についての補足、授業内容についての確認

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	行政法				
担当者氏名	塩見 佳也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>			

《授業の概要》

社会福祉、都市計画など日常生活にかかわる行政の活動の仕方・行政組織・公務員制度・地方自治・行政と裁判の関係などを、法的観点から理解することをめざす。法学と併せて受講することが望ましい。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー教科書『法学』『福祉行財政と福祉計画』（出版社不問）  
桜井敬子『行政法のエッセンス』（学陽書房、2010）

《授業の到達目標》

- ①行政の活動の仕方を理解できる。
- ②行政組織の概要を理解できる。
- ③地方自治制度の概要を理解できる。
- ④行政活動に問題がある場合への法的救済を理解できる。
- ⑤社会福祉士がかかわる行政活動を理解できる。

《授業時間外学習》

予習と復習。毎回質問時間を設ける。授業のテーマと関連する新聞・ニュースなどの記事をチェックし、質問に答えられるようにしておく。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（50%）＋小テスト（30%）＋レポートなどの課題（20%）

《備考》

「福祉行財政と福祉計画」を履修すること。行政法は2年・3年次専門科目の入門編ともなる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 「行政法」で学習すること	①この授業を通じて何を学び、何についてどのような知識を身につけるかを説明する。 ②「行政法」という法の特徴や考え方について概説する。
2	行政法の全体像と基本的な「思想」	①行政法の全体像を解説する。②行政法の成り立ちと変化について解説し、それが「民主主義」とどう関係しているかを理解する。
3	「法令」と「法律」はどう違うのか	①法律と「〇〇法施行規則」のようなルールの違いを理解する。②法律の成立のプロセスや特徴について理解する。
4	立法・司法の関係のなかでの「行政」の位置	①「行政」とはどのような機関によりどのような活動を行っているのかを理解する。②「内閣」の働きについて理解する。
5	行政の活動の仕方A	行政の活動の仕方の基本（行政行為）の意味を理解する。
6	行政の活動の仕方B	20世紀以降に特徴的な行政の活動の仕方を理解する。
7	行政計画と行政指導	行政計画と行政指導による現代的な行政の活動の仕方について理解を深める。
8	行政の命令に逆らうとどうなるのか	行政活動を実効的に行うための行政の「武器」を理解する。
9	行政における「情報」	情報社会の中で行政における「情報」がもつ意味を理解する。
10	行政の活動の仕方C	「給付行政」という福祉活動に典型的な現代的な行政の活動の仕方を理解する。
11	行政に対する法的救済の仕方A 行政争訟①	①「行政不服申立て」手続きを用いる場合を理解する。②この手続きの結果を理解する。③社会福祉の場面でどのように関係するかを理解する。
12	行政に対する法的救済の仕方B 行政争訟②	「行政事件訴訟法」による救済の仕方の概要を理解する
13	行政に対する法的救済の仕方C 行政争訟③	①取消訴訟が用いられる場合を理解する。②社会福祉の場面でどのように関係するかを理解する。
14	行政に対する法的救済の仕方D 国家賠償	「国家賠償法」にもとづく法的救済の条件について理解する。
15	行政に対する法的救済の仕方E 損失補償	日本国憲法29条3項にもとづく「損失補償」について理解する。

科目名	発達心理学				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

人間の一生にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。
- 発達障がいに関する正しい知識・理解の仕方を習得すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%  
欠席回数が全授業回数の3分の1を上回った学生は成績評価の対象としない。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考文献》

- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010
- 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達心理学への招待	発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達・成長することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達～その1	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期の発達～その2	幼児期の知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	児童期の発達～その3	第11回目の学習内容を受けて、モチベーションの低下に対する対応策を中心に学ぶ。
13	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
14	成人期の発達	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
15	発達のつまずき	発達障がいに関する基礎的事柄について学ぶ。

科目名	演習 I (I期分)				
担当者氏名	吉原 恵子・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる (分析力、プレゼンテーション力)				

《授業の概要》

- (1) 大学生生活に慣れる
- (2) 大学での学び方を学ぶ
  - ・自分の時間を管理できる
  - ・ノートテイキングのコツを説明できる など
- (3) スタディスキルを身につける
  - ・レポートの書くことができる
  - ・基本的なプレゼンテーションスキルを説明できる など

《授業の到達目標》

本演習は、大学ではじめて学ぶ者が、(1) 学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2) 大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3) 4年間の見通しをもって専門教育への準備ができるようになること、また、学生生活を自分自身で設計できるようになることを目的としている。この演習は少人数で構成され、相互に交流をはかりながら、個々の能力を開発し発揮することをめざす。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加態度およびグループ活動への参加 (配点：意欲・関心、協力性45点)
- ・課題、提出物 (配点：知識とスキルの獲得度55点)
- ・1/3以上の欠席があれば評価の対象としない。
- ・課題提出が遅れた場合は減点対象とする。

《テキスト》

『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』吉原恵子・間瀬泰尚・冨江英俊・小針誠 (2011、実教出版)

《参考文献》

『知へのステップ (改訂版)』学習技術研究会編 (2007、くろしお出版)  
 『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美 (2005、くろしお出版)  
 『大学生の学び・入門』溝上慎一 (2006、有斐閣アルマ)

《授業時間外学習》

ほぼ毎回課題が出されるので、提出要領にしたがい、指定期日・提出場所を守って提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション/ 大学生生活全般	①自己紹介 ②アイスブレイキングほか ③オリエンテーションおよびフレッシュマンキャンプのフォローアップ
2	大学や学部学科について/ 学習方法について	①大学とはどんなところ ②学部や学科とはどんなところ ③教員や職員について ④シラバスの活用方法 ⑤効果的な学習方法 ⑥タイムマネジメント
3	大学生生活を設計する/ 卒業までの道のりを知る	①大学生生活の設計と卒業までの道のりを考える ②大学の授業の種類 ③講義の受け方 ④課題提出の方法 ⑤定期試験等の準備と受け方について
4	チーム力を発揮する/ ノートテイキング	①チーム力について ②コミュニケーションスキル ③討議スキル ④ノートテイキングのスキル ⑤講義ノートをとる ⑥ノートテイキングの実際
5	文献・資料の探し方/ 図書館ツアー	①課題解決のための情報収集の仕方 ②図書館の利用方法 ③資料の種類と分類
6	インターネットによる情報 収集/情報の整理	①コンピュータを利用した文献調査 ②インターネットを利用した事項調査 ③情報の保存と整理方法 ④文献リストの作成 ⑤文献リストの活用
7	文献の読み方 (基礎編)	①テキストを読むとは ②専門書の特徴について ③二度読み方式
8	文献の読み方 (応用編)	①深く読むためのスキル (要約する) ②深く読むためのスキル (感想意見をもつ)
9	レポートの書き方 (基礎編)	①レポートの文章の特徴を知る ②レポートの基本的な構成や内容を知る ③レポート作成の手順
10	論文作法	①引用のしかた ②注のつけかた ③参考文献リストの書きかた ④レポート作成の実際
11	レポートの書き方 (応用編)	①わかりやすい文とは ②わかりやすい表現方法とは
12	レポートの書き方 (応用編)	①レポートの原型となる短い文章を書く ②わかりやすい表現方法とは ③レポートを完成させる
13	プレゼンテーションスキル (基本編)	①プレゼンテーションの種類と特徴 ②プレゼンテーションのツール ③話すプレゼン
14	プレゼンテーションスキル (応用編)	①プレゼンテーションツールの活用 ②スライド作成の基本 ③スライドを作る (例：PPTなど) ④読み原稿を作る ⑤リハーサルをする
15	I期のふり返り	①自己目標の確認と達成度の自己評価 ②グループ活動における達成度の自己評価

科目名	演習Ⅰ（Ⅱ期分）				
担当者氏名	吉原 恵子・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

- (1) テーマからトピックを絞ることができる
- (2) レジュメをつくって説明できる
- (3) スライドを用いたプレゼンテーションができる
- (4) ポスターセッションができる
- (5) 1年間の学び（自己の変化や成長）をふり返ることができる

《授業の到達目標》

I 期に引き続き、学習スキルの習得を基本とするが、社会福祉やソーシャルワークをテーマとする課題に取り組みながら、演習Ⅱの準備も行う。とくに、「テーマを設定して、トピックを絞り、情報収集により得られたデータを集約し、整理して表現する」一連の作業を通して、チームワーク力やリーダーシップ力を身につける。こうした学習を通して、ソーシャルワーカーをめざし福祉を学ぶ者に必要な汎用的能力を養う。

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループにおける活動への参加（配点：意欲・関心、協力的45点）
- ・ 課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度55点）
- ・ 規定に基づき1/3以上の欠席があれば評価の対象としない。
- ・ 課題提出が遅れた場合には、減点対象とする。

《テキスト》

『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』吉原恵子・間瀬泰尚・富江英俊・小針誠（2011, 実教出版）

《参考文献》

『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007, くろしお出版）  
 『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美（2005, くろしお出版）  
 『大学生の学び・入門』溝上慎一（2006, 有斐閣アルマ）

《授業時間外学習》

ほぼ毎回課題が出されるので、提出要領にしたがい、指定期日・提出場所を守って提出すること。また、グループ活動については、グループごとの時間管理、役割分担、共同作業について、記録を取り担当教員へ提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Ⅱ期のイントロダクション／夏季休暇課題の発表	①グループ学習を通して身につける力 ②自分の住む地域を知る
2	チームで力を発揮する	①グループやチームで学ぶメリットを知る ②グループを「チーム」にする ③討議スキルでチームワーク力を高める
3	テーマからトピックを絞る	①調べるまえにテーマを絞る ②自分の関心をはっきりさせる ③トピックに沿って情報収集を行なう ④調べたものを整理する
4	レジュメをつくる	①レジュメの使い方とシュルを理解する ②レジュメの作り方 ③さまざまなレジュメの作り方
5	レジュメをつくってみる	①テーマを決めて文献を探す ②収集した情報をまとめる ③レジュメを作成する（課題）
6	レジュメを使って説明する	①レジュメによるプレゼンテーションを理解する ②質疑応答のポイントを学ぶ
7	プレゼンテーション・スキル（上級編）	①情報や資料を整理・分析する ②図解で表現する ③表やグラフを用いて表現する
8	プレゼンテーション・スキル（上級編）	①スライドによるプレゼンテーションの意味を理解する ②プレゼンテーションの内容を考える
9	プレゼンテーション・スキル（上級編）	①聞き手の理解を深めるプレゼンテーションを考える ②読み原稿を作成する ③プレゼンテーションの評価項目を考える
10	プレゼンテーション・スキル（上級編）	①発表を行う ②発表を聴く ③発表を評価する
11	2年次以降の学びを設計する	①コース（履修モデル）の内容について学ぶ ②学習内容と資格取得について考える ③卒業後の進路をイメージする
12	ポスターセッション	①ポスターとは何かを理解する ②ポスターセッションの特徴を理解する ③ポスターを作成する（課題を含む）
13	ポスターセッション	①ポスターを使って発表する ②ポスターセッションを相互評価する
14	地域調査の方法と成果報告の仕方を知る	①演習Ⅱ「コミュニティから学ぶ」報告会に参加する（準備を含む） ②発表内容等についてレポートをまとめる（課題）
15	1年間の学びのふりかえり	①「年間目標の達成度」と「授業におけるがんばり」を確認する ②これまでの大学生生活を自己診断する ③2年次に向けての学習計画や抱負をまとめる



科目名	現代社会と福祉I				
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる （知識・技能の統合）				

《授業の概要》

本講義では社会福祉の理念、理論を中心に、その形成過程、および構造や機能についての理解を深め、社会福祉が直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できることを目的としている。また、VHSやDVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の情報などを適宜取り入れ、受講生の知的好奇心、論理的判断力、および批判的考察力を涵養することを目的としている。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座1 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

『人口減少時代の社会福祉学』小田謙三他編著、ミネルヴァ書房  
 『国民の福祉の動向2011/ 2012』（財）厚生統計協会編

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。
- (2) 福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し説明できる。
- (3) 社会福祉問題を総合的視点に立って論理的に分析し、批判的に思考し、自分なりの解決策を提示することができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、観連図書などの紹介も行う。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）
- (2) レポート課題等の提出物（20%）
- (3) 定期試験（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1年の講義の全体の紹介、講義計画、受講方法（予習・復習、H.Wなど）、社会福祉に関わる基本文献の紹介などを行う。
2	社会福祉の概念（1）	社会福祉を学ぶことの意義、概要を理解する。
3	社会福祉の概念（2）	社会福祉における実態概念、目的概念について理解する。
4	社会福祉の理論（1）	日本（孝橋、岡本ら）、および英国（ティトムス、マーシャルら）の社会福祉理論を理解する。
5	社会福祉の理論（2）	日本の社会福祉の思想家（石井、片山ら）の社会福祉思想を理解する。
6	社会福祉の理念（1）	生存権、Q.O.Lなどの基本的人権に関わる社会福祉理念を学ぶ。
7	社会福祉の理念（2）	ソーシャル・インクルージョン、普遍主義と選別主義など、現代社会における福祉理念を学ぶ。
8	日本の社会福祉の歴史（1）	福祉概念の発祥と近代へと続く展開過程を把握し、日本の社会福祉の構造を理解する。
9	日本の社会福祉の歴史（2）	現代の社会福祉のさまざまな政策が生み出される背景としての歴史を把握する。
10	諸外国の社会福祉の歴史（1）	英国の社会福祉の歴史を把握し、貧困救済と防貧の考え方の展開過程を理解する。
11	諸外国の社会福祉の歴史（2）	ドイツ、アメリカ、北欧の社会福祉の歴史的展開過程を理解する。
12	社会福祉の法と制度（1）	社会福祉六法、社会福祉法について理解する。
13	社会福祉の法と制度（2）	社会福祉に関わるその他の法について理解する。
14	社会福祉の法と制度（3）	社会福祉に関連する法について理解する。
15	I期のまとめ	I期のまとめ。質疑応答によって理解を確実なものとする。

科目名	現代社会と福祉Ⅱ				
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的な好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

本講義では社会福祉の理念、理論を中心に、その形成過程、および構造や機能についての理解を深め、社会福祉が直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できることを目的としている。また、VHSやDVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の情報などを適宜取り入れ、受講生の知的な好奇心、論理的判断力、および批判的考察力を涵養することを目的としている。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。
- (2) 福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し説明できる。
- (3) 社会福祉問題を総合的視点に立って論理的に分析し、批判的に思考し、自分なりの解決策を提示することができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）
- (2) レポート課題等の提出物（20%）
- (3) 定期試験（60%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ニーズと資源（1）	さまざまな社会資源について理解する。
2	ニーズと資源（2）	福祉におけるニーズ問題を把握し、ブラッドショー、三浦らのニーズ論を理解する。
3	福祉政策と社会問題（1）	少子・高齢社会の現状を把握し、さまざまな論点を理解する。
4	福祉政策と社会問題（2）	生活保護の問題を理解する。
5	福祉政策と社会問題（3）	児童・家庭福祉の問題を理解する。
6	福祉政策と社会問題（4）	障害者問題、障害者支援について、自立支援法を中心に理解を深める。
7	福祉政策の論点（1）	効率性と公平性の問題について理解する。
8	福祉政策の論点（2）	自立支援について、生活保護、障害者支援の方向から考察し理解する。
9	福祉政策の論点（3）	福祉に関わるジェンダー・バイアスの問題を理解する。
10	福祉政策の論点（4）	社会的排除、権利擁護の問題について理解する。
11	国際社会と福祉問題（1）	ユニセフ、世界銀行、JICAなどの活動を理解する。
12	国際社会と福祉問題（2）	移動する介護労働力（外国人介護士・看護師）の問題を把握し、論点を理解する。
13	福祉供給と経済（1）	雇用と格差社会の問題について理解する。
14	福祉供給と経済（2）	近代経済学（ケインズ）の視点から、福祉の財政問題について理解する。
15	Ⅱ期まとめ	Ⅱ期のまとめ。質疑応答によって理解を確かなものにする。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座1 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

『人口減少時代の社会福祉学』小田謙三他編著、ミネルヴァ書房  
『国民の福祉の動向2011/ 2012』（財）厚生統計協会編

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確かなものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、観連図書などの紹介も行う。

《備考》

科目名	社会調査の基盤				
担当者氏名	田端和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

量的、質的な調査方法を学び、客観的な事実を表す統計表を読み取るために必要な統計的、または制度上の知識を学びます。また実際に行われた社会調査の役割や限界、手法や注意点などを理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考文献》

授業内で指示をします。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。また統計表を読み取る統計に関する知識を身につけ、地域社会のおかれた状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。3回に1回程度宿題を課しますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉分野で社会調査が必要な背景、国家試験での位置づけなどを説明します。
2	社会調査の歴史1	ブースの貧困調査など社会調査の歴史を振り返り社会福祉での位置づけを行います。
3	社会調査の歴史2	社会調査と関係の深い統計の歴史を踏まえ民主的な公的統計のあり方を学びます。
4	日本の統計制度	日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的統計と質的統計	公的統計など量的調査と観察など質的統計の違いを学びます。
6	アンケート調査1	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解します。
7	アンケート調査2	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
8	アンケート調査3	設問の作り方から、印刷まで、調査票の作成方法を学びます。
9	調査結果の分析1	データの整理と記述統計、集計など基本的な分析を学びます。
10	調査結果の分析2	比率計算など、統計表を読み解く方法を学びます。
11	調査結果の分析3	回帰分析、相関分析など2変数以上の変数についての分析方法を学びます。
12	調査結果の分析4	仮説検定の基本的なことを学び、その概念を理解します。
13	インタビュー1	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて理解します。
14	インタビュー2	インタビューの記述方法について学びます。個人情報保護の重要性を理解します。
15	観察の方法	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I				
担当者氏名	田端和彦、高橋千代、井上浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）				

《授業の概要》

座学としてボランティア論を学び、実際に5日間のボランティア体験を通して、ソーシャルワーカーに必要な自律の精神、奉仕の心、社会の理解を深めます。ここまでが前半部分です。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

ボランティア論についての一定の知識を身につけ、ソーシャルワークにおけるボランティアの重要性を理解します。実際のボランティア体験から、その意義を理解しソーシャルワーカーの自覚が芽生えます。

《授業時間外学習》

ボランティア体験が授業時間外学習です。

《成績評価の方法》

ボランティア先を開拓し、交渉し、実際にボランティアを行うボランティア体験を行うことで60%。ボランティア体験での理解を深め、他者に説明する過程で40%を評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ソーシャルワーク実習指導 I の位置づけ、目的、課題を学びます。
2	ソーシャルワークの原則	サービスと社会正義、人間の尊厳と人間関係等ソーシャルワークの概念を学びます。
3	ボランティアとは何か1	ボランティアの定義と意義、現状などを学びます。
4	ボランティアとは何か2	ボランティアの内容と課題を学びます。
5	ボランティア先とは1	ボランティア先の例として、児童養護施設のビデオを見てその活動内容を理解します。
6	ボランティア先とは2	公的統計などがからボランティアの範囲やその内容を説明します。
7	ボランティア先の内容1	社会福祉施設の概要とボランティアで必要とされる業務を学びます。
8	ボランティア先の内容2	コミュニティ施設や学校でボランティアとして必要とされる業務を学びます。
9	ボランティアの経験者から学ぶ	ボランティアの経験者から、その心得や得たことなどを学びます。
10	マナー講座1	話し方、表情などマナーの基本を学びます。
11	マナー講座2	言葉遣いや電話の掛け方、面接までの連絡方法などを学びます。
12	ボランティア先選定1	ボランティア先を選定します。そのための方法を学びます。
13	ボランティア先選定2	引き続き、ボランティア先を選定します。
14	計画書の作成と記録の方法1	ボランティア体験で何を学ぶかの計画書を作成します。
15	計画書の作成と記録の方法2	引き続き、計画書を作成します。

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	レクリエーションワーク				
担当者氏名	井上 眞美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

子どもから高齢者までのレクリエーションについて理解する。これを基に、福祉領域におけるレクリエーション支援を考えていく。さらに実践を行うことで、より理解をし、レクリエーション支援を集団的援助、個人的援助のあり方について学んでいく。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考文献》

授業中に紹介をする。

《授業の到達目標》

レクリエーションの核は、「自らの、自らによる、自らのための復活・再生」です。従来の余暇活動のみならず、人間性の回復、再創造等広義的に理解することにある。それらレクリエーションの意義とその歴史、使命、制度等の基礎理論をふまえ、レク支援の理解、レク事業の実施計画について学ぶ。

《授業時間外学習》

授業で出された課題についての資料を調べたり、それについて深く考えておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）、レポート（50%）で評価する。

《備考》

授業のなかでは、それぞれの課題についてレポート提出を課す。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	レクリエーションへの取り組み方、成績評価、等を説明する
2	レクリエーションの基礎	レクリエーションのイメージを点検する
3	レクリエーションの理解	人間と社会にとってのレクリエーションの意味
4	レクリエーションの理解	レクリエーション運動の歴史
5	レクリエーション活動と展開	レクリエーション活動の実際と心構え
6	レクリエーション活動と展開	レクリエーション活動のプロセスと展開
7	レクリエーション支援の目標	レクリエーション支援の目指すもの
8	レクリエーション支援の目標	レクリエーション支援の特色
9	レクリエーション支援の目標	レクリエーション支援の対策
10	レクリエーション計画の作成	レクリエーション計画とプログラムを考える
11	レクリエーション計画の作成	レクリエーション計画とプログラムを考える
12	レクリエーション援助の実施	実施上の留意点
13	レクリエーション指導の基礎実技	各グループで援助の方法を実技・演習形式で学習する
14	レクリエーション指導の基礎実技	各グループで援助の方法を実技・演習形式で学習する
15	まとめ	各グループで実践発表をし評価する

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	人間関係論				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

この授業では、「柔らかな心、静かな想い」という子どもの心理臨床家の第一人者である村瀬嘉代子先生の人生を描いたエッセイをテキストにして読んでいく。そしてそこから醸し出され、映し出される人間関係について、各自、自分自身の人生をふりかえりながら、他者の人生への理解をも深めていけるよう学ぶ。

《テキスト》

『柔らかな心、静かな想い 心理臨床を支えるもの』  
村瀬嘉代子著、中井久夫画 創元社1600円＋税

《参考文献》

《授業の到達目標》

人生の各段階をふりかえり、他者の人生を理解する基盤となる視点をもてるようになること。

《授業時間外学習》

人生のひとつひとつの段階をふり返るために、身近な人との関係を大切にし、自分の小さかったころの話を聴いてくること。最後のまとめレポートにまとめるため必要になります。

《成績評価の方法》

受講態度30% 何度かのレポート30% まとめのレポート40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	人間関係、人と人との出会い、本との出会いについて
2	幼い子ども時代	乳幼児期の母子関係
3	自己と他者について	2者関係から3者関係へ
4	発達の節	第一次反抗期
5	幼稚園という外界①	
6	幼稚園という外界②	
7	子どもと親との関係	保護と自律のバランス
8	内観療法について①	
9	人間的な成長	
10	配偶者との出会い	
11	家族の変容	
12	家族の変容	
13	現代の子ども事情	
14	出会いから生まれるもの	
15	全体のまとめ	

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを拒否することまではいかないが迷っている人、教員になりたい人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業の本質である。過去の歴史の問題点を回顧しつつ、その時々々に教育という営みがいかに大きな精神的影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための質的経験を蓄積する授業である。

《授業の到達目標》

教員になるという決意をするために、古典を読む力の要請が必要である。それとともに、その力を応用することができる資質の要請が求められている。そのためには独創性と子どもたちや子どもたちの保護者への教育的サービスを実施することができる能力を養成しなければならない。教員の資質能力としてコミュニケーション力を身につける必要がある。これらのことを認識する必要がある。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加(討論、グループ学習の営み、ディベートなどへの参加)40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之の編著 『新しい教職概論・教育原理』  
関西学院大学出版会 2008年

《参考文献》

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。また、多くの教育関係古典書に接する必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	教職概論の全体像を把握するために、読破しなければならない書籍を紹介し、その読み方、整理の仕方などを紹介し、それらを整理体系化する力の養成に取り掛かる。
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解できる能力を、体験的に養成する。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を明確に理解する能力を身につける。
4	進路指導の意義と課題	教員組織を善く理解し、教員同士の協力とは一体何なのか、キャリア教育の指導とは一体何なのか、そこに求められる教師力とは一体何なのか理解する。
5	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは一体何なのか吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
6	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究することで、教員養成の課題をみつける。教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
7	教員像について	聖職か、労働者か、専門性をもつ専門家と見なすのか、考察することで教師のアイデンティティを探究する。教師像の自ら探究する力を自ら養成する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導、生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考え、教師評価を考察する。
9	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
10	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が公務分掌の中に位置づけられている。副校長に始まり、道徳指導教諭、主幹などが設けられている。分析と解明をする。
11	教師の職場環境	教師の勤務実態、職務上の義務と未分譲の義務、安全管理などについて考察し、課題を明確にする力を養う。
12	教師と地域社会と保護者	モンスターペアレンツの登場により教育現場の混乱はいつそう深刻になっていることを理解し、教師・地域社会・保護者の関係のありようを考察する。
13	各種審議会と教員の資質・能力の向上について	多くの審議会で、教員の資質向上が展開されてきた。それらの中で、特徴がある答申を取り上げて教員の資質・能力の向上について整理し、発展の方向性を考察する。
14	教員免許更新制について	10年ごとの教員免許更新制について、問題点と本来の目的との関わりを評価することを心がけることにする。
15	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の課題は、教員養成の資質・能力の向上が常に主張されるが、改革の留まることは考えられない。今後取り組むべき課題について、自ら見つけ出す力を養成する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ボルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《テキスト》

1. 『ボルノー教育学入門』 広岡 義之著（風間書房）2012年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。  
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講するべきかを理解する。
2	教育の目的と目標 1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標 2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考えることができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてボルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。



《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《テキスト》

1. 『教育の制度と歴史』 廣岡義之編著 (ミネルヴァ書房) 2007年

《参考文献》

(仮題) 『教育用語付教育法規』 廣岡義之編著 ミネルヴァ書房 2012年。

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。  
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが開いたのか？ この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由平等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革 1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革 2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（含カウンセリング）				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられるが、このような問題に対して、日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか？悩む人々と治療者の関係という実践の中から生み出された臨床心理学の理論は、人と人との関係が希薄だといわれる現代人にとって新鮮であるかもしれない。このような臨床心理学理論を学び自分なりの気づきや視点をもてるように学ぶ。

《授業の到達目標》

カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになる。自分自身のこころに焦点をあてそこに耳を傾けられるようになること。子どもたちを取りまく様々な問題のサインを見逃さず、自分なりの視点を持てるようになること。

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト等20% 授業内容の理解50%

《テキスト》

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

《参考文献》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』  
滝口俊子・田中慶江編 創元社1400円＋税  
『特別支援教育のための100冊』  
特別支援プロジェクトチーム 創元社1800円

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。リストの中から自分の最も興味ある1冊を選んで手書き・用紙問わず5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ひとの話を聴くということ、その心得について
2	カウンセリングの基礎理論	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について
3	カウンセリングの基礎技術	DVD 「初回面接での信頼関係の確立」から学ぶ
4	カウンセリングの実習	簡単なロールプレイを経験して、日常の自分自身の話を聞く態度などをふりかえってみる
5	こころの世界を取り扱うには	相談に来た人が、自由に思いついたことがいえる雰囲気をつくるにはどのようなことに留意すべきか
6	自分のこころをみつめる①	「フォーカシング」の理論
7	自分のこころをみつめる②	「フォーカシング」の体験
8	こころの発達理論	関係性の発達を知り、思春期以降の子どものこころの問題を理解しやすくする
9	子どもたちが育つ環境の問題	大人たちが子どもの成長を妨げている事例について考える
10	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題	軽度発達障害についての理解を深める
11	箱庭療法の理論	箱庭療法が生まれた背景と理論について理解を深める
12	箱庭療法から心の治癒過程を知る	DVDに表現された子どもの箱庭療法の事例をみることによって、心の治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師にできることとできないことは何か、専門機関にリファーするにあたって教師にできることは何か
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりに考える
15	まとめ	この授業で学んだことをふり返り、今後活かすべきことは何か考える



平成 23（2011）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 基 礎 教 育	法学	講義		2					2									
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2					2									
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2						2							(森田 義宏)	127
	生涯学習論	講義		2					2									
	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◇			2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇			2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					2							(竹内 一夫)	128
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2						(竹内 一夫)	129
	美と感性	講義		2					2									
	ライフデザイン論	講義		2										2				
	行政法	講義		2					2									
	家族社会学	講義		2						2							(竹内 一夫)	130
	家族福祉論	講義		2							2						高橋 千代	131
	発達心理学	講義		2			▲				2						松田 信樹	132
	人間関係論	講義		2							2						(森田 義宏)	133
	親子関係の心理学	講義		2								2						
	健康心理学	講義		2							2						(大平 曜子)	134
	集団心理学	講義		2								2						
	社会心理学	講義		2						2								
	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2							2						[脇本 忍]	135
コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2								2					[脇本 忍]	136	
教育心理学	講義		2			△				2						(大平 曜子)	137	
ライフステージと健康	講義		2										2					
食文化論	講義		2					2										
食生活論	講義		2					2										
レクリエーションワークⅠ	講義		2					2										
レクリエーションワークⅡ	講義		2						2									
演習Ⅰ	演習		4					4										
演習Ⅱ	演習		6							6							稲富・田端・吉原	138, 139
専 門 コ ア 目 的	現代社会と福祉Ⅰ	講義		2	○	◇	△	2										
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2	○	◇	△	2										
	社会保障論Ⅰ	講義		2	○	◇				2							河野 真	140
	社会保障論Ⅱ	講義		2	○	◇					2						河野 真	141
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2	○		△	2										
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○		△	2										
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2	○		△			2							井上 浩	142
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2	○		△			2							高橋 千代	143
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2	○	◇					2						田端 和彦	144
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2	○	◇						2						
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○	◇						2					[西澤 正一]	145
	就労支援の制度とサービス	講義		2	○							2						
	権利擁護と成年後見制度	講義		2	○	◇						2						
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△				4						井上 浩	146
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△					4						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1	○			△	2									田端・高橋・井上	147
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1	○			△				2						田端・牧田・高橋・加藤	148	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1	○			△						2						
社会調査の基盤	講義		2	○				2										
社会調査の応用	講義		2					2										

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度(2011年度) 入学者対象  
( )は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 24 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△				2					加藤 洋子	149
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△				4						
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△					4					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2		○		△						2				
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△						12				
	地域経済論	講義		2								2					
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇							2				
	福祉工学	講義		2										2			
	まちづくり論	講義		2										2			
	国際福祉論	講義		2											2		
	スクールソーシャルワーク	講義		2											2		
	更生保護制度	講義		1	○									1			
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○									2			
	インターンシップ	実習		4										12			
社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		不開講	
社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2						②		②		②		②		不開講
教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇							2				
	応用医療福祉論	講義		2										2			
	精神保健福祉論	講義		6							6					加藤 洋子	150, 151
	精神医学Ⅰ	講義		2		◇				2					光田 豊茂	152	
	精神医学Ⅱ	講義		2		◇					2				光田 豊茂	153	
	精神保健学Ⅰ	講義		2		◇						2					
	精神保健学Ⅱ	講義		2		◇							2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2		◇							2				
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2		◇								2			
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義		2		◇							2				
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義		2		◇								2			
	精神保健福祉援助演習	演習		4		◇							4				
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇									12		
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2				△						2			
	認知心理学	講義		2								2				北島 律之	154
	心理統計学	講義		2								2				北島 律之	155
	臨床心理学	講義		2								2				琴浦 志津	156
	心理測定法	講義		2								2				北島 律之	157
	心理学基礎実験	実験		2									4			北島 律之	158
	心理療法Ⅰ	講義		2								2				琴浦 志津	159
	心理療法Ⅱ	講義		2									2			琴浦 志津	160
	心理検査法実習	実習		2										4			
行動分析論	講義		2											2			
心理カウンセリング演習	演習		2											2			
加齢及び障害に関する理解	講義		2				△							2			
色彩論	講義		2											2			
社会福祉特別演習	演習		4											4			
卒業演習	演習		4											4			

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				△	2										
	教育原理	講義	2				△	2										
	教育制度論	講義	2				△		2									
	教育課程論	講義	2				△			2						(廣岡 義之)	161	
	福祉科教育法	講義	4				△				4							
	特別活動論	講義	2				△			2						[上寺 常和]	162	
	教育方法・技術論	講義	2				△			2						(河野 稔)	163	
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2				△			2						[上寺 常和]	164	
	教育相談（含カウンセリング）	講義	2				△		2									
	事前・事後指導	演習	1				△						1					
	高等学校教育実習	実習	2				△							4				
	教職実践演習（高）	演習	2				△								2			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学Ⅱ				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

子どもからおとなになることについての様々な課題や問題を理解し、大人になることへの支援を学ぶ。  
 子どもから大人への移行、青年期の意味と特徴、学校から社会への移行、働くことと家庭を持つことについての問題、中年期、老年期の人々の抱える種々の問題、成長から成熟へ、古いへの適応、若いから生じる問題をとりあげる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》

青年期の課題・心理、青年が抱える問題について把握している。成人期の課題、心理、問題について把握している。中年期の課題、心理、問題について把握している。老年期の課題、心理、問題について把握している。

《授業時間外学習》

青年から老年まで各発達段階の人々が関係する事件や出来事について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。

《成績評価の方法》

試験100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 青年心理学とは	おとなになるとは 大人の定義と概念 青年期の課題と青年期のとらえ方 文化相対論
2	青年期前期の心理 1	自我の模索 自我の覚醒 自律への要求 関係の再編要求
3	青年期前期の心理 2	不安定性 敏感 思春期発育 第2次性徴 自己閉鎖的傾向
4	青年期中期の心理 1	自我の高揚 理想主義 自己主張 第2の反抗 脱衛星化
5	青年期中期み心理 2	感情の論理・自己矛盾 犯罪と非行 問題行動 不登校
6	青年期後期の心理 1	自我の拡充 現実の容認 再衛星化
7	青年期後期の心理 2	職業生活の準備 生活設計の開始 自我同一性の形成 自我同一性の拡散 モラトリアム
8	社会に背を向ける若者達	反社会的行動 暴力 非行 犯罪 不登校 引きこもり NEET
9	成人期の心理 1	就労 結婚 一家を構える 家族の形成 仮の生活構造
10	成人期の心理 2	親密性／隔たり 愛 異質性
11	中年期の心理 1	人生の午後 個性化 体力の危機 性的能力の危機 対人関係の危機 4. 思考の危機・
12	中年期の心理 2	生殖性／停滞 世話 自殺 離婚 リストラ
13	老年期の心理 1	老化と加齢 老年期の課題 統合性／絶望
14	老年期の心理 2	高齢者のパーソンリティ 認知症
15	老年期の問題 認知症	老年期の認知症と家族の問題をドラマ化した映画を視聴する



科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。I期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学び進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考文献》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法I」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法II」中央法規出版、2009

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めてること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロップメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考文献》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念ではあるが、危機的状況では、一時自己決定権を預かることも支援の一つとなる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的自立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組みるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助のはノーマライゼーションの実現への取り組みともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあるうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことで求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	社会が複雑化するとともに、少子超高齢化が進んでいる。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その状況について、学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

科目名	家族社会学				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

現代家族は、少子・超高齢社会の中で、伝統的に培ってきた様々な機能が果たせなくなるとともに、DV、非行、虐待、介護問題、離婚率の増加など、様々な問題を抱えてきた。ここでは家族の機能、構造を考えるとともに、現代家族の抱える問題についても検討を加え、看護師として必要な家族ケアの視点を養うとともに、家族支援の在り方、個々のアプローチ方法について検討を加える。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎分野  
「家族論・家族関係論」医学書院 2011

《参考文献》

井上眞理子編「家族社会学を学ぶ人のために」  
2010 世界思想社

《授業の到達目標》

- ①現代家族の直面している問題を理解できるようになる。
- ②地域社会や社会構造の変化と関連だてて、家族が直面している問題を理解できるようになる。
- ③家族内での人間関係（夫婦、親子）の形成と、維持について理解できるようになり、解決課題へ取り組む家族の保持力を、家族の発達段階に合わせて理解できるようになる。

《授業時間外学習》

報道などに常に興味を払い、家族に関わる問題が提起されている場合に必ず目を通しておくこと。また各自の地域の中で地域社会と家族の関わり合いがみられる行事などが存在するかどうか、またそれへの参加状況に注目しておくこと。授業はシラバスに準じて行われるので、教科書には目を通して出席すること。

《成績評価の方法》

この授業での評価は、受講態度、定期試験、課題達成の3項目で行う。  
その関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%とし、その合計で、評価点とする。

《備考》

授業への積極的な関与を歓迎する。授業に関する質問は時間中いつでも歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族を考える	家族をめぐる諸概念の検討と、現代家族の直面している問題を概観する。
2	家族の発生—パートナー選択と結婚—	家族発生の出発点である配偶者の選択がどうなされ、夫婦関係がどのように形成されて行くのかを検討する。
3	夫の役割、妻の役割	伝統的な家族から現代家族まで、その役割は社会の変化とともに変化してきている。今家族はどこに向かって進もうとしているのかを検討する。
4	父なること、母になること	DINKとDEWK、子育てでの夫婦の役割、地域の役割、祖父母の役割について考える。
5	子供の成長と父母の役割	夫と妻から、父親と母親へ、そして祖父と祖母へ、夫婦の成長の過程と老いの過程、そこでの対処課題について検討する。
6	夫婦での看取りと、両親の看取り	必然のこととして、家族というシステムも老いの過程を経て、看取りの過程に直面し、消滅していく。現代社会における看取りの過程での問題点、についても検討を加える。
7	伝統的な家族機能と現代家族	伝統的な家族機能から現代家族までの家族機能とそこでの人間関係の特徴を検討する。
8	社会の変化と都市型家族の問題点	地域機能が衰退化してきている現代都市社会において、縮小した家族機能で生活問題に対処を迫られている現代家族の問題点と地域の福祉社会化について検討する。
9	家族員が病んだ時	患者家族としては、どのような精神的、肉体的問題に直面するのか、患者との人間関係、家族間の人間関係にどのような変化が起こるのかを概観する。
10	在宅ケアでのストレスマネジメント	患者へのケアの質を高めるとともに、家族の生活の質を高める家族のストレスマネジメントと課題への対処力の保持について検討する。
11	家族支援者に必要な専門職としての態度	バイスティックの7原則を基本として、対人援助の専門職に必要な価値、態度を学ぶ。
12	家族支援の方法—システム理論からのアプローチ	家族療法の中でシステム理論を用いたシステムズアプローチの概要、アセスメントの方法を学ぶ。
13	家族支援の方法—家族の発達段階と危機の理解	家族問題を理解するために必要な、家族の発達段階および各段階で遭遇する可能性の高い危機状況についての理解、それへの対処方法を学ぶ。
14	家族支援の方法—教育的アプローチ	家族の課題への対処能力がある程度認められる場合に、プログラム化された訓練としてそれらの能力を強化していく教育的プログラムについて概観する。
15	家族支援の方法—心理学的アプローチ	家族援助の心理的諸技法について概観し、援助方法による関わり方の差異、評価方法の特徴を学ぶ。

科目名	家族福祉論				
担当者氏名	高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

家族の小規模化・多様化が進む現代社会において、子育て家庭への支援、介護に悩む家庭への支援、家庭内暴力に苦しむ家族への支援等、家族はさまざまな問題を抱え、その支援を必要としている。家族福祉は家族が社会と相互に関係しながら、必要な条件と関係性を追求するものである。こうした家族への福祉サービスの理念・制度・実践の概要を理解し、その支援について考える。

《授業の到達目標》

家族への福祉サービスが必要とされる社会的背景が理解できている。具体的に子育て支援の現状、介護における家族への支援の動向、家庭内暴力に対する施策について説明できる。家族への支援について論ずることができる。

《テキスト》

『臨床に必要な家庭福祉』宮本和彦編 弘文堂

《参考文献》

『よくわかる家族福祉』畠中宗一編 ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

家族への支援の情報を収集する。

《成績評価の方法》

学期末レポート（65%）、分野別①～⑦のレポート（35%）

《備考》

質問は、takahasi@hyogo-dai.ac.jpまで。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族問題の多様性と臨床的視点	子ども、高齢者、障がい者、家庭内暴力との関係で無力を感じる当事者にかかわる援助者にとって不可欠な援助姿勢や態度、それらを支える視点を明らかにする。
2	家族の歴史的变化	家族が「福祉の含み資産」から、小規模化に伴い「家族支援」が緊急の課題となり、家族支援の理念や制度、実践のあり方が問われることになった経緯を明らかにする。
3	家族集団と個人	家族が家族の問題にどのように対応するかで、個人は個人らしくなっていく。個人が家族集団との関係の中で個人になっていくことを学ぶ。
4	夫婦関係・親子関係	夫婦関係・親子関係は身近なところから常に責任ある生き方を問いかけている関係であることを学ぶ。
5	家族を支える家族支援の視点	家族問題は発生の経路を地域・社会との関係性の中で、総合的に捉える思考や実践方法が必要であるという家族支援の視点を学ぶ。
6	家族援助の実際	世代間システムの調整事例、コミュニケーションへの介入事例、家族システムの歴史への介入事例を取り上げる。
7	家族療法と家族福祉の関係	ソーシャルワーカー、心理士、精神科医などの諸職種が協働する学際的分野である家族療法と家族福祉の関係を明らかにする。
8	分野別の現状と課題①子育て支援	子育て支援に対する政府の取り組みを学び、さまざまな施策の内容を理解する。
9	②介護問題	介護問題という危機状況に直面したときの家族の心身の負担感について考え、地域社会において家族を支える支援システムのあり方を探る。
10	③障がい児・障がい者と家族	当事者の自立に向けての家族と社会の対応について、臨床的な視点で考察し、ノーマライゼーションの実現のために求められているものについて検討する。
11	④家庭内暴力と家族	家庭内暴力の実態と現状を理解し、支援機関と制度について学ぶ。
12	⑤児童虐待と家族	児童虐待の歴史的経緯と子どもの権利の視点から児童虐待の実態を把握し、その背景を考える。児童虐待防止に向けての体制整備と支援のあり方を考える。
13	⑥ひとり親家庭・再婚家庭	ひとり親家庭の現状を理解し、それぞれの課題と支援について考える。再婚による新たな家庭の構築における課題と支援について考える。
14	⑦里子・里親関係	社会的養護の1つである家庭的養護における里親制度と養子縁組制度の仕組みと現状を理解する。
15	家族問題と家族福祉	苦悩する家族に必要な社会的施策や、必要な援助者の視点について考察した私論を発表し、討論してまとめる。

科目名	発達心理学				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

人間の一生にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。
- 発達障がいに関する正しい知識・理解の仕方を習得すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%  
欠席回数が全授業回数の3分の1を上回った学生は成績評価の対象としない。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考文献》

- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010
- 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達心理学への招待	発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達・成長することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達～その1	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期の発達～その2	幼児期の知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	児童期の発達～その3	第11回目の学習内容を受けて、モチベーションの低下に対する対応策を中心に学ぶ。
13	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
14	成人期の発達	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
15	発達のつまずき	発達障がいに関する基礎的事柄について学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	人間関係論				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくれるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- \*人間関係に関する専門用語について説明できる。
- \*自分を取り巻く人間関係について把握できる。
- \*自分の対人関係の在り方を理解できる。
- \*人間関係に起因する問題に向きあい、対処できうスキルを身につける。

《授業時間外学習》

身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》

試験80% 提出物20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ヤマアラシのジレンマ 個室化・個人化 私事化
2	人間関係論の始まり	科学的管理 ホーソン研究 照明実験 能率の論理・心情の論理
3	集団とリーダーシップ1	集団の分類 集団の機能 集団決定 向社会性 リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ2	オハイオ研究 リーダーシップ行動論 状況理論 成熟理論
5	対人関係と自己理解1	ジョーハリーの窓 自己概念 自己概念の形成 公的自己意識 私的自己意識
6	対人関係と自己理解2	自己評価と他者評価 客観的自己理解 パーソナリティ 価値観 パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解3	印象形成 対人魅力 ソシオメトリー 愛他的行動
8	対人関係の類型	共感性 恋愛類型 対人類型 内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション1	コミュニケーションプロセス 文脈 ノイズ ことばの意味論 外延 内包
10	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル1	ロジャースの人間観 自己概念・現実 ラポート 無条件の受容 積極的傾聴実践
11	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル2	カウンセリングの過程 ラポート 受容 積極的傾聴 共感的理解 沈黙 感情の反射 問題への気づき 洞察
12	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル3	交流分析 自我機能 自我防衛機制 構造分析 3つの心 エゴグラム
13	対人関係の分析2	交流分析 交流パターン 平行的（相補）交流 交叉的交流 仮面的交流 ゲーム分析
14	対人関係の分析3	交流分析 ストローク ストローク論 脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル1	Lazalus & Folkmanモデル 対人ストレスイベント ストレスコーピング パーンアウト アサーション ソーシャルスキル

科目名	健康心理学				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる （共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

心理学としては異色の「身体的な健康」と「精神的な健康」とを根元的な結びつきの中で捉えようとしていることと、障害や疾病状態ではなく健康を中心課題としているところに特徴があります。心理的要因の心身の健康への影響を理解し、自他の健康アプローチに関心を払い、運動指導や生活習慣の改善・行動変容に生かす態度・能力の育成を目指します。授業では、健康への認知行動的アプローチに基づく実感を学びます。

《授業の到達目標》

○健康心理学の領域を理解し、説明できる。○健康心理学の基礎となる心理学の概念を理解し、代表的な理論について説明ができる。○健康なパーソナリティについて、考えを述べるができる。○健康習慣や健康行動について理解し、また、その指導ができる。○現代的な健康課題を理解し、専門領域との関わりにおいて説明できる。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出と発表 20%、定期試験 60%、毎時、授業終了時に、本時の学習に関する小テストを行う 20%、授業実施回数の1/3以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	健康心理学の歴史と他学問領域との関係
2	健康心理学の基礎理論 (1)	精神分析、学習理論、行動理論、
3	健康心理学の基礎理論 (2)	発達理論、認知理論、人間主義理論、
4	健康行動の理解	健康行動とは 予防と治療とリハビリ
5	パーソナリティと健康行動 (1)	健康なパーソナリティ
6	パーソナリティと健康行動 (2)	疾病とパーソナリティ
7	生活習慣と健康	健康な生活習慣 生活習慣病の予防と健康行動
8	健康への認知行動的アプローチ (1)	認知の行動の関わり、認知行動療法、
9	健康への認知行動的アプローチ (2)	社会的要因と個人的要因 健康関連行動について
10	ヘルスケアシステム	健康心理アセスメント
11	健康におけるソーシャルサポートの働き	ソーシャルサポートの測定
12	健康心理カウンセリング	基礎理論 理性感情行動療法、交流分析、自律訓練法、
13	健康教育活動	禁煙、薬物防止、食行動の変容などについて
14	行動変容や習慣改善への試み	集団力学・グループダイナミクス、個人指導
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

『新版 健康心理学』 野口京子著 金子書房

《参考文献》

『現代心理学シリーズ 健康心理学』島井哲志編 培風館  
他、授業の中で適宜紹介

《授業時間外学習》

健康生活を実践し、健康習慣に関して、自分の意見をまとめておく。  
テキストを通読し、健康心理学の領域を理解する。  
課題のレポートには、必ず文献に目を通す。

《備考》

健康運動実践指導者等の資格を目指す者はいうまでもなく、意欲的な参加を主体的な学習態度を期待します。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション心理学 I				
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>◎ 2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力)</li> </ul>				

《授業の概要》

社会心理学のコミュニケーション領域について講義をおこなう。特に、私たちの日常生活における、人と人との対人関係。さらに二者間における対人魅力や相互作用に関するメカニズムについて、先行研究や映像資料の紹介を交えながら授業展開する。

《テキスト》

指定しない。適時資料を配布する。

《参考文献》

『社会心理学』藤原武弘（培風館）他。

《授業の到達目標》

コミュニケーションに関する理論と応用について習得し、日常生活における人間関係形成の一助になること。

《授業時間外学習》

必要の際、適時説明する。

《成績評価の方法》

定期試験 60% 提出レポート40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業運営
2	心理学の種類	周辺領域との関係性についての解説
3	心理の要素	ヒトの感情・認知・行動などの各要素についての解説
4	遺伝と環境	ヒトの感情・認知・行動などの各要素の源泉について、遺伝説環境説の立場からの解説
5	コミュニケーション1.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション1.
6	コミュニケーション2.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション2.
7	対人識別判断	心理学実験の実施
8	社会的態度	価値観・ライフスタイルに関する心理アセスメントの実施
9	社会的感情	心理アセスメントと臨床心理学との関係性
10	社会的認知	対人認知と対人コミュニケーション
11	社会的動機	心理学実験の紹介を中心に解説
12	対人魅力1.	恋愛に関する理論と心理アセスメントの実施
13	対人魅力2.	対人関係の形成と崩壊
14	復習および検証	講義一連の確認と復習
15	まとめ	コミュニケーション心理学 I のまとめ



《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション心理学Ⅱ				
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>◎ 2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力)</li> </ul>				

《授業の概要》

コミュニケーション心理学Ⅰでは、社会心理学における対人コミュニケーション領域についての講義を行い、コミュニケーション心理学Ⅱでは、マスコミュニケーション、webコミュニケーション、臨床心理学におけるコミュニケーションなど広義な視点からコミュニケーションについて検討する。そのことから、本講義受講者は、コミュニケーション心理学Ⅰをすでに受講していることが望ましい。

《授業の到達目標》

対人コミュニケーションおよび、コミュニケーションツール（TV、新聞、webなど）の介入により変化する、人々の認知のあり方や社会的態度の変容について理解し、社会生活で活用できることを目標とする。

《成績評価の方法》

定期試験 60% レポート提出 40%

《テキスト》

使用しない。適時資料を配布する。

《参考文献》

『社会心理学』藤原武弘（培風館）他。

《授業時間外学習》

適時詳細を提示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらいと運営についての説明
2	対人コミュニケーション 1.	対人コミュニケーションについての理論と応用の解説1.
3	対人コミュニケーション 2.	対人コミュニケーションについての理論と応用の解説2.
4	対人コミュニケーション 3.	対人コミュニケーションについての理論と応用の解説3.
5	マスコミュニケーション 1.	マスメディア（TV、新聞、雑誌）のコミュニケーション特性の解説1
6	マスコミュニケーション 2.	2
7	webコミュニケーション 1.	webのコミュニケーション特性の解説1
8	webコミュニケーション 2.	2
9	事例検討1.	先行研究を中心とした事例についての解説1
10	事例検討2.	2
11	事例検討3.	3
12	臨床的応用	社会的不適応および問題行動についてのコミュニケーション的視点からの検討1
13	臨床的応用	2
14	復習およびディスカッション	復習および受講者からの発表
15	まとめ	コミュニケーション心理学Ⅱのまとめ

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

- 教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
- 自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。
- 教育効果の検証（評価）ができる。
- 対象を共感的に理解し、課題解決の方法を考え説明することができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）  
 授業実施回数3分の1以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。 教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念、
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示、
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ、
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

配布プリントを使用する。

《参考文献》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
 授業中の課題について参考文献等に目を通して、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。  
 「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	演習Ⅱ (Ⅰ期分)				
担当者氏名	吉原 恵子・稲富 恭・田端 和彦				
授業方法	演習	単位・必選	6・必修	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー) <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) <input checked="" type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)				

《授業の概要》

演習Ⅱでは「地域を教科書として」学ぶことにより、学生はジェネラリスト・ソーシャルワーカーとなる基礎的知識と実践的技術を獲得する。具体的には加古川市、稲美町等、近隣地域に調査に出て直接的な知識と情報を得る。小都市・町村地域において、社会生活を支える資産、そこで暮らす人々の福祉ニーズについて理解する。

《テキスト》

テキストは用いない。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

- ・調査を通して、ソーシャルワークの理論を理解し、実践力を身につけるための基礎となる技能(観察能力や問題の認識能力、批判的思考力、分析能力、問題解決能力など)を高める。
- ・コミュニティ・アワーの経験を通して、ソーシャルワーカーとしての適性を確認しながら、自己認識と専門的自我を成長させる。

《授業時間外学習》

コミュニティ・アワーは教室で学ぶほか、時間割外の時間や夏季休業期間中などに現地での調査を行う。  
本演習では、地域ごとのグループに分かれて学習する。報告会の準備、報告書の作成など授業時間以外でもグループで活動するため、チームワークよく協働し、自発的に学習することが求められる。

《成績評価の方法》

学習態度・グループにおける活動への参加度：50点  
課題や提出物の状況：50点

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミのポリシー(地域をテキストとして学ぶ、共に学ぶ)について・学習の目的・到達目標・ゼミの運営方法・グループ編成の発表・アイスブレイキング
2	地域にアプローチする(1)	ジェネラリストソーシャルワークについて
3	地域にアプローチする(2)	エコロジカル視点について
4	地域を知る(1)	基礎情報を把握する
5	地域を知る(2)	社会資源について確認する グループ学習について
6	地域を観る(1)	主要テーマの提示とグループでのそれに基づくサブテーマの設定
7	地域を観る(2)	現地調査の準備
8	地域を観る(3)	現地調査の準備
9	地域を観る(4)	グループでの現地での聞き取り調査、情報の収集
10	地域を観る(5)	グループでの現地での聞き取り調査、情報の収集
11	地域を観る(6)	グループでの現地での聞き取り調査、情報の収集
12	地域を観る(7)	調査結果の分析と考察
13	地域を観る(8)	I期の成果のとりまとめとプレゼンテーション準備
14	地域を観る(9)	I期の成果のとりまとめとプレゼンテーション準備
15	I期のまとめ	I期のまとめとプレゼンテーションおよび講評

科目名	演習Ⅱ (Ⅱ期分)				
担当者氏名	吉原 恵子・稲富 恭・田端 和彦				
授業方法	演習	単位・必選	6・必修	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー) <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) <input checked="" type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)				

《授業の概要》

演習Ⅱでは「地域を教科書として」学ぶことにより、学生はジェネラリスト・ソーシャルワーカーとなる基礎的知識と実践的技術を獲得する。具体的には加古川市、稲美町等、近隣地域に調査に出て直接的な知識と情報を得る。小都市・町村地域において、社会生活を支える資産、そこで暮らす人々の福祉ニーズについて理解する。

《テキスト》

テキストは用いない。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

- ・調査を通して、ソーシャルワークの理論を理解し、実践力を身につけるための基礎となる技能(観察能力や問題の認識能力、批判的思考力、分析能力、問題解決能力など)を高める。
- ・コミュニティ・アワーの経験を通して、ソーシャルワーカーとしての適性を確認しながら、自己認識と専門的自我を成長させる。

《授業時間外学習》

コミュニティ・アワーは教室で学ぶほか、時間割外の時間や夏季休業期間中などに現地での調査を行う。  
本演習では、地域ごとのグループに分かれて学習する。報告会の準備、報告書の作成など授業時間以外でもグループで活動するため、チームワークよく協働し、自発的に学習することが求められる。

《成績評価の方法》

学習態度・グループにおける活動への参加度：50点  
課題や提出物の状況：50点

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	I期のまとめとⅡ期の調査	I期の振り返りと反省点 Ⅱ期の授業内容と計画
2	調査テーマの検討(1)	調査テーマの決定と調査方法の検討
3	調査テーマの検討(2)	調査テーマの決定と調査方法の検討
4	調査の準備(1)	現地調査のための調査用紙等の準備
5	調査の準備(2)	聞き取り調査、アンケート調査等の現地調査を実施する。(学外調査)
6	現地調査(1)	聞き取り調査、アンケート調査等の現地調査を実施する。(学外調査)
7	現地調査(2)	聞き取り調査、アンケート調査等の現地調査を実施する。(学外調査)
8	現地調査(3)	聞き取り調査、アンケート調査等の現地調査を実施する。(学外調査)
9	調査結果の分析(1)	現地調査の結果のとりまとめ作業を行う。
10	調査結果の分析(2)	現地調査の結果に対する分析、考察を行う。
11	プレゼンテーションの準備(1)	発表原稿、プレゼンテーション資料の準備作業を行う。
12	プレゼンテーションの準備(2)	発表原稿、プレゼンテーション資料の準備を行う。
13	プレゼンテーションの準備(3)	プレゼンテーションの発表練習・配付資料の準備を行う。
14	「地域から学ぶ」発表会でのプレゼンテーション	発表会において調査内容をプレゼンテーションする。
15	報告書のまとめ	調査内容に関する報告書のとりまとめを行う。

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	社会保障論 I				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

社会保障の概念や対象，理念等について，その発達過程も含めて解説し，制度の体系と概要について理解する。本講義では，社会保障を構成する医療保障制度，所得保障制度及び社会福祉制度の詳細についても教授する。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《授業の到達目標》

社会保障の役割や理念，機能について理解する。  
 社会保障の構造を把握し，制度の体系について理解する。  
 社会保障の財源と費用を学び，社会保障財政のトレンドについて理解する。  
 社会保障制度を構成する医療保障制度・所得保障制度・社会福祉制度の内容，現状，将来展望について説明できる。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%，授業への参加とその成果20%（小テスト等により評価する）。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり，受験対策を意識した講義を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会保障	オリエンテーション(講義の課題と対象)
2	社会保障の理念と機能	社会保障の定義，目的，範囲，体系等 (1)
3	社会保障の理念と機能	社会保障の定義，目的，範囲，体系等 (2)
4	社会保障の役割と意義	所得保障，医療保障，社会福祉
5	医療保障 (1)	医療費の動向
6	医療保障 (2)	日本における医療供給システムの特徴
7	医療保障 (3)	医療保険制度
8	医療保障 (4)	医療制度改革
9	所得保障 (1)	年金保険制度 (1) 概要，国民年金，厚生年金
10	所得保障 (2)	年金保険制度 (2) 年金制度改革
11	所得保障 (3)	労働保険制度 (労働者災害補償保険，雇用保険)
12	社会福祉 (1)	社会福祉の法制度，動向
13	社会福祉 (2)	社会福祉の実施体制，社会福祉制度形成史
14	社会福祉 (3)	社会福祉施策：母子福祉，老人福祉，介護保険
15	社会福祉 (4)	社会福祉施策：生活保護，児童福祉，障害者福祉

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	社会保障論Ⅱ				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、社会保障制度の発達過程についても理解を深める。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版、及び授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《授業の到達目標》

社会政策が対応する今日的課題(格差問題、少子化問題、高齢化問題)について、それらの本質や動向について理解する。社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで、公共サービスの民営化や市場化、再国営化を推し進める政策意図がより深く理解できるようになる。社会政策の発展プロセスの学習を通して、社会政策の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%(小テスト等により評価する)

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり、社会保障改革はなおざりにされてきたが、そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会保障の今日的課題	オリエンテーション：講義の課題と対象
2	格差問題 (1)	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題 (2)	格差問題の諸相、格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題 (1)	少子化の状況
5	少子化をめぐる諸問題 (2)	少子化が進む理由、問題点
6	少子化をめぐる諸問題 (3)	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)
7	高齢社会をめぐる諸問題 (1)	高齢化の状況
8	高齢社会をめぐる諸問題 (2)	高齢化の背景、問題点
9	公私の役割分担(福祉多元主義) (1)	福祉多元主義の理論、サービス供給・財源調達・管理運営
10	公私の役割分担(福祉多元主義) (1)	公的部門、民間(営利・非営利)部門、インフォーマル部門の長所・短所
11	公私の役割分担(福祉多元主義) (2)	公的部門、民間(営利・非営利)部門、インフォーマル部門の長所・短所 福祉改革をめぐる近年の動向(新自由主義、社会民主主義、第三の道)
12	社会保障の歴史的展開 (1)	英国社会保障発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
13	社会保障の歴史的展開 (2)	英国社会保障発達史 (1) 戦後～現代 諸外国の社会保障
14	社会保障の歴史的展開 (3)	日本社会保障発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
15	社会保障の歴史的展開 (4)	日本社会保障発達史 (2) 戦後～現代

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度				
担当者氏名	井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

本科目は、社会サービスの一つをソーシャルワークとの関連において説明しようとするものである。すなわち、最初に人が障害を負った際、bio-psycho-socialの観点からどのような役割行動を取りやすいのかを説明する。次に、障害者福祉に関わる政策論を展開する。これには、障害者に対する直接的なサービスの提供する法的根拠と、その法律がどのように運用されているのかを説明する。

《テキスト》

毎回レジュメを配布する

《参考文献》

当事者の手記などはできるだけ読むことが望ましいので、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- (1) 知識・理解の観点からは、①障害者が障害をもつ故にどのようなdys-functioningを生み出しているかを説明できる、②障害者についての制度・政策論について説明できる
- (2) 関心・意欲の観点からは、障害者福祉の現状から、改善点を指摘できる
- (3) 態度・価値観の観点からは、自らの障害者観を他者と論じることができる

《授業時間外学習》

必要に応じて文献を紹介し、その文献のもとに授業を展開する

《成績評価の方法》

到達目標のうち、知識の観点についてはテストで評価する。態度や関心の観点については小レポートにおいて、自らの障害者観がどれだけ表現されているか（うまく表現されている、やや表現されている、全く表現されていない）の三段階で評価する。テストが70%、小レポートが30%で評価する

《備考》

授業の理解度に合わせて講義を展開していくので、毎回の授業終わりにリアクション・メールの送付を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、小レポート	授業の進め方について、成績評価について、障害者に対する見方を知るための小レポート作成
2	障害者福祉の基本的理念	ノーマライゼーション・バロリゼーション
3	障害者とは (1)	生物学的・心理学的理解
4	障害者とは (2)	社会学的理解、生物-心理-社会学的理解
5	障害者とは (3)	WHOの定義
6	障害者とは (4)	障害者基本法、身体障害者福祉法
7	障害者とは (5)	知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法
8	障害者に対する見方を知る	第一回目で提出した小レポートについてのグループ討議とレポートの提出
9	障害者支援の法的根拠 (1)	障害者自立支援法成立の過程-対象者、サービス分配の方法、財政的側面について-
10	障害者支援の法的根拠 (2)	障害者自立支援法-介護給付について
11	障害者支援の法的根拠 (3)	障害者自立支援法-地域生活支援事業
12	障害者支援の法的根拠 (4)	障害者自立支援法-その他のサービス
13	障害者支援の法的根拠 (5)	バリアフリーとユニバーサルデザイン
14	障害者支援	障害者ケアマネジメントについて
15	まとめ	障害者福祉をソーシャルワークからとらえ直す

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				
担当者氏名	高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

今日の児童に関わる様々な問題に対応するための児童・家庭福祉に関する理念・法律・制度と行政機関・施設を、その歴史の変遷を踏まえて理解する。さらに分野別の動向と関連する法・制度に基づく諸施策、諸事業、諸サービスの現状の理解を深め、支援のための課題を考える。

《テキスト》

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考文献》

『児童虐待時代の福祉臨床学-子ども家庭福祉のフィールドワーク-』上野加代子他 明石書店

《授業の到達目標》

児童・家庭福祉の理念や権利保障について理解できている。児童・家庭福祉に関する法制度、保健・福祉・医療サービスについて説明できる。新たな状況や課題を踏まえて、児童・家庭に対する支援について論じることができる。

《授業時間外学習》

「児童の権利に関する条約」「児童福祉法」「児童福祉施設最低基準」を読む。

《成績評価の方法》

定期試験（60%）、分野別①～⑧の課題レポート（40%）

《備考》

質問は、takahasi@hyogo-dai.ac.jpまで。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と児童・家庭	現代社会が生み出す児童と家庭のさまざまなニーズに焦点を当て、それらに対する支援の基本的視点について整理する。
2	児童・家庭福祉の理念	児童・家庭福祉が自助を基本としつつ、自助を支援し、共助や公助とともに、福祉上の問題の発生を予防し、発達・自立を支援していることを明らかにする。
3	児童・家庭福祉の歩み	児童をひとりの人格主体として、その権利を尊重し、福祉が図られるようになった経過を明らかにする。
4	児童・家庭福祉の法制度	「児童福祉法」を始めとする児童福祉六法や「児童虐待の防止等に関する法律」など、児童・家庭福祉に関連する法律の概要を学ぶ。
5	児童・家庭福祉の行政機関	児童・家庭福祉サービスの重要な担い手である行政機関と関連機関の概要を学ぶ。
6	児童福祉施設	児童福祉施設は、児童等に適切な環境を提供し、養育・保護・訓練および育成等を中心にして、児童の福祉を図る施設であることを学ぶ。
7	分野別の現状と課題①母子保健	妊娠、出産・出生、成長、発育・発達に関わる母子保健が、母性、父性および子どもの健康の保持、増進を担っている現状とその課題を明らかにする。
8	②障がい・難病を有する児童・家庭への支援	胎児期および出生後に、何らかの障がいや難病などを抱えることになった児童や家庭に対する支援の現状と課題を明らかにする。
9	③児童虐待対策	児童虐待の実態、保護の仕組みを理解する。児童虐待対策について考える。
10	④保育サービス	少子化対策が課題となる中で、エンゼルプラン、新エンゼルプランにより整備されてきた保育制度の現状と課題を明らかにする。
11	⑤子育て支援と児童健全育成施策	児童・家庭を取り巻く環境の変化に伴い、子育てに対する社会的支援の必要性を背景にして推進されている子育て支援策の現状と課題、児童の健全育成のための施策を知る。
12	⑥ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の現代的態様と福祉施策の概要を知る。
13	⑦児童の社会的養護サービス	近年の社会的養護の考え方と、社会的養護にかかわる機関・施設の対応の概要を知る。最も古い歴史を持ち、児童・家庭福祉の基本に位置するサービスの課題を考える。
14	⑧非行児童・情緒障がい児への支援	非行の動向、非行児童への支援に関する制度、情緒障がいの内容と支援についての理解を深める。非行児童・情緒障がい児とその家族への支援について考える。
15	児童・家庭に対する支援活動	児童・家庭に対する支援では、第一義的な受益者が子どもであるがゆえに生じる特性を踏まえる必要があることを理解し、ソーシャルワーク実践上の留意点を把握する。



《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	地域福祉の理論と方法 I				
担当者氏名	田端和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）				

《授業の概要》

地域や自治体の定義やソーシャルキャピタルなど地域の枠組みを示し、地域福祉に不可欠な制度や組織の役割を解説します。歴史的に福祉国家から福祉社会に移行する中での地域福祉の意義を説明します。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

福祉社会の中での地域の重要性と地域福祉の意義を理解し、ソーシャルワーク実践での指針とします。地域福祉に係る制度、資源についての知識を獲得し、実践で役立つようにします。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課しますので（3回に1回程度）、それをレポートとして提出してください。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要と地域福祉の社会福祉における位置づけなどを説明します。
2	地域福祉と地域	社会学からのコミュニティの定義や自治体の範囲など法的な地域の定義を行います。
3	地域福祉に関わる組織1	地域福祉の要でもある社会福祉協議会の歴史的な経緯や現在の活動を解説します。
4	地域福祉に関わる組織2	社会福祉協議会の課題とボランティアの関係について説明します。
5	地域福祉に関わる組織3	NP0について説明をします。この回は、経済情報学科と合同授業の場合があります。
6	地域福祉に関わる組織4	民生委員や自治会などその成立の過程を含め、現在の役割を解説します。
7	地域福祉に関わる組織5	地域包括支援センターなど地域の福祉拠点となる組織について理解を深めます。
8	地域福祉とソーシャルキャピタル	パットナムのソーシャルキャピタルの定義と地域福祉における意味を理解します。
9	地域福祉が登場した歴史1	近代以前から地域における結びつきが近代国家の成立につれ変化することを学びます。
10	地域福祉が登場した歴史2	自助や慈善から社会制度として福祉が位置付けられる過程と地域の関係を学びます。
11	地域福祉が登場した歴史3	日本の地域福祉の登場の前史としての戦前の地域における福祉を学びます。
12	地域福祉が登場した歴史4	経済成長が可能にした福祉国家とその変化の中での地域福祉の重要性を学びます。
13	地域福祉が登場した歴史5	日本の戦後高度成長における地域福祉の萌芽と地域化の過程を学びます。
14	地域福祉に関する制度1	社会福祉法に基づく地域福祉計画について政策の重要性とともに理解します。
15	地域福祉に関する制度2	指定管理者制度や委託事業など、実際の政策におけるツールを学びます。

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度				
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ◎ 3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

公的扶助制度の基本的理解と共に、今日の社会に於ける「見える貧困と見えない貧困」といった様々な貧困事例を取り上げながら、公的扶助制度の運営上の問題点や生活保護制度が直面する課題等について理解する。具体的には最近特に重要課題として取り上げられることの多い生活保護についてを中心に、「人間らしく生きること」を改めて問い直し自己の問題としても考える授業としたい。

《授業の到達目標》

①我が国に於ける公的扶助の代表制度である生活保護法の理念と内容を理解 ②生活保護の役割と社会的意義と今日の問題を考える ③昔の貧困と現代社会に於ける様々な貧困について理解 ④現代社会の貧困をめぐる社会的な諸課題について自分達の問題として捉える ⑤貧困の現実と制度の関連、また歴史や実践を通し公的扶助制度の役割を理解。以上を通して、大きな社会問題となっている公的扶助制度の課題を見いだせる。

《成績評価の方法》

受講状況(20%)＋学期末試験(60%)＋講義の受講態度(20%)等を総合的に勘案し判断

《テキスト》

著者名：杉村宏・岡部卓・布川日佐史編著 書名：「よくわかる公的扶助」出版社：出版年：ミネルヴァ書房・2011年11月15日 初版第3刷発行(定価¥2200＋税) その他、随時プリント配布

《参考文献》

著者名：岡部卓・六波羅詩朗 書名：新・社会福祉士養成講座 第16巻「低所得者に対する支援と生活保護制度」第2版 出版社：出版年：中央法規出版・2010年1月

《授業時間外学習》

- ・授業の中で随時、報道等のプリント配布をしたり課題を出すので、そのつど指定された期日までに提出のこと
- ・自らが積極的に生活保護に関する課題を見いだすこと

《備考》

※毎回の授業は基本的に講義計画に基づくが、進展によって多少内容が前後する場合もある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	公的扶助を学ぶ視点と意義について理解し、今日の「見える貧困と見えない貧困」について自らの問題として捉え、歴史的背景や制度・実践を通して課題を見いだす
2	現代社会の中の貧困	貧困問題とは何か、国民諸階層に広がる様々な貧困について理解できる。
3	公的扶助と関連施策	公的扶助とは何か、日本の公的扶助と関連施策を理解すると共に、様々な社会保険と生活保護を学べる。
4	公的扶助制度の歴史（イギリス並びに日本）	諸外国の公的扶助と日本の生活保護の成立過程を通して学び、今日の生活保護制度を理解する事が出来る。
5	生活保護制度の成立過程	救貧制度や救護法以降の、生活保護法の成立過程を学べる。
6	生活保護制度の仕組みⅠ（目的と基本原理等）	歴史的な成立過程を振り返りながら、今日の生活保護法の理念と基本原則について理解できる。
7	生活保護制度の仕組みⅡ（保護の基準と程度等）	今日の生活保護基準と保護の種類や方法について理解できる。
8	生活保護制度の仕組みⅢ（保護の実施と費用等）	今日の生活保護の実地と費用について理解すると共に、生活保護利用者の権利と義務について考える事が出来る。
9	生活保護の政策と動向	生活保護政策の展開を成立期から展開・変容期と分けてみながら、今日の生活保護層の動向を理解できる。
10	生活保護に於けるソーシャルワーク実践	生活保護に於けるソーシャルワーク実践について考え、その対人援助プロセスや支援と援助の技術・実際を理解する事が出来る。
11	相談援助技術と実際	インテーク面接と記録、またスーパービジョンについて考え、専門職としての役割や連携と協働の重要性を理解する事が出来る。
12	海外の公的扶助	アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデン・韓国等の公的扶助について理解できる。
13	生活保護制度の課題	今日の日本における生活保護制度の現状と問題について考え課題を見いだす事が出来る。
14	低所得者の施策と実践・課題	今日の低所得者の施策について改めて考えなおし、その実践と課題を探る事が出来る。
15	まとめ	今日の大きな社会問題となっている生活保護の現状とその適正化、また政策のあり方と実践の動向と今後の課題について自らの問題として捉えなおす事が出来る。

科目名	ソーシャルワークの理論と実践 I				
担当者氏名	井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる （知識・技能の統合）				

《授業の概要》

ソーシャルワークは、さまざまな次元で人と環境との相互作用が行われている場に介入していく専門職である。本科目では、人間の行動に関する諸理論に基づき、人々が社会的なサービスを効果的に、効率的に用いていくためにはどうすればよいのかを説明する。具体的には、ソーシャルワークのエコロジカル視点、人間のbio-psycho-social視点について、さらにいくつかのソーシャルワークに関する理論やモデルを提示する。

《授業の到達目標》

- (1) 知識・理解の観点からは、①ソーシャルワーク支援の視点や理論、モデルについて説明できる、②ソーシャルワークの過程を説明できる
- (2) 思考・判断の観点からは、クライアントとリソース・システムとの関連性について考えてみようとする
- (3) 関心・意欲の観点からは、なぜ支援が必要なのか、クライアントの立場に立って考えることができる

《成績評価の方法》

授業への参加態度20%、確認テスト30%、学期末テスト50%で評価する。評価に含まれる対象は、授業への参加度はグループディスカッションへの参加度合いであり、確認テストは授業の復習がどれだけ行ったかである。学期末テストの評価は授業の一般目標で掲げた目標がどの程度達成できているかである。

《テキスト》

毎回レジュメを配布する

《参考文献》

- ・H.M. パートレット著 小松源助訳「社会福祉の共通基盤」ミネルヴァ書房
- ・Pincus, A Minahan, A SOCIAL WORK PRACTICE; MODEL AND METHOD, Peacock Pub (1973)
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年

《授業時間外学習》

本科目はソーシャルワーク支援にとって重要な科目である。そのため、單元ごとに確認テストを行う。しっかりと復習をしていることが必要である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	担当者の紹介、授業の全体的な流れについて
2	ソーシャルワークの専門性	価値・知識・技術
3	Eco-System (1)	システムという考え方
4	Eco-System (2)	Pincus, A&Minahan, Aのモデル
5	確認テスト	確認テストと解説
6	Eco-System (3)	Ecologicalアプローチ
7	確認テスト	確認テストと解説
8	人間の行動理解とソーシャルワーク	Bio-psycho-social-spiritual/economyの視点
9	確認テスト	確認テストと解説
10	ソーシャルワークのモデル (1)	問題解決モデル
11	ソーシャルワークのモデル (2)	その他のモデル
12	確認テスト	確認テストと解説
13	ソーシャルワークの過程 (1)	インテークとアセスメント
14	ソーシャルワークの過程 (2)	プランニングからモニタリング
15	これからのソーシャルワーク	

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I				
担当者氏名	田端和彦、高橋千代、井上浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）				

《授業の概要》

5日間のボランティア体験の後、自分自身の経験を振り返り、話し合いなどで客観的にそれを位置づけ、最終的にそれを説明できるように順序立てを行います。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

ボランティア論についての一定の知識を身につけ、ソーシャルワークにおけるボランティアの重要性を理解します。実際のボランティア体験から、その意義を理解しソーシャルワーカーの自覚が芽生えます。

《授業時間外学習》

ボランティア体験の発表会の準備などは授業時間外に活動をしてください。

《成績評価の方法》

ボランティア先を開拓し、交渉し、実際にボランティアを行うボランティア体験を行うことで60%。ボランティア体験での理解を深め、他者に説明する過程で40%を評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後半オリエンテーション	ボランティア体験を位置づけることの意義を理解します。
2	ボランティア体験の振り返り1	個人的にボランティア体験を振り返ります。記録を見ながらレポートを作成します。
3	ボランティア体験の振り返り1	レポートを発表します。グループに分かれて体験を持ち寄り共有化します。
4	ボランティア体験の振り返り1	引き続きグループディスカッションで体験から共通項目を見出します。
5	ボランティア体験の振り返り1	引き続きグループディスカッションで共通項目とその解決について考えます。
6	ボランティア体験発表会の準備1	グループディスカッションの結果を他の人にも説明するための発表会を準備します。
7	ボランティア体験発表会の準備2	グループディスカッションの結果を他の人にも説明するための発表会を準備します。
8	ボランティア体験発表会	ボランティア体験の発表会です。
9	振り返り	発表会を振り返り次の実習のための反省点とします。
10	予備	
11	予備	
12	予備	
13	予備	
14	予備	
15	予備	

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
担当者氏名	井上 浩、牧田 満知子、高橋 千代、加藤 洋子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる （知識・技能の統合）				

《授業の概要》

本科目は、「ソーシャルワーク実習」に結ぶための実習指導である。ソーシャルワークを実践していくためには、利用者の特性を知る必要がある。あるいは、施設の役割を理解している必要がある。本科目は、以上のことから目的を二つにおいている。すなわち、利用者とのコミュニケーションを取ってくることで、施設分析ができること、である。そのため、5日間ではあるが施設において実習を行う。

《授業の到達目標》

以下の点を到達目標に置く。

- ①利用者とのコミュニケーションを取るなど、利用者に関わりができるようになること。
- ②施設分析ができること

《成績評価の方法》

基礎実習を行い、その体験を振り返ることができた場合に最低評価を与える。すなわち、利用者とはどれだけコミュニケーションをとってこられたのかということと、施設分析ができたかどうかである。さらにその体験を、グループを通じて他者と共有し、グループ発表ができた場合に加算される。

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（基礎実習）」の手引きを用いる

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《授業時間外学習》

基礎実習実習先を決定していくにあたり、担当教員と授業時間外で面談を行う場合がある。

《備考》

実習は権利であって義務ではない。実習先の文化の受容に窮した場合、実習を中止する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	実習の位置づけ、目的、課題について
2	コミュニケーション演習（1）	人と人との距離感、姿勢について学ぶ
3	コミュニケーション演習（2）	利用者とはどのようなコミュニケーションができるかを想定した演習を実施する
4	施設分析（1）	高齢者施設・障害者施設
5	施設分析（2）	児童施設・社会福祉協議会
6	基礎実習配属先施設分析	実習先の施設分析を各自で行う
7	実習計画書の作成（1）	実習計画書作成の意義と具体的な作成
8	実習計画書の作成（2）	実習計画書の作成
9	マナー講座	実習に行く際のマナーと権利擁護について
10	予備日	実習計画書の個別指導
11	予備日	実習計画書の個別指導
12	書類確認	実習先に提出する書類が揃っているかどうかを確認する
13	実習記録について	実習記録の書き方について
14	実習前最終オリエンテーション	実習の意義について再度確認する
15	配属実習	施設にて実習を行う

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	介護概論				
担当者氏名	加藤 洋子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度 (社会的責任) ◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる (地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる (倫理性) ○ 3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる (創造的思考力)				

《授業の概要》

介護の概念や対象およびその理念、基本的姿勢等について学ぶ。さらに病理や障害等の状況に応じた介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について学ぶ。対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と技術の習得に向け、段階的に学習する。認知症ケアや終末期ケアのあり方についても学ぶ。

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を修得する。

《成績評価の方法》

・試験期間中に試験を実施(50点)  
 配点内訳：授業への積極的参加度・姿勢(15点)、レポート課題(20点)、小テスト(15点)

《テキスト》

社会福祉学習双書 15 介護概論 2011  
 商品番号：3010110319 販売価格：2,520円(税込)  
 発行年月日：2011/03/22 ISBN：978-4-7935-1025-0

《参考文献》

①ケアの本質—生きることの意味 単行本 出版社：ゆみる出版 (1987/04) ISBN-10：4946509119 ISBN-13：978-4946509117  
 ②摂食指導の本：神奈川県肢体不自由児協会新版 社会福祉士養成講座〈14〉介護概論 福祉士養成講座編集委員会(編集) 中央法規出版：新版；第4版(2008/01) ISBN-10：4805829621 ISBN-13：978-4805829622

《授業時間外学習》

近隣者や家族の高齢者や障害者に触れ、ボランティアなどで、関わる機会を積極的に作り、対象者への理解を広げていこう。また、レポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる暮らしの中の課題から背景・社会的課題などについて考える機会にしてほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ケアの本質と人権	介護者に求められる姿勢・知識・価値
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉基本法と介護。ケアとキュアの違いと介護職に求められる医療行為
3	介護の目的 (1)	介護の考え方、介護の原則、介護職員の倫理、介護の本質
4	介護の目的 (2)	介護の歴史、介護提供の場、介護の対象
5	援助関係	介護における援助関係の基本
6	介護関係維持のための技法 (1)	観察とコミュニケーション
7	介護関係維持のための技法 (2)	記録と情報の共有、他職種との連携
8	介護過程 (1)	介護過程の意義、目的
9	介護過程 (2)	介護過程の実際
10	介護過程 (3)	介護過程とチームアプローチ
11	生活支援技術の基本 (1)	利用者の自立支援と介護技術、住環境の整備
12	生活支援技術の基本 (2)	食事の介護、排泄の介護、衣服の着脱
13	生活支援技術の基本 (3)	身体の清潔介護、体位変換・移動の介護
14	生活支援技術の基本 (4)	社会生活を維持する方法、家族への援助
15	生活支援技術の基本 (5)	福祉用具の活用、終末期の援助 障害の理解と対応

科目名	精神保健福祉論（I期分）				
担当者氏名	加藤 洋子				
授業方法	講義	単位・必選	6・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

精神障害者の疾病・障害を学び、精神保健福祉士としての基礎的学習と障害者への理解を深め、さらに精神障害について障害福祉全般から精神保健福祉を学ぶ。教科書とパワーポイントを用いて、プレゼンテーションを行う。またグループワークを行い、積極的な意見交換を行いながら、障害者の理解や支援方法の事例研究を行い、考察を深める。

《テキスト》

第4版これからの精神保健福祉精神保健福祉士ガイドブック  
 編集／柏木昭・荒田寛・佐々木敏明  
 へるす出版社 ISBN978-4-89269-620-6

《参考文献》

PSW Practice Series 3 実習生のためのPSW実習ハンドブック  
 監修／日本精神保健福祉士協会  
 編集／牧野田恵美子 荒田 寛・吉川 公章  
 へるす出版社 ISBN4-89269-434-7

《授業の到達目標》

まず障害者福祉一般に共通理解が求められる。また、理念や施策および実践の課題を把握し、その基本的理解を深める。次に、精神障害者の人権を擁護し、主体性を尊重する姿勢を学ぶ。さらに精神保健福祉士の役割として期待される社会復帰を支援する者としての援助法、および地域における生活支援にかかわる他機関多職種との連携、福祉施策とその実践のあり方を学び、段階的に基礎知識を身につけること。

《授業時間外学習》

社会福祉分野での援助者を目指す上で、その姿勢や価値観のベースとなるのであるため自覚して、学習やボランティア活動に取組んでほしい。

《成績評価の方法》

授業態度(20%)、レポート課題(20%)、試験の結果(60%)をもとに評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人権とは	人権とは、障害者の人権を擁護する立場から考える。
2	精神医学の歴史と障害者福祉の理念（世界）①	精神医学の歴史と障害者への排除の歴史を押さえ、我が国の障害者福祉の持つ基本的な性格を理解する。
3	精神医学の歴史と障害者福祉の理念（日本）②	精神医学の歴史と障害者への排除の歴史を押さえ、我が国の障害者福祉の持つ基本的な性格を理解する。
4	障害および障害者	障害の概念を、WHOが新たに示した国際生活機能分類の視点から学習し、その上で障害者福祉法にみる障害の規定の習得に努める。
5	障害者福祉の基本施策	国および地方公共団体の責務や国民の責務も明らかにし、自立への努力の必要性などを定めた障害者基本法を中心に学習する。
6	精神障害者の生理と病理①	精神障害者の脳機能の生理と病理について理解する。
7	精神障害者の生理と病理②	精神障害者の脳機能の生理と病理について理解する。
8	精神障害者の主体性の尊重	個人の主体性と創造的な生き方とは何かを学習する。自分らしく生きることについて学習する。
9	相談援助活動の方法①	相談援助活動を行う際の基本や医療機関における相談援助活動を学習する。社会生活を支える施設における相談援助活動や地域社会における相談援助活動を学習する。
10	相談援助活動の事例②	成長・変化する援助関係を、統合失調症の方との援助関係の展開事例を通して学習する。
11	精神保健福祉士法の意義と内容	精神障害者を側面から援助する専門職者としての精神保健福祉士法の意義と内容について学習する。
12	精神保健福祉領域の関連法	精神障害者への対策は、保健・医療・福祉・教育など関連施策による援助も必要である。よって、これらに関連する法も学ぶ。
13	障害者福祉施策の概要①	障害者自立支援法と精神保健福祉法の内容面から学習する。
14	障害者福祉施策の概要②	障害者自立支援法と、その施策の概要を学習する。障害者自立支援法の問題点と課題の観点から学習する。
15	障害者福祉施策の概要③	障害者虐待防止法の施行について

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神保健福祉論（Ⅱ期分）				
担当者氏名	加藤 洋子				
授業方法	講義	単位・必選	6・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-5市民として専門家として自律的に学習を継続することができる （市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

前期同様、精神障害者の疾病・障害を学び、精神保健福祉士としての基礎的学習と障害者への理解を深め、さらに精神障害について障害福祉全般から精神保健福祉を学ぶ。教科書とパワーポイントを用いて、プレゼンテーションを行う。またグループワークを行い、積極的な意見交換を行いながら、障害者の理解や支援方法の事例研究を行い、考察を深める。

《授業の到達目標》

まず障害者福祉一般に共通理解が求められる。また、理念や施策および実践の課題を把握し、その基本的理解を深める。次に、精神障害者の人権を擁護し、主体性を尊重する姿勢を学ぶ。さらに精神保健福祉士の役割として期待される社会復帰を支援する者としての援助法、および地域における生活支援にかかわる他機関多職種との連携、福祉施策とその実践のあり方を学び、段階的に基礎知識を身につけること。

《成績評価の方法》

授業態度(15%)、レポート課題(20%)、試験の結果(65%)をもとに評価する。

《テキスト》

第4版これからの精神保健福祉精神保健福祉士ガイドブック  
編集/柏木昭・荒田寛・佐々木敏明  
へるす出版社 ISBN978-4-89269-620-6

《参考文献》

PSW Practice Series 3 実習生のためのPSW実習ハンドブック  
監修/日本精神保健福祉士協会  
編集/牧野田恵美子 荒田 寛・吉川 公章  
へるす出版社 ISBN4-89269-434-7

《授業時間外学習》

社会福祉分野での援助者を目指す上で、その姿勢や価値観のベースとなるのであるため自覚して、学習やボランティア活動に取組んでほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉に関する行政組織①	精神保健福祉行政の基本および特徴と国における精神保健福祉を学習する。
2	精神保健福祉に関する行政組織②	都道府県・政令指定都市(精神保健福祉センター・保健所を含む)における精神保健福祉と市町村における精神保健福祉を学習する。
3	精神保健福祉に係る公費負担制度	公費負担制度は公が租税を財源とし、保健・医療・福祉等にかかる費用の一部または全部を保障する制度である。ここでは障害者自立支援法の面から概観する。
4	精神保健福祉施策の課題①	入院中心医療や民間病院中心医療という精神科医療、精神疾患や精神障害に対する正しい理解が遅れている精神保健福祉の課題について学習する。
5	精神保健福祉施策の課題②	精神障害者保健福祉手帳制度の概要と課題を中心に、今後の精神障害者福祉施策に求められる視点を概観する。
6	精神障害者の社会復帰策	社会復帰活動は、入院中心の現実から退院促進策として、法改正や関連制度の整備によって、今日、大きく進展したことを具体的な例を取り上げながら理解する。
7	地域生活支援①	生活支援の基本を理解しつつ、精神障害者ケアガイドラインに沿った支援を学習する。
8	地域生活支援②	障害者自立支援法における地域生活支援事業とはいかなるものかを学ぶ。同時に手作りの小規模作業所の大きな変化も理解する。
9	精神保健福祉における専門職との連携	精神障害者は疾病と障害を併せ持つため、治療等のために複数の専門職間の連携が必要となる。その各々の役割と、あり方を学習する。
10	医療保険制度	精神保健福祉分野の制度的社会資源としては、その中心をなす医療保険制度を、現物給付面と現金給付面から取り上げて、詳しく解説する。
11	介護保険制度	家族による介護機能の低下により、社会全体で支える仕組みが求められ、医療・保健・福祉も一元化され、介護保険が登場した。この内容を学び理解する。
12	精神障害者の雇用と就労	労働は基本的人権の一部とした日本国憲法や、国連の「障害者の権利宣言」の意味を理解した上で、一般雇用制度や福祉的就労制度について学習する。
13	精神障害者の所得保障	所得保障は、社会保険、公的扶助、各種手当の3つの制度から成り立つが、その中から精神障害者に関する部分を学習する。
14	精神障害者の経済的負担の軽減	障害者、とくに精神障害者の場合は、障害者としての認定から浅いこともあり、雇用・就労および所得保障が十分ではない。社会的弱者の低所得の問題について考える。
15	精神障害者の生活環境の改善	精神障害者の退院先として重要な住居問題や確保上の課題について学習する。さらには、ケアが提供される居住形態や地域生活支援の内容についても学習する。



《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神医学 I				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

代表的な精神科疾患の症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療をしているのか、また地域の諸機関でどのような取り組みがなされているのかを講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神医学』、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2009

《参考文献》

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神医学、精神医療の歴史	古代から近代、そして現代への精神医学、精神医療の歴史を理解し、これまでの問題と今後の課題を把握する。
2	脳および神経の生理・解剖	解剖、生理学的見地から、脳及び神経の基礎的な知識を理解する。
3	精神医学の概念	精神医学の特徴と諸分野について知ると共に、精神障害の概念や成因と分類について理解する。
4	診断	診断の手順と方法、精神症状と状態像、検査法について学び、診断の基本的な知識を理解する。
5	症状性を含む器質性精神障害	器質性精神障害の主な症状について理解する。
6	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の症状等の差異について理解する。
7	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコールや薬物、有機溶剤など精神作用物質使用による精神疾患の症状等について理解する。
8	依存症の理解と治療	依存症の理解とその治療法と自助グループの役割について理解する。
9	自助グループ参加者の体験談	自助グループに参加し回復した当事者の体験談を聞いて、自助グループの役割やその働きについて考える。（ゲスト講師予定）
10	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	統合失調症の症状、病型、及び治療法について理解する。
11	統合失調症者への支援について	精神保健福祉士として統合失調症者への支援の仕方について考える。
12	統合失調症当事者の体験談	統合失調症者の体験談を聞き、統合失調症への理解を深める。（ゲスト講師予定）
13	気分障害の症状	気分障害の特徴や症状及びその性格傾向や環境因子等について理解する。
14	気分障害の治療	気分障害の治療とかわり方の留意点について理解する。
15	神経症性障害、ストレス関連障害、心身症	心理的原因によって起こる様々な神経症やストレス関連障害、心身症の症状や治療について理解する。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神医学Ⅱ				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

代表的な精神科疾患の症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療をしているのか、また地域の諸機関でどのような取り組みがなされているのかを講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神医学』、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2009

《参考文献》

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群	摂食障害や非器質性睡眠障害の症状や治療について理解する。
2	成人のパーソナリティおよび行動の障害	パーソナリティ障害や習慣及び衝動の障害の症状や状態について理解する。
3	精神遅滞	精神遅滞の概念や定義、分類及びその原因と福祉的ケアについて理解する。
4	心理的発達の障害	学習障害、広汎性発達障害の基本症状を知り、治療教育や福祉的ケアの必要性について理解する。
5	小児期、青年期に発症する行動及び情緒の障害	多動性障害、行為障害の症状や診断基準と治療について理解する。
6	神経系の疾患	てんかん、感染性疾患、パーキンソン病などの神経系の疾患について理解する。
7	身体療法	薬物療法の治療的効果とその副作用及び電気ショック療法について理解する。
8	精神療法	心理面に働きかける様々な精神療法について理解する。
9	環境・社会療法	外来治療や入院治療、及び様々な社会療法について理解する。
10	精神科リハビリテーション	社会復帰の促進に向けた様々な精神科リハビリテーションの技術、方法について理解する。
11	病院精神医療	精神科病院の歴史と現状、そして、精神科医療の法制度の歴史を理解する。
12	精神科救急医療	精神科救急の分類、対象、対処法について理解する。
13	地域精神医療	地域精神医療の概念と歴史、及び、我が国の地域精神医療の現状について理解する。
14	司法精神医学	精神障害に関連する法的な諸問題について理解する。
15	医療観察法	医療観察法の制度や手続き、及び、社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	認知心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感性、観察力、問題発見力) ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる (統計分析力)				

《授業の概要》

認知心理学は心理学の中で人間の知的機能全般についての基盤となる部分を担います。情報の入力(感覚)、最低限の意味の成立(知覚)、情報の処理(狭義の認知)をテーマとし、人の心の基礎過程について実験とモデルを両輪として理解します。それにより、人間の様々な心理・社会的な活動をより深く考察できるようになります。

《授業の到達目標》

- 「認知心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 感覚、知覚、認知の各過程を理解し分類することができる。
- 実験やモデルといった科学的な視点で心をとらえることができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、認知心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%  
レポート・小テストなど10%  
受講態度10%

《テキスト》

プリント(認知心理学講義ノート)を配布

《参考文献》

「知性と感性の心理 認知心理学入門」 行場次郎, 箱田裕治 (編) 福村出版  
「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄 サイエンス社

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法：特に予習は必要としない。
- ・ 復習の方法：復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください。

《備考》

本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	認知心理学って何？	認知心理学の概要を説明。
2	眼からの情報は脳へどう伝わるかⅠ(視覚の基礎)	網膜の役割。光信号から電気信号への変換。
3	眼からの情報は脳へどう伝わるかⅡ(エッジと形)	エッジの強調から形を知るまでの流れ。
4	感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)	ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則。
5	おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)	錯視のデモやその見えの仕組み。いくつかの対象がまとまって見える性質。
6	わたしたちの世界(三次元知覚)	三次元に世界を知覚するために必要な要素。大きさの恒常性。
7	見えていても見えていない(注意)	網膜に投影されることと「見える」こととの違い。注意の空間的および時間的性質。
8	自分が自分であるために(記憶)Ⅰ	記憶の分類。短期記憶から長期記憶へのシフト。
9	自分が自分であるために(記憶)Ⅱ	ワーキングメモリ。
10	いつも言葉で考える(言語)	言葉と脳。文の理解にかかわる処理。
11	人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)	顔を認識する能力。人種と顔。感情と顔。
12	一難去ってまた一難(問題解決)	洞察と情報処理による問題解決。
13	何が使いやすい？(デザインとアフォーダンス)	情報デザイン。感性デザイン。エコロジカル(生態学的)デザイン。
14	どっちを選ぶ？(意思決定)	期待効用。ヒューリスティックス。
15	これまで何を学んだか(まとめ)	実験とモデルによる心の理解。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	心理統計学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）				

《授業の概要》

心理学の代表的な研究方法に実験法や質問紙法があります。これらの手法を通して得られた数値に統計的な解析を行い、心についての理解を深めることができます。すなわち、統計についての学習は、心理学を学ぶ上で不可欠であるといえます。本講義では、具体的な問題についてソフトを利用した統計解析を行いながら、自らがデータを分析できるようになることを目指します。

《授業の到達目標》

- ExcelやJavaScript-STARで基本的な統計手法を実際に行うことができる。
- 統計についての基本的な考え方を理解し、データに対する適切な処理法を指摘することができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60%  
 レポート・小テストなど 20%  
 受講態度 20%

《テキスト》

『使える統計-Excelで学ぶ実践心理統計-』 櫻井広幸・神宮英夫 著 ナカニシヤ出版

《参考文献》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』 加藤司 北樹出版 (授業「心理測定法」のテキスト)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・復習の方法：もう一度テキストに目を通すとともに、授業で扱ったExcelなどの操作を確認しながら、統計手法の内容を確認してください。

《備考》

- 本科目は、教養科目「心理学」、専門科目「心理測定法」を修得後に受講してください。
- 認定心理士の資格取得を目指す人は、受講してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学と統計の関係
2	尺度	尺度の種類、度数分布とヒストグラム
3	記述統計 (1)	代表値
4	記述統計 (2)	標準偏差、分散
5	正規分布	正規分布の意味、正規分布の形の特徴
6	母集団と標本	サンプルの平均についての平均と標準偏差
7	推測統計と仮説検定 (1)	信頼区間
8	推測統計と仮説検定 (2)	対応のある t 検定、対応のない t 検定
9	分散分析 (1)	対応のある分散分析、対応のない分散分析
10	分散分析 (2)	分散分析の下位検定：多重比較
11	相関と回帰 (1)	相関係数
12	相関と回帰 (2)	回帰分析
13	ノンパラメトリック検定法 (1)	順位相関係数
14	ノンパラメトリック検定法 (2)	$\chi^2$ 検定
15	これまで何を学んだか	まとめ

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つようとする態度（社会的責任）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

臨床心理学はこころを理解しようとする心理学である。開拓者フロイトは大人の患者との精神分析的治療の中で人のこころの発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者はより年少の乳幼児と母親との関係性に焦点をあて内的世界の理解をしようと研究を進めた。この授業ではこれらのこころの研究の歴史を辿り、人と人が関わることで育まれる関係性の理解と自分自身と他者のこころの理解をめざす。

《授業の到達目標》

1. ひとのこころの不安の源泉はどこにあるかを知る。
2. 対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親の関係性という視点からみる対象関係論と具体的な子ども像を結びつけてイメージし、より適切な関わりを実践できるように学ぶこと。

《成績評価の方法》

筆記テスト50% レポート・確認テスト等20% 受講態度30%

《テキスト》

保育・教育に生きる臨床心理学 松島恭子監修・篠田美紀編著  
光生館 税別2200円  
その他必要な資料は適宜配布する

《参考文献》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

授業初回に上記参考図書にある112冊の文献一覧を配布する。できるだけ多くの本を読んで、こころの世界の理解をさらに深めてほしい。そのうち1冊について感想文を手書きで原稿用紙又はレポート用紙に5枚書き授業最終日までに提出すること。

《備考》

テキスト以外にも必要な資料を多く配布するので、A4ファイルを用意して毎回ファイルして下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学とは何か
2	フロイトの発見	無意識をめぐって
3	フロイトの精神分析①	防衛機制等の用語の理解
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いての学習
5	精神分析学からみた乳幼児期①	赤ちゃんの不安の源泉
6	精神分析学からみた乳幼児期②	母子発達理論
7	精神分析学からみた乳幼児期③	分離・個体化過程
8	ウィニコットの対象関係理論①	ホールディング（抱っこ）について
9	ウィニコットの対象関係理論②	描画療法（スクウィグル）
10	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法について
11	ユングの臨床心理学	ユング自身の人生とその心理学
12	箱庭療法	箱庭療法の実際
13	行動療法	行動を客観的にみて治療する行動療法について
14	認知行動療法	考え方・思考のクセに気づき、治療する認知行動療法について
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	心理測定法				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> </ul>				

《授業の概要》

心理学は科学的な性質を強くもっており、新たな知見を見出すためには、仮説を構築し実際に検証することが重要です。そのためには体系的なデータの取得方法や解析方法を心得ていなければなりません。本科目では、科学的に「ものをいう」ための基本的な作法について勉強します。テキストに従い、「研究に対する考え方の基礎」「実験法」「測定法」「分析法」などについて順序だてて説明します。

《授業の到達目標》

- 心理学の研究について、どのような方法論があるか類別できる。
- 研究における手順や留意点を説明することができる。
- 結果の解析に基本的な統計手法を用いることができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%  
レポート・小テストなど10%  
受講態度10%

《テキスト》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』  
加藤司 北樹出版

《参考文献》

『心理測定法への招待』 市川伸一編著 サイエンス社  
『はじめての心理統計法』 鶴沼秀行・長谷川桐 東京図書

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。必ずしも内容が理解できておく必要はありません。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。

《備考》

- ・本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学における研究の基礎①	科学的な心理学の成立までを概観
2	心理学における研究の基礎②	基本用語や心理学を支える幾つかの考え方
3	実験法①	独立変数や従属変数を考慮した実験計画
4	実験法②	実験結果を歪める剰余変数
5	さまざまな研究法	実験法以外の研究法：観察法、質問紙法
6	心理学的測定法①	刺激と心の関係を数量的にとらえる精神物理学
7	心理学的測定法②	被験者の意見や態度などを調べる評定法、性格などを調べる検査法
8	データ分析の基礎①	測定尺度、記述統計の基礎
9	データ分析の基礎②	推測統計の基礎
10	変数間の差の検定①	t検定 説明と練習
11	変数間の差の検定②	分散分析 説明と練習
12	変数間の関係	相関
13	ソフトウェアによる実習 I	分散分析、相関係数の算出など、コンピュータによる実習
14	ソフトウェアによる実習 II	分散分析、相関係数の算出など、コンピュータによる実習
15	まとめ	これまでの授業の振り返り

科目名	心理学基礎実験				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる （分析力、プレゼンター力）				

《授業の概要》

心理学の代表的な研究方法である実験法を、心理学の各領域における基礎的な実験を実際に行うことによって体験的に学びます。また、「実験目的」「実験方法」「実験結果」「考察」をレポートにまとめ、さらにそれを発表することで、心理学の科学的な考え方を体系的に身につけます。本科目での学びは、様々な領域や場面において、実際にデータを取得したり報告書を作成したりすることに役立ちます。

《授業の到達目標》

- 心理学の代表的な研究方法である実験法の特徴について、どのようなものか説明することができる。
- 心理学の各領域における基礎的な実験について実際に行うことができる。
- 実験結果を適切なやり方でまとめることができる。
- 結果から自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

レポート80%  
 受講態度10%  
 発表10%

《テキスト》

『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版

《参考文献》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』 加藤司 北樹出版 <授業「心理測定法」のテキスト>

《授業時間外学習》

授業時間中に完成させることができなかつたレポートを仕上げてください。レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください。送信先のメールアドレスは授業中に示します。レポートは添削し、次の授業の前半で講評を行います。

《備考》

本科目を受講するためには、前もって「心理学」「認知心理学」「心理測定法」を修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	実験に関する基本事項の説明、心理測定法の復習
2	実験1 知覚心理学 ミュラー・リヤー錯視	実験の説明、実験
3	実験1 知覚心理学 ミュラー・リヤー錯視	実験のつづき、基本的なレポートの書き方説明、レポートの作成
4	実験2 感覚心理学 触二点閾1	レポートの講評、実験の説明、実験
5	実験2 感覚心理学 触二点閾2	実験のつづき、レポートの作成
6	実験レポートの書き方	レポートの講評、より本格的なレポートの書き方の説明
7	実験3 認知心理学 自由再生1	実験の説明、コンピュータを用いた実験の準備
8	実験3 認知心理学 自由再生2	実験、レポートの作成
9	実験4 学習心理学 両側性転移1	レポートの講評、学習・知覚運動協応などの概念の説明、反転メガネによる知覚運動協応の体験
10	実験4 学習心理学 両側性転移2	実験の説明、実験
11	実験4 学習心理学 両側性転移3	実験のつづき、レポートの作成
12	実験5 社会心理学 パーソナルスペース1	レポートの講評、実験の説明、実験
13	実験5 社会心理学 パーソナルスペース2	実験のつづき、レポートの作成
14	実験のプレゼンテーション	発表準備
15	実験のプレゼンテーション	発表

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	心理療法 I				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心)</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度 (社会的責任)</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合)</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる (市民性・生涯学習力)</li> </ul>				

《授業の概要》

この授業では、テキストを用いて子どもの心理療法である遊戯療法について学ぶ。遊戯療法の本質、遊びの治療的機能、子どもの重要な心的活動としての遊び等、遊戯療法がもつ様々な特性を明らかにし、さらに心理臨床一般に共通するものとして理解する。

《テキスト》

遊戯療法と子どもの心的世界 弘中正美著 金剛出版

《参考文献》

子どもの心に出会うとき 心理療法の背景と技法 村瀬嘉代子著 金剛出版3500円＋税

《授業の到達目標》

子どもの心理療法である遊戯療法について具体的に理解し、対人援助職としてのこころの交流に役立ててほしい。

《授業時間外学習》

テキストをしっかりと読んでおくこと。

《成績評価の方法》

受講態度30% 毎回の授業ごとに提出するレポート30% 全体のまとめ40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	子どもの世界と遊び
2	遊戯療法の本質①	遊戯療法とはなにか
3	遊戯療法の本質②	いくつかの鍵概念
4	遊戯療法の本質③	表現することと心理的治癒
5	遊戯療法の本質④	心理療法における象徴的表現
6	遊戯療法の本質⑤	日常的出来事における治癒
7	遊戯療法の本質⑥	家族をめぐる心理学的諸問題について
8	遊戯療法の実際①	不登校少女の遊戯療法 I
9	遊戯療法の実際②	不登校少女の遊戯療法 II
10	遊戯療法の実際③	恐竜の世界を生きる男児の遊戯療法 I
11	遊戯療法の実際④	恐竜の世界を生きる男児の遊戯療法 II
12	遊戯療法の実際⑤	恐竜の世界を生きる男児の遊戯療法 III
13	遊戯療法の実際⑥	行動のコントロールがきかない子どもの事例 I
14	遊戯療法の実際②	行動のコントロールがきかない子どもの事例 II
15	心理療法 I のまとめ	現代の子どもは？



《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	心理療法Ⅱ				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

心理療法Ⅰで学んだ心理療法の基本をもとに、心理療法のプロセスについて学ぶ。また関係性という視点から、遊びの意味や治療の中で描かれる絵の意味や、イメージが伝えるものについての理解を深める。さらに発展して後半は、箱庭療法について、理論を学んだあと、箱庭療法の実習を体験し、こころが表現することと心理療法の枠組みの重要性などを体験してほしい。

《授業の到達目標》

I期の心理療法Ⅰで学んだ受容・共感・傾聴、支持といったこころへの関わり方を前提として、人と人が関わることによって生じる関係性というものの変化のプロセスを思い描けるようになること。

《成績評価の方法》

受講態度30% 毎回の授業ごとに提出するレポート30% 全体のまとめ40%

《テキスト》

こころで学ぶ心理療法 遠藤裕乃 日本評論社1700円＋税

《参考文献》

プレイセラピー 関係性の営み グリー・L・ランドレス著  
山中康裕監訳 日本評論社 3300円＋税

《授業時間外学習》

小学校高学年時代に夢中になった物語やストーリー性のあるゲームのテーマなどを思いだしてみる。授業の最後までにレポートとして提出すること。

《備考》

箱庭療法実習では、実習をする人も見守る人も毎回レポートを書いて提出してもらいます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	心理療法をめぐって
2	心理療法Ⅰの復習	
3	遊戯療法について	遊びの意味について
4	描画療法について	ウィニコットの描画療法 スクウィグルについて
5	描画療法実習	風景構成法実習
6	ユングの心理学について	
7	箱庭療法について	ユングの心理学と箱庭療法との関わり
8	箱庭療法の事例	
9	箱庭療法実習	
10	箱庭療法実習	
11	箱庭療法実習	
12	箱庭療法実習	
13	箱庭療法実習	
14	箱庭療法実習	
15	心理療法Ⅱのまとめ	

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育の目的達成のために学習指導要領に沿ってどのような教育内容をどのような手順で展開するかということを探究する授業である。教育課程は、広くは教育方法論において展開される領域であるが、教育内容の充実と選択の必要性から、教育課程の独立が成立した。以下のことを中心に授業は実施される。わが国の教育改革の歴史的展開と教育課程、教育課程の意義と目的について。

《テキスト》

広岡義之編著、『新しい教育課程論』、ミネルヴァ書房、2010年

《参考文献》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育課程は何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態をしているのか、学習指導要領における教育課程の意義と特徴との理解等を到達目標とする。また、これらの到達目標を主体的に探究することも到達目標ということができる。

《授業時間外学習》

課題が毎回到提示されるので、予習としてその課題に取り組む必要がある。講義では、テキストの内容をしっかりと予習し、さらに現代の教育的課題と関わる事が予想されるので、平日新聞を読んだりする必要がある。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加(討議、プレゼンテーション、質疑応答など)50%、小試験50% 授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは、試験の受験資格を失う。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人等のためにあるので、その人たちの妨げになる私語や遅刻はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育課程論オリエンテーション	教育課程論の授業に必要な基本的な視点、学習動機づけ、学習方法、評価などについて説明して、履修学生に履修決意をさせる。
2	教育課程の意義	教育課程の語源や歴史的発展を示し、教育課程成立時のその時代、その社会などについて考察し、教育課程の意義を考察し理解する。
3	学習指導要領と教育課程論	教育課程は、学習指導要領において展開されているので、両者の親密な関係をしっかりと理解する。
4	学習指導要領の変遷とそれぞれの特徴	学習指導要領の変遷は、教育課程にどのような変化と特徴をもたせているか、整理していく過程で学習指導要領が教育課程にいかにかかわるか把握させる。
5	教育課程編成の教育目的・目標	教育基本法・学校教育法・学習指導論などにある教育の目的や目標を考えた得腕、教育課程編成の教育目的・目標について探究する。
6	保育・教育課程の構成	現在求められている保育課程・教育課程を明確にして、編成において何が求められるのかまた、具体的な形態としてどのようなものが考えられ実施されているか理解する。
7	小学校教育課程の構成	小学校教育課程において、どのようなカリキュラムが生まれどのような内容が教授され、何が課題かなどを具体的に探究する。
8	中学校教育課程の編成	中学校教育課程において、カリキュラムの特徴、教育内容、テキストの採択などに関して解説することを通して、何が現在の課題であるか考察する。
9	高等学校教育課程の編成	高等学校教育課程において、どのような目的でどのような内容をどのような手順で実施されているかを客観的に考え、現代の課題を考える力を身につけさせる。
10	教育課程と教育行政(教科書の作成から採択まで)	教育課程は、教育行政と深くかかわっていることを教科書採択などの具体的事例を挙げながら、教育課程の本質を探る能力を養う。
11	総合的学習の時間と教育課程論	総合的な学習の導入のいきさつと発展について、学習指導要領とのかかわりから探究する力をつける。
12	学習指導要領改訂の要点	学習指導要領の改訂に伴ってそれぞれの改訂の特徴が教育課程にどのように反映されているか理解する能力を養成する。
13	教育課程の歴史的展開と教育方法	教育課程の語源や歴史的発展を提示し、教育課程をさらに深く理解する。
14	教育課程における教育方法の諸課題	教育課程と教育方法との関わりから教育課程をより明確に位置付けることを試みる。教育学の成立から教育課程が独立するまでを明確に理解できるようにする。
15	教育課程の現代的課題	教育課程が現代の教職課程において高く評価されることを基本に、今後の教育課程の進むべき方向を探究することを履修学生が主体的に考察できるようにする。

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

新学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する、また実践における実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得をすることを目的とする。そのために、①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて、などを中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解できるようにすることを狙いとする。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(70%)、授業態度(10%)、課題(20%)により評価する。課題は、現在問題になっている出来事を探究する。

《テキスト》

広岡義之の編著 『新しい特別活動論』 創言社 2009年

《参考文献》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートと整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
3	特別活動の歴史	特に戦前の学校教育で実施されていた学校行事などを紹介して、現代の特別活動の意義を明確にする。
4	特別活動と学習指導要領の変遷	戦後特別活動が誕生したいきさつと発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。
5	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説し分析し理解することができるように指導する。
6	特別活動の内容全体に関わる解析	特別活動の内容を全体的な視点から眺め、個々の内容理解のための準備をする。全体の内容の特徴を明確にする。
7	特別活動の内容とその特徴	特別活動における学級活動の位置づけに始まり、学級活動の内容を説明し、その特徴を明確にする。
8	特別活動の内容(ホームルーム活動)とその特徴	特別活動におけるホームルームの位置づけ、ホームルームの内容を解明し、その特徴を理解する。
9	児童会活動と学習指導要領	児童会活動がどのように理解され、その内容をどのように解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことが求められているか明らかにする。
10	生徒会活動と学習指導要領	学習指導要領における生徒会活動の評価、生徒会活動の内容把握と特徴の明確化を試みることによって、生徒会活動の教育課程における評価を考察する。
11	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の説明と、意義を学習指導要領の説明から抽出し、適切な理解を推進する。その行事に関わる危機管理に関しても明確にする。
12	文化的行事について	教科指導との関わりを明確にし、文化的行事の内容と特徴の把握に力を注ぐ。教科指導と特別活動との関連を理解する。
13	健康安全・体育的行事と旅行・集団宿泊的行事	健康安全・体育的行事と集団宿泊的行事との内容と特徴を理解し、その特徴を把握する。その上で、これらの行事の課題について考える。
14	勤労生産・奉仕的行事と特活の指導計画について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を明確にし、ゆとり教育の行事との違いを明確にしてみる。特別指導計画に関してその種類とそれらの特徴、留意点などを論じる。
15	特別活動の指導計画と評価について	特別活動の指導計画をさらに理解度を高め、最終段階の評価について考察してみる。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の系統的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計の系統的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも系統的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

- 自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
- 小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）
- 欠席回数が授業実施回数数の3分の1以上の場合には単位を与えない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	系統的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル — 独学を支援するために』北大路書房。

《参考文献》

稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル — 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。  
中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書  
その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。  
復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

『生徒指導の手引』書、『生徒指導提要』と生徒指導に関するテキスト『新しい生徒指導・進路指導』における理論に基づいて、事例研究を分析し、生徒指導の課題を認識し、課題の解決のための探究を展開する。進路指導に関して、必要な資質を持った教員養成が、現在社会に求められていることを十分に意識して、キャリア教育との関わりを明確にしていく。成長と発達との関係から生徒指導について考察する。

《テキスト》

加澤恒雄・広岡義之編著 『新しい生徒指導・進路指導』  
ミネルヴァ書房 2007年

《参考文献》

文部科学省著 『生徒指導提要』 文部科学省 2011年

《授業の到達目標》

生徒指導を、生徒指導の原理、生徒指導の方法論、学校教育における位置づけなどの理解をする。生徒指導が学校教育にどのような影響を与えることができるか解明する。進路指導の意味と方法論、進路指導に必要な資質を身につける。生徒指導がどのような過程で重視されることになったか、理解できるような能力を身につける。実際に、生徒を指導できる基本的な能力を身につける。

《授業時間外学習》

生徒指導に関わる事例研究に関する著書を収集し、または大学図書館で見つけ、重要と思われる本を読書することが必要である。また、事例研究の機会があればそれらに触れることは言うまでもなく、新聞をはじめマスコミが報道する記事は必ず目を通して、他の履修学生や教職を取っている先輩と生徒指導について話し合うことが必要である。

《成績評価の方法》

講義には積極的に参加(20%)し、課題が出てきたときに必ず探究してレポート提出ないし発表をするよう(20%)に心がけてほしい。定期試験(30%)は必ず受けること、また60%以上の成績を取ることが求められる。グループディスカッションには、積極的な参加が求められる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導に関するオリエンテーション	生徒指導の授業について説明、生徒指導の重要性を解明して教育課程における生徒指導の重要性について考える。
2	生徒指導の原理と目的について	生徒指導の領域の説明と生徒指導の原理と目的について解明する。
3	生徒指導の内容Ⅰ(内容を主として説明)	生徒指導において何をどのような手順で展開するか考える。
4	生徒指導の内容Ⅱ(内容の関わりを解明する)	生徒指導の内容それぞれがどのように関わっているか、有効な関わり方はどうあるべきか考察する。
5	生徒指導の方法	生徒指導の内容にふさわしい方法を考察し、方法をより有効に展開することを考えてみる。
6	生徒指導と新学習指導	生徒指導が新学習指導要領において活用されているか考える。
7	生徒指導と進路指導	生徒指導の中で進路指導がどのように位置づけられているか解釈することを試みる。
8	これからの進路指導	現在求められている生徒指導の現実とこれからの進路指導に求められるであろう者を考えてみる。
9	進路指導とガイダンス	進路指導におけるガイダンスの意義と機能について解明する。
10	青年期と生徒指導	青年期の心理とその発達と生徒指導の意義について考える。
11	青年期の心理的発達論と生徒指導	青年期の心理的発達論を歴史的観点から解明し、それらの理論が生徒指導にどのように生かされているか探究する。
12	生徒理解のさまざまな方法と技術	生徒理解にとって必要な方法と技術について、出来る限り新しいものを紹介する。
13	生徒指導と教育課程	教育課程と生徒指導の関係について明確にし、理解する。
14	進路相談	学校におけるカウンセリングと進路指導について明確にし、教育相談の意義をカウンセリングとの違いを明確にして生徒指導に生かすことを考える。
15	生徒指導の課題とキャリア教育	生徒指導の課題を取り上げ、キャリア教育を展開する際にどのように関わるか考える。

平成 22（2010）年度入学者

専門教育科目

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門	法学	講義		2					2									
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2					2									
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2						2								
	生涯学習論	講義		2					2									
	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◇				2								
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇				2								
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇				2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○						2							
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○							2						
	美と感性	講義		2					2									
基 礎	ライフデザイン論	講義		2										2				
	行政法	講義		2					2									
	家族社会学	講義		2						2								
	家族福祉論	講義		2							2							
	発達心理学	講義		2			▲			2								
	人間関係論	講義		2							2							
	親子関係の心理学	講義		2								2				琴浦 志津	169	
	健康心理学	講義		2							2							
	集団心理学	講義		2									2			[脇本 忍]	170	
	社会心理学	講義		2						2								
教 育	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2						2								
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2							2							
	教育心理学	講義		2			△				2							
	ライフステージと健康	講義		2										2				
	食文化論	講義		2					2									
	食生活論	講義		2						2								
	レクリエーションワークⅠ	講義		2					2									
	レクリエーションワークⅡ	講義		2						2								
	演習Ⅰ	演習		4						4								
	演習Ⅱ	演習		6								6						
専 門 コ ア 目	現代社会と福祉Ⅰ	講義		2		○	◇	△	2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○	◇	△		2								
	社会保障論Ⅰ	講義		2		○	◇				2							
	社会保障論Ⅱ	講義		2		○	◇					2						
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2		○		△	2									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2		○		△		2								
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2		○		△			2							
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2		○		△				2						
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2		○	◇					2						
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2		○	◇						2			田端 和彦	171	
ア 目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2		○	◇					2						
	就労支援の制度とサービス	講義		2		○							2			[谷口 泰治]	172	
	権利擁護と成年後見制度	講義		2		○	◇						2			牧田 満知子	173	
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義		4		○	◇	△				4						
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義		4		○	◇	△					4			加藤 洋子	174	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習		1		○		△		2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習		1		○		△			2					牧田・高橋・井上・加藤	175	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習		1		○		△					2			牧田・高橋・井上・加藤	176	
	社会調査の基盤	講義		2		○			2									
	社会調査の応用	講義		2						2								

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△				2							
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△				4						村上・加藤	177
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△					4					村上・加藤	178
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2		○		△						2					
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△						12				牧田・高橋・田端・井上・加藤	179
	地域経済論	講義		2								2					田端 和彦	180
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇							2				[西澤 正一]	181
	福祉工学	講義		2										2				
	まちづくり論	講義		2									2				稲富 恭	182
	国際福祉論	講義		2											2			
	スクールソーシャルワーク	講義		2											2			
	更生保護制度	講義		1	○									1			光田 豊茂	183
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○									2			[西澤 正一]	184
	インターンシップ	実習		4										12			稲富・高橋	185
社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2					②		②		②		②		不開講		
社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2						②		②		②		②	不開講		
教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇						2					村上 須賀子	186
	応用医療福祉論	講義		2									2				村上 須賀子	187
	精神保健福祉論	講義		6		◇					6							
	精神医学Ⅰ	講義		2		◇					2							
	精神医学Ⅱ	講義		2		◇						2						
	精神保健学Ⅰ	講義		2		◇							2				村上 須賀子・(竹内 一夫)	188
	精神保健学Ⅱ	講義		2		◇								2			村上 須賀子・(竹内 一夫)	189
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2		◇							2				[知念 奈美子]	190
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2		◇								2			[知念 奈美子]	191
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義		2		◇							2				光田 豊茂	192
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義		2		◇								2			光田 豊茂	193
	精神保健福祉援助演習	演習		4		◇							4				光田 豊茂	194, 195
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇									12			
	老年医学	講義		2										2			不開講	
	認知心理学	講義		2									2					
	心理統計学	講義		2									2					
	臨床心理学	講義		2									2					
	心理測定法	講義		2									2					
	心理学基礎実験	実験		2										4				
	心理療法Ⅰ	講義		2										2				
心理療法Ⅱ	講義		2										2					
心理検査法実習	実習		2											4			琴浦 志津	196
行動分析論	講義		2											2			(森田 義宏)	197
心理カウンセリング演習	演習		2											2				
老人・障害者の心理	講義		2											2			[奥 典之]	198
色彩論	講義		2											2			浜島 成嘉	199
社会福祉特別演習	演習		4											4				
卒業演習	演習		4											4				

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目



# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授 業 方 法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2			△	2										
	教育原理	講義		2			△	2										
	教育制度論	講義		2			△		2									
	教育課程論	講義		2			△			2								
	福祉科教育法	講義		4			△				4					(竹内 一夫)	200, 201	
	特別活動論	講義		2			△			2								
	教育方法・技術論	講義		2			△			2								
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			△			2								
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△		2									
	事前・事後指導	演習		1			△						1			稲富・吉原	202	
	高等学校教育実習	実習		2			△							4				
	教職実践演習（高）	演習		2			△								2			

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
- ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	親子関係の心理学				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解き力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input checked="" type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） <input type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

ひとはこの世に生れて以降、最初に出会う親との関係から様々なものを取り入れ成長していく。この授業では、ひとのライフサイクルを全体として見渡した上での「親子関係の心理学」をひとつひとつの時期に焦点をあて、テキストの事例を題材にしながら学んでいく。様々な現場で出会っていく様々な人たちへの人生を理解して、その援助に役立てるだけでなく、自分自身の人生をふりかえり考えていく力も身につけてほしい。

《授業の到達目標》

病院、個人クリニック、学生相談室、教育センター、老人施設など様々な現場での臨床実践を11段階のライフサイクルの時期にわけて事例とともに理解していく。ライフサイクルの各時期における親子関係の変化について理解する。

《成績評価の方法》

受講態度30% 何度かのレポート30% まとめのレポート40%

《テキスト》

臨床実践からみるライフサイクルの心理療法 松島恭子編 創元社2500円

《参考文献》

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで授業にのぞむこと。ライフサイクルの各時期ごとにレポートを提出する。普段から新聞などで親子関係に関する記事などを収集しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	テキストの読み解き方
2	乳児期の親子関係	抱っこと抱えの心理療法
3	幼児期前期の親子関係	食べることをめぐって
4	幼児期後期の親子関係	親子としてともに育つ時期としての幼児期
5	学童期の親子関係	学童期の発達的特徴をおさえて
6	思春期の親子関係	変化する時期としての思春期
7	青年期前期の親子関係	プレ青年期と青年期前期
8	青年期後期の親子関係	この時期の特徴は
9	成人期の親子関係①	一人前になること
10	成人期の親子関係②	発達課題とこころの危機
11	中年期の親子関係①	第2の青春の陰り
12	中年期の親子関係②	更年期障害の考え方
13	高齢期の親子関係①	時計の時間とこころの時間
14	高齢期の親子関係②	こころの時間という視点からみた事例
15	親子関係の心理学まとめ	興味のあるライフサイクルとレポートの作成

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	集団心理学				
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる （共感力、観察問題発見力）				

《授業の概要》

社会心理学におけるグループダイナミクス領域について講義を行う。集団力学関連の先行研究から諸トピックスの紹介。映像教材を使用した事例などを検討する。

《テキスト》

使用しない。適時資料を配布する。

《参考文献》

『社会心理学』藤原武弘（培風館）他

《授業の到達目標》

社会における、規範や行動、リーダーシップなどの集団ならではの人間行動の特性。さらに社会現象や流行現象の領域について理解し、社会での応用を目標とする。

《授業時間外学習》

適時提示する。

《成績評価の方法》

定期試験 60%  
レポート提出 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教科の説明と授業運営について
2	勢力と影響	集団形成のメカニズム1.
3	集団コミュニケーション構造	集団形成のメカニズム2.
4	集団の形成と構造	集団形成のメカニズム3.
5	凝集性	集団形成のメカニズム4.
6	異形	特殊集団の認知と感情
7	集団規範	集団形成のメカニズム5.
8	リーダーシップ	集団形成のメカニズム6.
9	心の健康	社会現象1.
10	ジェンダー	社会現象2. .
11	流行現象と被覆行動	社会現象3.
12	マスコミと流言飛語	社会現象4.
13	関連先行研究の紹介	集団心理学に関する近年の研究紹介
14	復習とディスカッション	復習および発表
15	テスト	テストの実施

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ				
担当者氏名	田端和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

地域福祉に係る理論を学びます。その中で地域のニーズを探り、コミュニティで実現することを理解します。ソーシャルアクションや社会的企業、CSRなど地域の資源を活用しより良い社会を実現する能力を育みます。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

地域福祉に関する内外の理論について内容や歴史的な意義を理解し説明することができるようになります。また コミュニティの組織化の具体的な手法を獲得し実践の場で応用する能力を獲得します。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課しますので（3回に1回程度）、それをレポートとして提出してください。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉の理論と方法Ⅰの復習とⅡで学ぶ内容を説明します。
2	ニーズ論1	ブラッドショーの論に基づき、地域福祉のニーズについて解説します。
3	ニーズ論2	地域においてニーズをどのように把握するかを学び、考えます。
4	コミュニティオーガナイゼーション1	ソーシャルワークの役割としてのコミュニティオーガナイゼーションを理解します。
5	コミュニティオーガナイゼーション2	ソーシャルアクションなど具体的にコミュニティオーガナイゼーションを組立てます。
6	コミュニティオーガナイゼーション3	引き続き、コミュニティオーガナイゼーションの具体化を考えます。
7	ソーシャルサポートネットワーク1	ソーシャルサポートネットワークの定義を学びます。
8	ソーシャルサポートネットワーク2	ソーシャルサポートネットワークの地域福祉における必要性を理解します。
9	コミュニティソーシャルワーカー1	これまでのツールを用いてコミュニティでのソーシャルワークの実践を理解します。
10	コミュニティソーシャルワーカー2	これまでのツールを用いてコミュニティでのソーシャルワークの実践を理解します。
11	地域福祉理論1	岡村、右田らによる日本の地域福祉の理論を説明します。
12	地域福祉理論2	引き続き、岡村、右田らによる日本の地域福祉の理論を説明します。
13	地域福祉サービスの評価1	地域福祉サービス評価を必要とする背景を理解します。
14	地域福祉サービスの評価2	具体的にどのようにサービス評価が行われるかを解説します。
15	地域福祉と福祉教育	福祉教育の必要性の背景を理解し、その意味を考えます。

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	就労支援の制度とサービス				
担当者氏名	谷口 泰司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input checked="" type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

労働は、人間の“尊厳”にとって不可欠なものであるだけでなく、社会保障を支えるという点でも重要な役割を担っている。

本講義では、従来障害者や生活保護等の限定的な領域で語られることの多かった就労問題をより広角度でとらえ、就労支援を通じたソーシャルワークの実践並びに“尊厳”の一側面の理解に資することを目的として展開する。

《授業の到達目標》

(1)「働く」ということの価値と、それが奪われることにより生じる問題について理解し説明できる。(2)社会保障における労働政策の占める重要性について説明できる。(3)個別領域（障害者・高齢者・低所得者等）における就労支援の現状と課題について説明できる。(4)上記をふまえ、就労支援の今後のあり方について、自分自身の意見を持つことができる。

《成績評価の方法》

テスト（80%）、平常点（随時のレポート、質問等の発言：20%）

《テキスト》

使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》

『就労支援サービス』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座18〕（中央法規出版）

《授業時間外学習》

アルバイトをしている学生であれば実体験のこととして、そうでない場合も身近にヒアリングができる問題であるので、講義内容を自身の体験等に照らしたうえで掘り下げて考えてみる時間をとってほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	労働とは何か	労働の定義、労働の意義について
2	労働形態の変遷	様々な労働形態、今日までの労働形態の変遷について
3	現代社会における労働問題	今日的な労働問題について
4	失業と社会的排除	失業の定義と実態、社会的排除の形態と失業との関係について
5	労働施策以外の領域との関係	労働施策と経済、社会保障との関係について
6	就労支援の必要性和今日までの変遷	就労支援の意義及び効果等について
7	各論：障害者就労支援Ⅰ	障害者の一般就労の現状と課題について
8	各論：障害者就労支援Ⅱ	障害者雇用促進法の概要と就労支援の課題について
9	各論：障害者就労支援Ⅲ	障害者自立支援法における就労支援の課題について
10	各論：高齢者就労支援	高齢者に対する雇用と所得保障の現状と課題について
11	各論：生活保護世帯就労支援	自立支援プログラム及び就労支援の現状と課題について
12	各論：母子世帯就労支援	母子世帯に対する就労支援の現状と課題について
13	各論：若年者就労支援	若年者に対する就労支援の現状と課題について
14	就労支援の課題と展望	就労支援ネットワークの現状、今後の展望等について
15	まとめ	通常試験とふりかえり

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度				
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3				

(創造的思考力)

《授業の概要》

日本国憲法、行政法、民法等の理解を再確認し、介護保険法の車の両輪として設定された「成年後見制度」について、権利擁護の観点から、その概要、運用について理解を深める。

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

授業中、適宜指示する。

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者、障害者に係る法・制度を理解し、その運用について正しく把握する。
- (2) 権利擁護を必要としている人々の現状、およびさまざまな福祉サービスを理解し、その実際を学ぶ。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、関連図書などの紹介も行う。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (30%)
- (3) 定期試験 (50%)

《備考》

対話式の授業を行うので、出席は不可欠である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および授業の概略をつかむ。
2	成年後見の概要	成年後見人の役割と権利・義務
3	保佐の概要	保佐人の役割と権利・義務
4	補助の概要	補助人の役割と権利・義務
5	任意後見制度の概要	任意後見契約・公正証書
6	日常生活自立支援事業の概要	日常生活自立支援事業の概要について学ぶ。
7	成年後見制度利用支援事業の概要	成年後見制度利用支援事業の概要について学ぶ。
8	成年後見制度と関係機関(1)	家庭裁判所
9	成年後見制度と関係機関(2)	法務局(後見登録)、市町村
10	成年後見制度と関係機関(3)	弁護士、司法書士、社会福祉士、民間人
11	権利擁護活動の実際(1)	認知症高齢者、知的障害者、精神障害者
12	権利擁護活動の実際(2)	被虐待児童、虐待者、非行少年
13	権利擁護活動の実際(3)	消費者被害者、多重債務者
14	権利擁護活動の実際(4)	アルコール依存者、る違反犯罪者
15	I期まとめ	補充説明とI期の総まとめ。

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ（% %）				
担当者氏名	加藤 洋子				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる				

《授業の概要》

ソーシャルワークの担い手である社会福祉士は、地域社会の中で機能することが求められる。このため、社会の変革や地域生活上の課題を検証しながら、前半として社会福祉士の役割・機能を知る。具体的にはソーシャルワークとは何か、その構成要素とは何かについて学び、ソーシャルワークの発展過程を演習しながら学ぶ。

《授業の到達目標》

社会福祉士の法的根拠を理解する。またソーシャルワークとは何か、その構成要素とは何かについて学び、ソーシャルワークの発展過程・ソーシャルワークの基礎的知識を学ぶこと。また、社会状況と課題解決に向けた相談援助の方法について演習を通し習得して行ってほしい。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加態度およびレポート（30%）  
定期テスト（70%）などにより総合的に評価する。

《テキスト》

社会福祉援助技術ISBN978-4-903060-37-8 C30362008年4月15日 編者 松井圭三・小倉毅 大学図書出版 2400円＋税

《参考文献》

新・社会福祉士養成講座（6）相談援助の基盤と専門職〔単行本〕  
社会福祉士養成講座編集委員会（編集）出版社：中央法規出版；第2版（2010/02）ISBN-10：4805832533 ISBN-13：978-4805832530

《授業時間外学習》

新聞などで、社会情勢や社会福祉にかかわる法改正・地域課題などをスクラップし、タイムリーに社会状況の分析や方策を知覚できるよう自己訓練しておきましょう。自分は、どのような性格なのか考えてみましょう。そう言った自己覚知の鍛錬も大切です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ソーシャルワークの概念・人権擁護について考える。
2	現代社会と福祉援助技術	社会福祉士とは・社会福祉士の見直し及び法改正
3	ソーシャルワークの意味と定義①	Aピンカスとミナハンのシステム論を用いた統合理論を理解する。
4	②	生態学エコロジカル・ソーシャルワークとは、何か理解する。
5	③	ケースワークの定義・グループワークに関する定義・パイスティック7原則を理解する。
6	④	偏見と差別について考え、人権擁護・ソーシャルワーカーの倫理観について学習する。
7	⑤	ソーシャルワークの意味を理解する。マズローの欲求段階からニーズを把握する。ターミナルケアとソーシャルワーカーの支援を学ぶ。
8	スーパービジョンとコンサルテーションの技術	スーパービジョンの方法を知る。教育的機能・管理的機能・瘳炎的機能を理解する。スーパービジョンとコンサルテーションの技術を学ぶ。
9	専門的態度	スーパービジョンとコンサルテーションを学ぶ。カウンセリングとソーシャルワークの相違・ケアワークとの相違及びケアやソーシャルワークの視点を学ぶ
10	ケースワークの歴史と展開過程の変遷	イギリスからアメリカへの歴史の変遷と特徴的な展開過程を学ぶ。アセスメントからターミネーションまでの展開過程や6Pについて学ぶ。
11	個別支援計画を知る。	個別支援計画について学ぶ。
12	面接技法とコミュニケーション技法	ケースワークの目的・展開過程・留意点イーガンの面接における身体的関わり方・言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについて学ぶ。
13	マイクロカウンセリング・グループワーク	マイクロカウンセリングを知る。グループワークの展開過程・構成要素について学ぶ。
14	事例研究法①さまざまなソーシャルワーク	貧困・障害女性の性的被害・性同一障害を抱える対象者とソーシャルワーカーの役割について考える。
15	まとめ	社会福祉士の姿勢・人権擁護の立場から考える。

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ (※ 'S )				
担当者氏名	加藤 洋子				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる (倫理性) ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができ				

《授業の概要》

ソーシャルワーク論の基礎について学ぶ。ソーシャルケースワークの基礎的な知識を構築する。後半は、事例研究を行い、ソーシャルワーカーの役割を認識する。また、様々なアプローチの理論を学習していく。ソーシャルワーカーとして、援助者との関係性の中での倫理観を身につけていく。

《テキスト》

相談援助の理論と方法Ⅱ 中央法規 ISBN978-4-8058-3255-4  
 ソシャルワーク倫理ハンドブック 仲村優一 中央法規 ISBN4-8058-1789-5C3036

《参考文献》

ソーシャルワークとグローバリゼーション 仲村優一 編集  
 日本ソーシャルワーカー協会国際委員会 2003年8月 相川書房  
 新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』2010年1月 中央法規出版

《授業の到達目標》

ソーシャルケースワークの基礎的な知識を学び、相談援助技術の基盤を形成する。加えて、ソーシャルワーカーとしてのさまざまなクライアントと接する中での倫理観の演習をおし、身につけていくこと。

《授業時間外学習》

各回の内容を振り返ること、とくに章ごとにまとめたプリントはその時々で整理し理解するように努めること。

《成績評価の方法》

レポート(10%)、テスト(80%)、出席姿勢(10%)  
 ソシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	グループワークの基礎知識	ノールズの集団の定義・グループワークの意義と構成要素・展開過程におけるソーシャルワーカーの役割を学ぶ
2	コミュニティーワークの基礎知識	コミュニティーワークの展開技法と統計調査について学ぶ。地域移行やコミュニティーソーシャルワーク実践から学ぶ。
3	コミュニケーションと面接技法	コミュニケーションと面接技法・言語的・非言語的コミュニケーションの技法
4	個別援助技術・集団援助技術・方法と概念	ジェネリックとスペシフィック・診断主義・機能主義折衷主義の定義と技術を理解する。
5	相談援助演習の枠組みとねらい・面談の記録	基本・分析・専門技法と支援技法について学ぶ。アセスメント方法・フェースシート・ジェノグラムの書き方と分析・記録内容を学習する。
6	ソーシャルワーカーの役割	貧困生活・いじめ・浮浪者等の支援におけるソーシャルワーカーの役割について学ぶ。ケースワーク演習生活史の聴き取りを行う。
7	ソーシャルワークの様々なアプローチ①	問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・危機介入アプローチの展開過程と支援焦点・支援展開について学ぶ。
8	事例研究法① 被災地支援とターミナルケア	被災地支援とターミナルケアにおけるソーシャルワーカーの役割について学ぶ。
9	社会福祉士倫理規程と倫理原則	人間としての平等・自己実現の権利と社会的責務・ワーカーの職責。クライアントとの関係編 利益の優先・個別性の尊重・受容・秘密保持について考える。
10	障害者自立支援法とソーシャルワーカー業務	障害者自立支援法の概要とソーシャルワーカーの役割。機関との関係 所属機関と綱領の精神・業務改革の責務などについて考える。
11	ソーシャルワークの様々なアプローチ②	行動変容アプローチ・エンパワメントアプローチの基盤理論と支援過程を学ぶ。
12	事例研究法② 不景気社会と若年者の貧困生活	若者の住宅貧困の課題・リストラ等の不景気社会の浮浪者支援の課題とソーシャルワーカーの役割について考える。
13	ソーシャルワークの様々なアプローチ③	ナラティブアプローチ・実存主義アプローチ・フェミニストアプローチの支援展開と適用課題を学ぶ。小テスト
14	事例研究法② 貧困家庭に育つ児童の支援	多問題家族と言われる貧困家庭における生活保護受給の支援・児童の支援とソーシャルワーカーの役割について考える。
15	ソーシャルワーカーとしての専門性	チームアプローチとケースカンファレンスの技術・ソーシャルワーカーの専門性について学ぶ。



科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
担当者氏名	井上 浩、牧田 満知子、高橋 千代、加藤 洋子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる （知識・技能の統合）				

《授業の概要》

本科目は、「ソーシャルワーク実習」に結ぶための実習指導である。ソーシャルワークを実践していくためには、利用者の特性を知る必要がある。あるいは、施設の役割を理解している必要がある。本科目は、以上のことから目的を二つにおいている。すなわち、利用者とのコミュニケーションを取って来ること、施設分析ができること、である。後半は、実習の振り返りが中心となる。

《授業の到達目標》

以下の点を到達目標に置く。

- ①利用者とのコミュニケーションを取るなど、利用者との関わりができるようになること。
- ②施設分析ができること

《成績評価の方法》

基礎実習を行い、その体験を振り返ることができた場合に最低評価を与える。すなわち、利用者とはどれだけコミュニケーションをとってこられたのかということと、施設分析ができたかどうかである。さらにその体験を、グループを通じて他者と共有し、グループ発表ができた場合に加算される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	配属実習	施設にて実習を行う
2	配属実習	施設にて実習を行う
3	配属実習	施設にて実習を行う
4	配属実習	施設にて実習を行う
5	後半オリエンテーション	後半分の進め方について説明する
6	実習振り返り（1）	個人での振り返り
7	実習振り返り（2）	グループでの振り返り
8	実習振り返り（3）	グループでの振り返り
9	基礎実習報告会の準備（1）	報告会の主旨と進め方について
10	基礎実習報告会の準備（2）	基礎実習報告会の準備を行う
11	基礎実習報告会の準備（3）	基礎実習報告会の準備を行う
12	基礎実習報告会の準備（4）	基礎実習報告会の準備を行う
13	実習報告会	基礎実習報告会の実施と本実習報告会の見学
14	報告会の振り返りとソーシャルワーク実習	報告会を振り返り、ソーシャルワーク本実習に向け準備をする
15	予備日	予備日

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（基礎実習）」の手引きを用いる

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《授業時間外学習》

基礎実習報告会を進めていくにあたり、教員と授業時間外で打合せを行う場合がある。

《備考》

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担当者氏名	井上 浩、牧田 満知子、高橋 千代、加藤 洋子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>◎ 3-2人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合)</li> </ul>				

《授業の概要》

本科目は、ソーシャルワーク実習（本実習）の事前指導にあたる科目である。本実習に対する動機付けや実習の目的を明らかにするための、事前指導として位置づけている。ソーシャルワーク実習自体が持つ目的を明らかにさせながら、学生が自分で実習を組み立てられるよう支援をしていくための科目である。なお、本科目にはソーシャルワーク実習を終えた後の事後指導も含まれてくるので、学生には注意をされたい。

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク実習（本実習）の目的に合わせて、次の観点が理解できる。

- ①実習先の利用者理解
- ②ソーシャルワークの必要性と役割

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅲの手引き」を使用する

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習テーマの作成や実習計画書の作成で、授業時間外の作業が求められる。

《成績評価の方法》

4年次Ⅰ期に行われる後半分と併せて評価を行う。

《備考》

ソーシャルワーク実習（本実習）の事前・事後指導なので、ソーシャルワーク実習（本実習）を履修しなかった場合、単位はキャンセルされる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	実習の目的、課題についての説明
2	ソーシャルワークについての復習	ソーシャルワーカーの役割や機能について
3	施設分析（1）	高齢者施設／児童施設
4	施設分析（2）	障害者施設／地域
5	施設分析（3）	医療
6	実習テーマの作成（1）	テーマ作成の意義と手順について
7	実習テーマの作成（2）	テーマの作成（実習先担当者との面談を含む）
8	実習テーマの作成（3）	テーマの作成と実習計画書の作成
9	利用者理解（1）	アセスメントの練習
10	利用者理解（2）	アセスメントの練習
11	利用者理解（3）	アセスメントの練習
12	予備日	実習計画書作成の個別指導
13	書類確認	実習先に提出する書類の確認
14	実習記録について	実習記録の書き方と具体的な演習
15	実習前最終オリエンテーション	配属実習に向けた最終確認

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク演習 I				
担当者氏名	村上 須賀子・加藤 洋子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

本科目は、これまで学んできた社会サービスと援助技術論の演習を通じて具体的な支援に結びつけられるよう体得することを目的にしている。援助技術のうちI期ではケースワークを主とする。

《テキスト》

『対人援助技術の実際』 白石大介著 創元社 1988  
プリント配布

《参考文献》

『ケースワークの原則「新訳版」』F・Pバイステック著 誠信書房 1996

《授業の到達目標》

ミクロの場面で、社会サービスと援助技術とを結びつけることができる

《授業時間外学習》

『ケースワークの原則「新訳版」』F・Pバイステック著を読みレポート作成

《成績評価の方法》

演習は毎回出席が原則である。評価は出席状況（30パーセント）  
レポート（30パーセント）授業態度（40パーセント）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	社会福祉援助技術のスキル構造を理解する
2	自己の理解	対人援助職としての自己覚知（自己理解、他者からの目）を深める
3	自己覚知	自己覚知を深めるとともに自己の活用法を考える
4	コミュニケーション入門	自己覚知を深めるとともに自己の活用法を考える
5	面接技法(1)	面接技術基本：「対人援助技術の実際」を理解する
6	面接技法(2)	面接技術基本：「対人援助技術の実際」を理解する
7	事例の理解	事例を読みロールプレイ場면을想定する
8	ロールプレイ	事例のインシデント場面のロールプレイを行う（ビデオ収録）
9	ロールプレイ振り返り	前回のビデオ収録の分析評価を行う
10	ソーシャルワークの記録	ビデオを観て事例の記録を書く
11	ロールプレイ	事例のインシデント場面のロールプレイを行う（ビデオ収録）
12	ロールプレイ振り返り	前回のビデオ収録の分析評価を行う
13	バイステックの原則	バイステックの原則を自らの言葉で解説する
14	生活史理解	生活史把握の意味を理解する
15	生活史聞き取りの実際	生活史聞き取りの課題に取り組む

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担当者氏名	村上 須賀子・加藤 洋子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

本科目は、これまで学んできた社会サービスと援助技術論の演習を通じて具体的な支援に結びつけられるよう体得することを目的にしている。援助技術のうちⅡ期ではメゾ・マクロ領域を主とする。

《テキスト》

毎回レジュメを配布する

《参考文献》

《授業の到達目標》

- ・ケアマネジメントを用いた支援を用いた支援を組み立てることができる。
- ・グループを用いた支援を組み立てることができる。
- ・メゾ領域における支援計画を立てることができる。
- ・マクロ領域におけるソーシャルアクションも立案できる。

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

学期末に、事例に基づいた支援計画をプレゼンテーションし、クライアントのニーズを把握し、アセスメントができていのかどうかで評価する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	ケアマネジメント	ケアマネジメント事例の理解
3	ケアマネジメント	ケアマネジメントアセスメント
4	ケアマネジメント	ケアマネジメントアセスメント
5	グループワーク	グループを用いた支援方法 (1)
6	グループワーク	グループを用いた支援方法 (2)
7	カンファレンス	カンファレンス事例と理解
8	カンファレンス	カンファレンス・ロールプレイ
9	コミュニティワーク	コミュニティワーク事例の理解
10	コミュニティワーク	コミュニティワーク実践・計画立案
11	ソーシャルアクション	ソーシャルアクション事例の理解
12	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションについて立案する
13	援助技術の統合	困難事例を理解しマクロ・メゾマクロ視点から検討 (1)
14	援助技術の統合	困難事例を理解しマクロ・メゾマクロ視点から検討 (2)
15	援助技術の統合	困難事例を理解しマクロ・メゾマクロ視点から検討 (3)

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習				
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、高橋 千代、井上 浩、加藤 洋子				
、授業方法	実習	単位・必選	12・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-5市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

本科目は、学部ソーシャルワーカーとしての力量を確認するための実習である。これまで学生は教養科目で心理学や法学などを学び、さらに人間の行動に関する諸理論を学び、社会サービスに関する科目と援助技術論を学び、これらを机上で演習として学習してきた。本科目は、これまで学んできた内容を実践の場で試行し、集大成としてまとめるものである。

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導の手引き」を使用する

《参考文献》

特に指定はしないが、学生自らが実習に行く分野に関連した図書と、ソーシャルワーク援助技術に関連した文献

《授業の到達目標》

学部レベルのソーシャルワーカーとしての力量を保っていること。具体的には以下の項目となる。

- ①利用者理解
- ②ソーシャルワーク援助技術
- ③施設分析

《授業時間外学習》

実習記録を書くために時間外を要する場合がある

《成績評価の方法》

実習先からの評価50%、学内評価50%

《備考》

本科目はソーシャルワーク実習であると同時に、社会福祉士受験資格のための実習でもあるので、勤務時間の扱いが厳格になる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	配属実習	施設や機関で実習を行う
2	配属実習	施設や機関で実習を行う
3	配属実習	施設や機関で実習を行う
4	配属実習	施設や機関で実習を行う
5	配属実習	施設や機関で実習を行う
6	配属実習	施設や機関で実習を行う
7	配属実習	施設や機関で実習を行う
8	配属実習	施設や機関で実習を行う
9	配属実習	施設や機関で実習を行う
10	配属実習	施設や機関で実習を行う
11	配属実習	施設や機関で実習を行う
12	配属実習	施設や機関で実習を行う
13	配属実習	施設や機関で実習を行う
14	配属実習	施設や機関で実習を行う
15	配属実習	施設や機関で実習を行う

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	地域経済論				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

グローバル化だからこそローカルが重要になる時代。地域経済を巡る環境は大きく変化しています。地域経済に関する最近の話題から産業や開発、交通など複数のテーマを設定、現状や課題などを解説します。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業内で指示をします。

《授業の到達目標》

地域の経済事情に関心を持ち、ニュースの経済記事の背景を理解することができます。またイノベーションや社会的企業など地域経済のキーワードを説明することができるようになります。

《授業時間外学習》

3回に1回程度宿題を課しますのでそれを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉と地域経済の関係、授業の内容について解説します。
2	地域経済の現状1	身近な地域を参考にして、地域経済の重要性と地域経済での主役を考えます。
3	地域経済の現状2	身近な地域を参考にして、地域経済の重要性と地域経済での主役を考えます。
4	震災と地域経済	阪神・淡路大震災、東日本大震災と地域経済の関係を政府や市場の役割から解説します。
5	日本の地域経済と産業集積	産業統計を基にして日本の地域経済の現状を明らかにします。
6	地域交通について1	地域交通の現状と課題を、環境や福祉の側面から解説します。
7	地域交通について2	地域交通の現状と課題を、環境や福祉の側面から解説します。
8	農業と地域経済	農業の自由化で世界はどう変わる？安心安全な農業とは何かを考えます。
9	地方財政の危機と現在1	地方財政の現状と課題を考えます。
10	地方財政の危機と現在2	地方財政の現状と課題を考えます。
11	地域経済格差	地域格差はなぜ生じるのか、その計測の方法と解消について解説します。
12	地域のボランタリー経済1	コミュニティビジネスと地域通貨の活用・地域におけるボランタリー経済の課題を解説します。
13	地域のボランタリー経済2	コミュニティビジネスと地域通貨の活用・地域におけるボランタリー経済の課題を解説します。
14	地域開発論1	戦後から現在までの地域開発の歴史を解説します。
15	地域開発論2	戦後から現在までの地域開発の歴史を解説します。

科目名	福祉行財政と福祉計画				
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉も、近年の社会福祉基礎構造改革や三位一体の改革に伴って、また一方では介護保険制度や障害者自立支援法の施行等によって大転換が図られ、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へと行財政のあり方も改めて問われる時代となってきた。社会福祉の現状と今後の動向を理解するため、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《授業の到達目標》

① 基本的な福祉政策の形成過程理解する②これまでの国と地方の役割や福祉サービス供給体制や制度の経緯を知る。③福祉サービスを利用する住民の視点で制度政策を理解する。④高齢者・障害者等が地域で自立して生活できる総合的支援策を組み立てる ⑤少子高齢化社会の問題を自分達の課題として考える。以上を通して福祉行財政の全般を理解し自らも福祉計画を作成することができる。

《成績評価の方法》

受講状況(20%)＋学期末試験など(60%)＋その他、授業態度など(20%)で総合的に判断

《テキスト》

著者名：西村健一郎・品田充儀 編著 書名：「よくわかる社会福祉と法」 出版社・出版年：ミネルヴァ書房2010年10月5日初版第2刷発行(定価¥2600+税) その他、随時プリント等配布

《参考文献》

著書名：編集委員（河幹夫・小林良二・和気康太）  
書名：新・社会福祉士養成講座第10巻「福祉行財政と福祉計画」第2版 出版社：中央法規出版2010年1月発行

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、随時指示された期日までに提出
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は確認のこと

《備考》

※授業内容は講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の学習を始めるにあたって、それを取り巻く環境や社会福祉法制の原理と学習について概要説明
2	社会福祉の法体系と目的	社会福祉の社体系と主要な分野、また社会福祉の最近の傾向等について理解できる。
3	社会福祉法制の展開	日本に於ける社会福祉の起源と戦後の展開、また措置制度から契約制度への転換や、今日の社会福祉基礎構造改革等について学ぶ事ができる。
4	社会福祉における給付の法構造	社会福祉給付の方式と申請方法、また措置制度と自立支援給付等について学べる。
5	社会福祉の財政と利用者負担	社会福祉の財政方式と利用者負担の意義、また公費負担と福祉財政の地方格差の問題について学べる。
6	福祉サービスの提供体制	福祉に関する事務所や社会福祉法人等の役割を研究し、社会福祉の行政組織と今日の多様な社会福祉事業について学ぶ事ができる。
7	福祉サービス利用者の権利とその擁護	社会福祉サービスを利用する人々の権利と権利擁護制度の仕組み等について学べる。
8	高齢者福祉	社会福祉六法の中の高齢者福祉について全般を理解すると共に、介護保険制度の創設や要介護認定の方法・サービス利用の手続き等について学べる。
9	障がい者福祉	社会福祉六法の中の障がい者福祉について全般を理解すると共に、障害者自立支援法の成立や身体及び障害者福祉の沿革について学べる。
10	児童・母子福祉	社会福祉六法の中の児童・母子福祉について全般的に理解すると共に、特に児童と母子寡婦福祉の支援施策について理解できる。
11	低所得者福祉（生活保護を中心として）	社会福祉六法の中の生活保護法について理解を深めると共に、生活保護の原理・原則、また沿革と今日の現状について課題を見いだす事が出来る。
12	苦情解決・不服申立てと行政訴訟等	各種福祉事業に於ける苦情解決と不服申立について理解を深め、社会福祉と国家賠償・行政訴訟等についても学べる。
13	社会福祉の将来像	少子高齢化の問題や社会福祉事業が抱える課題と将来像について共に研究をする。
14	社会福祉法制の今後の課題と展望	今日の社会情勢を踏まえ、各種社会福祉の問題点と課題、またあり方について学び、社会福祉法制の今後の課題と展望に結びつける事ができる。
15	まとめ	社会福祉行財政の全般的理解の確認と共に、学生自らが主体的に問題を見だし、多様な福祉サービスのなかで自己が何をなすべきかを考えられる。

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	まちづくり論				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

「まちづくり」は単に道路や建物を造る事ではなく、全ての人が安全で快適な生活を送ることのできる環境をつくり、そのための仕組みを考えたりする活動です。本授業のねらいは、「まちづくり」の実践に必要な知識を習得するとともに、価値判断能力を身につけることにあります

《授業の到達目標》

- 「まちづくり」に必要な専門的知識、手法について理解する。
- 積極的に「まちづくり」に関与できる能力を身につける

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施するレポート(60%)、授業中に不定期に実施する小テスト(40%)

《テキスト》

- ・テキストは用いない

《参考文献》

- ・『まちづくりキーワード事典 第三版』三船 康道、学芸出版社、2009
- ・『まちづくり教科書』(全10 巻) 日本建築学会編、日本建築学会、2005
- ・『住民参加でつくる地域の計画・まちづくり』日本まちづくり協会編、技術書院、2002

《授業時間外学習》

- ・予習の方法  
各回の授業内容に関連したまちづくり事例を新聞、Web 等の媒体を用いて調査する。
- ・復習の方法  
授業内容に従い、ノートを制作する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス:まちづくりとは	神戸市真野地区のまちづくりを事例に「まちづくり」の意味について考える。
2	まちづくりに関わる法制度(都市計画法の概要)	土地区画整理事業、市街地再開発事業、地区計画について理解する。
3	中心市街地におけるまちづくり	滋賀県長浜市におけるまちづくりを例に中心市街地活性化手法について理解する。
4	まちづくりにおける住宅と住環境の整備	住宅問題と住宅政策、密集市街地における住環境整備について考える。
5	まちづくりと市民参加	まちづくりと市民組織、市民を中心としたまちづくり手法について理解する。
6	景観とまちづくり	景観法の概要と景観形成手法について学ぶ。
7	歴史を活かしたまちづくり	近江八幡市の伝建地区、彦根市の中心市街地整備を例に歴史資産の利用について学ぶ。
8	公園とまちづくり	都市緑地法と公園計画について理解する。
9	安全と安心を確保するためのまちづくり	神戸市を例にまちづくりにおける防災計画、防犯計画について学ぶ。
10	福祉のまちづくり	バリアフリー、ユニバーサルデザインと高齢者居住を例に福祉のまちづくりについて理解する。
11	まちづくりと交通	富山市、ストラスブルを例に交通問題とその対策手法、ノーマライゼーション、ショップモビリティ等について理解する。
12	まちの歴史と形態	歴史的な都市の発生形態と近代の都市計画手法について学ぶ。
13	サステナビリティとコンパクトシティ	コンパクトシティ、スマートグロース政策を中心に近年のまちづくり動向について概観する。
14	事例調査のプレゼンテーションと講評	各自の調査内容についてプレゼンテーションを実施する。
15	小テストの解説とまとめ	小テストを実施するとともに、その内容について確認する。また授業全体についてのまとめ、補足説明を行う。



《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	更生保護制度				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>			

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を知るために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関係する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2009

《参考文献》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。  
事情が許せば、矯正施設（刑務所または少年院）の見学学習を考えた。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	触法障害者の福祉的支援	犯罪を犯した障害者に対して、福祉的支援がなぜ必要であるのかを、その支援を行っている福祉職から話を聞いて、その支援の必要性を理解する。（ゲスト講師予定）
5	更生緊急保護	更生緊急保護の意義やその対象となる者、期間、その内容や手続きについて理解する。
6	刑余者に対する就労支援	刑余者等に対して、矯正施設内や社会内処遇で、どのような就労支援が行われているのかをゲスト講師を招いて、その支援内容を学ぶ。（ゲスト講師予定）
7	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
8	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	福祉サービスの組織と経営				
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉は、特に介護保険制度や障害者支援費制度導入という大転換が図られたが、既に11年以上経過し福祉サービス提供組織も多様化する中、そのあり方が課題となっている。また措置から契約という利用者自ら選択する時代の元で、単なる運営から経営という新たな感覚が問われる時代にもなってきた。福祉サービスに係わる組織とその運営について、教科書中心でなく福祉の実践体験を通じて学ばせる。

《テキスト》

著者名：小松理佐子 編著 書名：「よくわかる社会福祉運営管理」 出版社・出版年：ミネルヴァ書房2010年3月1日初版第一刷発行 その他、随時プリント等を配布

《参考文献》

書名：新・社会福祉士養成講座13巻「福祉サービスの組織と経営」第2版 出版社・出版年：中央法既出版・2010年1月発行

《授業の到達目標》

- ①福祉サービスに係わる組織の団体について学ぶ
  - ②福祉サービスに係わる組織の経営について基本的理論を理解する
  - ③福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ
  - ④福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する
- 以上を通して、全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける運営のあり方を考えることが出来る。

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出の事
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は随時確認する事

《成績評価の方法》

受講状況（20%）＋学期末試験など（60%）＋その他グループ討議の発表態度や講義時の態度等を総合的に判断（20%）

《備考》

※授業計画における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合あり。基本的にテキストに沿うが福祉現場の実践事例や報道資料を多く活用し、受講者自ら考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉専門職としての資格取得や社会福祉事業に就く者として、テキストのみの机上理論を身につけるのではなく、実践としての社会福祉の運営管理について学ぶ姿勢を説明
2	社会福祉運営管理の考え方	社会福祉運営部門とその原理・原則、また枠組みや構成要素と財源等について理解する事ができる。
3	社会福祉供給の基本理論	社会福祉供給の基本理論の中で、特に利用者ニーズに対する福祉サービスを理解し、その公共性やガバナンスについて学べる。
4	社会福祉組織運営(経営)の基礎理論	社会福祉組織の経営という観点から、その意志決定と人事・労務管理・チームマネジメントとリーダーシップについて理解し、リスクマネジメントの重要性を学べる。
5	福祉サービスの提供主体	福祉サービスの提供主体である国と地方自治体、社会福祉法人と特定非営利法人や医療法人等の役割、また民間の営利法人との協働について理解する事ができる。
6	社福・医療法人・特定非営利活動法人の運営管理	個々の法人の組織や資金源とその運営について理解すると共に、多様な福祉サービスの提供について学べる。
7	多様な主体によるサービスの創出	今日までに創設されているサービスと新たな福祉サービスの創出について学び、特にこれからの地域に於ける協働運営の重要性について理解できる。
8	社会福祉の運営管理システム	国並びに都道府県・市町村の役割を学ぶと共に、福祉ニーズとサービスの調整や今日の福祉サービス提供の単位となっている小・中学校区の運営システムを理解できる。
9	地域類型にみる運営管理の課題	大都市や地方都市、また中山間地や離島における、それぞれの地域類型にみる問題点とその運営管理について理解する事が出来る。
10	福祉サービスの質の管理と利用者支援	今日特に問われてきている各種社会福祉サービスの質の管理について学び、その監査や情報公開、また苦情処理とリスク管理について理解する事が出来る。
11	福祉人材の育成と確保(労働環境の整備含む)	社会福祉従事者の養成・確保について学び、そのなかで取り込まれるOJTやOff-JT、またスーパービジョンやキャリアパスについて理解する事が出来る。
12	地域の運営管理と福祉専門職	地域に於ける社会福祉運営とそれに係る福祉専門職について理解し、各種運営協議会の実際について学べる。
13	社会福祉施設の運営管理と福祉専門職	社会福祉施設の運営管理とその福祉専門職について理解しその業務内容や役割等について学べる。
14	社会福祉運営管理を担う福祉専門職の展望	社会福祉運営管理を担うこれからの福祉専門職のあり方について、自らの課題として捉え、主体的にあり方を考える事が出来る。
15	まとめ	学生自らが関心をもった福祉サービス事業について更に理解を深め、自己の今後の役割について共に考えられる。

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	稲富 恭・高橋千代				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとす態度（社会的責任） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

インターンシップは、企業や NPO などの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ること重要な目的となっています。

《テキスト》

最初の授業時間の際に指示します。

《参考文献》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することができます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることができます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることができるようになります。

《授業時間外学習》

企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備は全て授業時間外で実施することになります。  
 インターンシップは授業時間と重ならないようにするため、主に夏季休暇等長期休暇期間で実施する予定です。

《成績評価の方法》

授業態度（30%）、インターンシップ先での評価（30%）、事後の振り返りにおけるレポート等（40%）

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することができます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	企業とは何か。	経済社会における位置づけと日本経済について概観する。
2	企業とは何か。	制度的側面と規模、業種等について理解する。
3	企業研究(1)	企業の活動について理解する。（産業・業界編）
4	企業研究(2)	企業の活動について理解する。（規模・業態編）
5	企業研究(3)	企業の活動について理解する。（制度編）
6	企業研究(4)	企業の活動について理解する。（企業以外の雇用の場）
7	インターンシップ実習の実施	インターンシップ先の希望調査と調整を行う。
8	社会人基礎力の形成(1)	マナーや事務書類の書き方等、ビジネス等での活動に必要なスキルについて学ぶ(1)
9	社会人基礎力の形成(2)	マナーや事務書類の書き方等、ビジネス等での活動に必要なスキルについて学ぶ(2)
10	社会人基礎力の形成(3)	マナーや事務書類の書き方等、ビジネス等での活動に必要なスキルについて学ぶ(3)
11	(実習)	インターンシップ
12	(実習)	インターンシップ
13	(実習)	インターンシップ
14	(実習)	インターンシップ
15	授業のまとめ	インターンシップの振り返りと反省を行う。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	医療福祉論				
担当者氏名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>			

《授業の概要》

社会福祉専門職の基礎知識としての保健医療サービスを理解する。テキストを使用して保健医療サービス全般の基本的知識を押さえ、ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ。

《テキスト》

第2版『保健医療サービス』 村上須賀子・横山豊治編著 久美出版 2011 『医療福祉総合ガイドブック2012年度版』 村上須賀子・佐々木哲二郎・奥村晴彦編著 医学書院 2011

《参考文献》

患者、精神障害者の闘病記や介護体験記

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者(患者・家族)を中心とした連携のあり方を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

患者および精神障害者、その家族など当事者の闘病記や体験記を複数読み込みレポートにまとめる。医療福祉問題に関する新聞をスクラップにし、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

定期試験60% レポート40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療分野のソーシャルワークの実際	保健医療分野のソーシャルワークの実際学ぶ、事例及びビデオによる学習
2	病むことの意味	病むことの意味学ぶ、患者家族の奮闘記・体験記を読み発表し合う
3	各医療専門職の役割	各医療専門職の役割を理解する
4	医療ソーシャルワーカー業務指針	医療ソーシャルワーカー業務指針を理解する
5	保健医療サービスの概要	保健医療サービスの概要を理解する
6	診療報酬制度	診療報酬制度を理解する
7	保健医療対策	保健医療対策を理解する
8	連携の意味	連携の意味を学ぶ
9	保健医療サービスにおける連携の意味	保健医療サービスにおける連携の意味を学ぶ
10	地域の社会資源との連携	地域の社会資源との連携を理解する
11	医療機関別実践	医療機関別実践・低所得者への医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
12	医療機関別実践	医療機関別実践・総合病院における医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
13	当事者理解	当事者に学ぶ
14	医療保険制度	医療保険制度を理解する
15	介護保険制度	介護保険制度を理解する

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	応用医療福祉論				
担当者氏名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>			

《授業の概要》

医療福祉分野、精神保健福祉分野のソーシャルワークの専門性を理解し、その実践の組み立てを学ぶ。テキストを中心に事例検討も重ね、各専門分化した実践を具体的に学ぶ。Ⅰ期の医療福祉論Ⅰの発展科目に位置する。

《テキスト》

「新・医療福祉学概論」 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子編著 川島書店 2010

《参考文献》

「在宅医療ソーシャルワーク」村上須賀子・京極高宣他編著 勁草書房 2008

《授業の到達目標》

専門分化した医療環境の変化を理解し、各専門分野における医療ソーシャルワークの特性を理解する。事例検討を重ねることにより、各事例に対して支援プロセスの対案を考えられるようになる。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、ディスカッションに参加できるように疑問点や自己の意見などをまとめておくこと。

《成績評価の方法》

レポート40%  
プレゼンテーション10%  
期末テスト50%

《備考》

進路として、医療領域・精神医療領域希望の学生は必須である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
2	医療福祉の歴史	医療の場における実践の歴史を理解する
3	保健医療サービスを支える診療報酬制度	診療報酬制度、介護保険制度の基本枠組みを理解する
4	保健医療サービスを支える介護保険制度	診療報酬制度、介護保険制度の今日の課題を理解する
5	保健医療サービスのあり方を示す医療法	医療法の変遷から今日の医療サービスの課題を理解する
6	さまざまな保健医療機関の役割と課題	機能分化した医療機関の役割と課題を理解する
7	チームにおけるコーディネートと多職種協働	多職種協働のあり方を理解する
8	利用者主体を実現する医療ソーシャルワーカー	利用者主体を理解しその実現をはかる医療ソーシャルワーカーのあり方を学ぶ
9	医療ソーシャルワーカーの実践から問う地域連携	今日の地域連携の実際と課題を理解する
10	在宅医療ソーシャルワーク	在宅医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
11	在宅医療ソーシャルワーク	在宅医療ソーシャルワーク事例検討をする。（その1）
12	在宅医療ソーシャルワーク	在宅医療ソーシャルワーク事例検討をする。（その2）
13	在宅医療ソーシャルワーク	在宅医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
14	在宅医療ソーシャルワーク	在宅医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ。
15	地域医療ソーシャルワーク	地域医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ。

《基礎科目 専門コース科目》

科目名	精神保健学 I				
担当者氏名	村上 須賀子・竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《テキスト》

へるす出版 精神保健学・精神保健福祉士講座

《参考文献》

《授業の到達目標》

テキストを使用して精神保健の基本的知識を押さえる。ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ

《授業時間外学習》

学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《成績評価の方法》

レポート課題等に対する取り組み（20%）  
 授業への取り組み各回コメント（20%）  
 期末テスト（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1章	精神保健に関する諸概念と歴史
2	第1章	精神保健（精神衛生）
3	第1章	保健・健康
4	第1章	正常とは、異常とは
5	第1章	正常とは、異常とは
6	第2章	精神保健の身体的基礎
7	第2章	精神と精神機能
8	第3章	精神障害の基礎知識
9	第3章	精神障害とは
10	第3章	初老期・老年期の精神障害
11	第4章	ライフステージと精神保健
12	第4章	胎児期の精神保健
13	第4章	新生児期、乳児期の精神保健
14	第4章	幼児期の精神保健
15	ゲストスピーカー	ゲストスピーカー

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神保健学Ⅱ				
担当者氏名	村上 須賀子・竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《テキスト》

へるす出版 精神保健学・精神保健福祉士養成セミナー

《参考文献》

《授業の到達目標》

テキストを使用して精神保健の基本的知識を押さえる。ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ

《授業時間外学習》

学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《成績評価の方法》

レポート課題等に対する取り組み（50%）  
授業への取り組み各回コメント（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第4章	児童期の精神保健
2	第4章	青年期
3	第4章	成人期
4	第4章	初老期・老年期
5	第5章	地域精神保健福祉（活動）
6	第5章	地域精神保健福祉の状況
7	第5章	地域精神保健福祉活動をめぐる概念
8	第5章	地域精神保健福祉活動と社会福祉
9	第5章	社会病理への対応
10	第6章	精神保健福祉制度
11	第6章	精神保健福祉行政のあらまし
12	第6章	精神保健福祉法の歴史
13	第6章	新しい精神保健福祉の考え方
14	第6章	具体的な精神保健福祉施策
15	ゲストスピーカー	ゲストスピーカー

科目名	精神保健福祉援助技術各論 I				
担当者氏名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

精神科ソーシャルワークのケースワーク、グループワークおよびコミュニティワークについて学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉援助技術各論』日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2009

《参考文献》

『精神科ソーシャルワーカーの実践とかかわり～御万人の幸せを願って～』名城健二、中央法規、2007

《授業の到達目標》

精神科ソーシャルワークのケースワーク、グループワークおよびコミュニティワークについて支援プロセスと方法を説明できる。

《授業時間外学習》

シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《成績評価の方法》

- (1) 授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20%
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%（試験は「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個別援助技術の展開過程①	個別援助技術（ケースワーク）の展開過程の概要を説明することができる。
2	個別援助技術の展開過程②	個別援助技術（ケースワーク）の展開過程におけるインテークおよびアセスメントの各局面について説明することができる。
3	個別援助技術の展開過程③	個別援助技術（ケースワーク）の展開過程における計画、介入、事後評価および集結の各局面について説明することができる。
4	ケースワークの実際①	事例を通して危機介入、移送制度による介入および家族支援に関するケースワークの概要を理解し、説明することができる。
5	ケースワークの実際②	事例を通して退院支援、居住支援、就労支援に関するケースワークの概要を理解し、説明することができる。
6	ケースワークの実際③	事例を通して権利擁護および医療観察法に基づく援助に関するケースワークの概要を理解し、説明することができる。
7	集団援助技術の展開過程	集団援助技術（グループワーク）の展開過程の概要および準備期、開始期、作業期、集結期の各局面について説明することができる。
8	集団援助技術の実際①	事例を通して精神科デイケアおよび地域のデイケアに関するグループワークの概要を理解し、説明することができる。
9	集団援助技術の実際②	事例を通してアルコール・薬物依存症および心理教育に関するグループワークの概要を理解し、説明することができる。
10	集団援助技術の実際③	事例を通してSSTおよび就労支援に関するグループワークの概要を理解し、説明することができる。
11	地域援助技術の展開過程①	地域援助技術（コミュニティワーク）の展開過程の概要について説明することができる。
12	地域援助技術の展開過程②	地域援助技術（コミュニティワーク）の展開過程における各局面の概要について説明することができる。
13	コミュニティワークの実際①	事例を通して退院支援、セルフヘルプグループ支援および地域人材の活用に関するコミュニティワークの概要を理解し、説明することができる。
14	コミュニティワークの実際②	事例を通して雇用・就労支援、災害時支援、社会資源開発および地域啓発活動に関するコミュニティワークの概要を理解し、説明することができる。
15	まとめ	今期の学習内容をふり振り返り、各援助技術のポイントを説明することができる。



《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ				
担当者氏名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

精神科ソーシャルワークにおけるケアマネジメント、チームアプローチ、障害者福祉計画作成・進行管理、精神保健福祉士の共通技術について学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉援助技術各論』日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2009

《参考文献》

『精神科ソーシャルワーカーの実践とかかわり～御万人の幸せを願って～』名城健二、中央法規、2007

《授業の到達目標》

精神科ソーシャルワークにおけるケアマネジメントのプロセスと方法、チームアプローチ及び連携の方法、障害福祉計画作成の過程と進行管理および評価方法の他、精神保健福祉士の共通技術で有る面接、記録、スーパービジョン、効果測定の方法について説明できる。

《授業時間外学習》

シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《成績評価の方法》

- (1) 授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20%
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%（試験は「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ケアマネジメントの展開過程	ケアマネジメントの展開過程の概要を説明できる。
2	ケアマネジメントの実際①	障害者自立支援法におけるケアマネジメントの位置づけについて説明できる。
3	ケアマネジメントの実際②	ACT(包括的地域生活支援) およびストレングスモデルの概要を説明することができる。
4	チームアプローチと連携①	チームアプローチにおけるコンサルテーションの展開と実際について説明することができる。
5	チームアプローチと連携②	チームアプローチの展開と実際およびその特徴と課題について、概要を説明することができる。
6	チームアプローチと連携③	ネットワークの展開と実際について説明することができる。
7	障害福祉計画①	障害福祉計画における基本指針の考え方およびニーズ調査について概要を説明することができる。
8	障害福祉計画②	障害福祉計画の作成過程について概要を説明することができる。
9	障害福祉計画③	障害福祉計画の進行管理およびその評価について概要を説明することができる。
10	精神保健福祉士の共通技術①	精神保健福祉士の共通技術における契約および介入の概要と方法について説明することができる。
11	精神保健福祉士の共通技術②	精神保健福祉士の共通技術における面接の概要と方法について説明することができる。
12	精神保健福祉士の共通技術③	精神保健福祉士の共通技術における記録の概要と方法について説明することができる。
13	精神保健福祉士の共通技術④	精神保健福祉士の共通技術におけるスーパービジョンの概要と方法について説明することができる。
14	精神保健福祉士の共通技術⑤	精神保健福祉士の共通技術における評価・効果測定の概要と方法について説明することができる。
15	まとめ	今期の学習内容をふり返り、各項目についての概要および重要なポイントを説明することができる。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神科リハビリテーション学 I				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>			

《授業の概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きて行く上での生活の質（QOL）を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《テキスト》

『精神科リハビリテーション学』日本精神保健福祉士養成協会編集、中央法規出版、2009

《参考文献》

【精神障害リハビリテーション】野中猛、中央法規出版、2003

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、精神科病院や社会復帰施設、地域の様々な施設、機関での精神科リハビリテーションの取り組みについて説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの概念とその定義の変遷を知ると共に、リハビリテーションの歴史として、形成期・確立期・発展期の各期の状況を理解する。
2	リハビリテーションの理念、意義と基本原則	ADLからQOLへとリハビリテーションの理念が変化してきたことに伴って出てきたノーマライゼーションの理念や国際生活機能分類の考え方について理解する。
3	精神科リハビリテーションの概念	精神科リハビリテーションが障害者リハビリテーションから始まり、その概念がどのように変遷し地域リハビリテーションへと発展してきたかを理解する。
4	精神科リハビリテーションの理念と意義	WHO（世界保健機関）の障害者リハビリテーションの理念に基づいて、精神科リハビリテーションの理念とその意義について理解する。
5	精神科リハビリテーションの基本原則と技法	精神科リハビリテーションの基本原則に基づいて、精神科リハビリテーションの技法として医学的、教育的、社会的、職業的側面からの技法を理解する。
6	精神科リハビリテーションの対象	精神科リハビリテーションはどのような時期に、どのような場所で、どのような状況の対象者に対して実施するのかを理解する。
7	精神科リハビリテーションにおけるPSWの役割	PSWが精神科リハビリテーションにおいて、どのような役割を担うのか、また今後の課題としてどのようなことがあるのかを理解する。
8	専門職等との連携	精神科リハビリテーションを進める上で、多様でますます拡大する専門職等との連携に必要な原則や留意点について理解する。（ゲスト講師予定）
9	精神科リハビリテーションの施設	精神科病院や社会復帰施設、地域のリハビリテーション施設、及び精神保健福祉センター等の行政機関の概要やその役割について理解する。
10	精神科リハビリテーションの関連領域	福祉事務所、特定非営利活動法人、当事者団体、社会福祉協議会、ハローワーク等、関係領域としてどのような機関、施設があるのか、またその役割や機能を理解する。
11	精神科リハビリテーション計画	対象者の障害特性を考慮しながら、どのようなリハビリテーション計画を立てて行けば良いか、また、その評価方法として、どのような尺度があるのかを理解する。
12	精神科病院におけるリハビリテーションの方法	精神科リハビリテーションの基本原則に基づいて、精神科病院における治療とリハビリテーションのプロセスについて理解する。
13	社会復帰施設等におけるリハビリテーション	社会復帰施設や障害福祉サービス事業におけるリハビリテーションの内容とその役割について理解する。
14	地域におけるリハビリテーションの方法	地域リハビリテーションの意義とその特徴、及び、その具体的な活動内容や方法について理解する。
15	疾病の経過とライフサイクルへの取り組み	疾病の経過に応じたリハビリテーションの対応について知ると共に、ライフサイクルにおける生活課題とその取り組みについて理解する。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

精神科リハビリテーションⅠを踏まえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、それに携わる精神保健福祉士の役割について講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座3『精神科リハビリテーション学』日本精神保健福祉士養成協会編集、中央法規出版、2009

《参考文献》

【精神障害リハビリテーション】野中猛、中央法規出版、2003

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	医療機関におけるリハビリテーション総説	医療機関で行うリハビリテーションの目的は何か、また、どのようにリハビリテーションを進めるのか、集団で行うリハビリテーションの意義などについて理解する。
2	作業療法	精神科作業療法の今日までの歴史を知り、どのような作業療法の活動があるのか、また回復状態に応じて作業療法の目的や役割が違うということを理解する。
3	精神科作業療法の実際	実際に医療現場で行われている精神科作業療法のプログラムや活動内容について理解する。
4	レクリエーション療法	レクリエーション療法の活動内容やその目的、そして、レクリエーション療法を行う時の原則について理解する。
5	集団精神療法	集団精神療法とはどのようなものか、グループワークとどう違うのかを知り、集団精神療法の効果や構造について理解する。
6	行動療法	学習理論を基に不適応行動の変容に応用した治療技法である行動療法について理解する。（主に、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論の技法）
7	認知行動療法の概要	認知行動療法の基本的な考え方について理解する。（認知・感情・行動の三要素、自動思考やスキーマについて理解する。）
8	認知行動療法の実際	自動思考記録表（7つのコラム表）を用いて、実際の状況について認知再構成を試してみる。
9	社会生活技能訓練の理論	社会生活技能訓練の基本的考え方やその特色について理解する。
10	社会生活技能訓練の実際	具体的な例を用いて、実際にロールプレイを行いながら社会生活技能訓練の技法を体験してみる。
11	家族教育プログラム	精神障害者を抱える家族に対して、家族教育プログラムがどうして必要であるのか、また求められる家族教育プログラムの方法や進め方について理解する。
12	デイケア、ナイトケア	地域精神保健福祉活動のひとつとして、デイケアやナイトケアがどのように行われているかを理解する。
13	精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導	なぜ精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導が必要であるかを理解し、実際の訪問看護・指導がどのように行われているかを知る。
14	退院・地域移行支援	社会的入院患者に対して、退院促進をどのような行い、地域移行支援を実施しているのか理解する。
15	まとめ	これまで講義してきた精神科リハビリテーションの実際について総括し、医療機関における精神保健福祉士の果たす役割の重要性について理解する。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助演習（I期分）				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

『精神保健福祉援助演習』（精神保健福祉士養成セミナー第7巻）、へるす出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えて来て報告すること。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	自己紹介の後、これからの精神保健福祉援助演習のすすめ方やロールプレイの仕方などについて説明する。
2	ケースワーク事例（事例番号②）	保健所の精神保健福祉相談員の危機介入事例を通して、精神科医療への受診援助について考える。
3	ケースワーク事例（事例番号②）の続き	危機的状況にある本人・家族に対する援助の展開過程で考慮すべきことや、本人主体の援助をするために必要な視点や技法について考える。
4	インテークの取り方	インテーク面接での留意事項や面接内容について、ロールプレイを行いながら学習する。
5	ケースワーク事例（事例番号③）	精神科病院における退院援助事例を通して、精神保健福祉士として入院患者に対して、退院を促し、地域生活を送るためにどのような支援が必要であるかを考える。
6	ケースワーク事例（事例番号③）の続き	精神保健福祉士として退院援助、地域生活支援を進めるために、どのような視点で支援する必要があるのかを検討する。
7	生活保護制度	事例を通して生活保護制度の実際の活用について考える。
8	社会復帰施設見学予定	社会復帰施設を見学学習することによって、地域で生活している精神障害者の生活支援について考える。
9	精神保健福祉士の実務	精神保健福祉現場で働いている精神保健福祉士の実務について理解する。（ゲスト講師予定）
10	当事者理解	当事者の体験談を聞くことによって、当事者の思いやニーズを知り、支援者の役割を考える。（ゲスト講師予定）
11	入院形態・精神保健診察の流れ	精神科病院の入院形態や、その制度についての必要な知識と手続きを理解しておくと共に、精神保健診察の流れについて理解する。
12	ケースワーク事例（事例番号①）	精神科病院における精神保健福祉士の社会資源紹介事例を通して、社会資源の紹介の仕方や、関係機関との連携のあり方について考える。
13	ケースワーク事例（事例番号①）の続き	精神障害者の生活支援のための社会資源の活用方法や地域関係者との連携について、その援助過程をエコマップを作成して検討する。
14	ケースワーク事例（事例番号④）	社会復帰施設に入所している統合失調症患者に対して、精神保健福祉士が長期にわたりかわり、自立生活支援を試みた事例について検討する。
15	ケースワーク事例（事例番号④）の続き	社会復帰施設で働く精神保健福祉士の果たす役割について考えてみる。夏休暇課題説明（加古川市周辺の精神保健福祉領域の社会資源調査とマップ作り）

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助演習（Ⅱ期分）				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

『精神保健福祉援助演習』（精神保健福祉士養成セミナー第7巻）、へるす出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えて来て報告すること。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	夏休暇の課題報告	学生に夏休暇に調べた加古川市周辺の精神保健福祉領域の社会資源調査報告（マップ）を発表する。
2	グループワーク事例（事例番号⑩）	アルコール依存症者への精神保健福祉士のかかわり事例について検討する。
3	グループワーク事例（事例番号⑩）の続き	アルコール依存症者の病気に対する認識や治療動機づけを促しながら、セルフヘルプグループへの導入を考える。
4	自助グループの実際	AAまたはナラフンのメンバーを招いて、当事者（又は家族）の体験談を聞き、自助グループの役割を理解する。（ゲスト講師予定）
5	精神科病院デイケアの見学（予定）	精神科病院のデイケアの実際場面を見学して、どのような活動プログラムを使って、スタッフが参加しているメンバーに対して、どのように働きかけているかを学習する。
6	グループワーク事例（事例番号⑥）	精神科デイケア通院事例を通して、デイケアという集団場面での精神保健福祉士のメンバーに対するかかわり方について理解する。
7	グループワーク事例（事例番号⑥）の続き	精神保健福祉士の援助技術のひとつであるグループワークについて、事例を通して考え深めて行く。
8	地域における精神保健福祉士の業務	地域生活を行っている精神障害者に対して、地域で様々な形で支援を行っている精神保健福祉士を招き、その支援内容や役割について学習する。（ゲスト講師予定）
9	コミュニティワーク事例（事例番号⑫）	社会復帰施設におけるリハビリテーション相談事例による事例検討
10	コミュニティワーク事例（事例番号⑫）の続き	地域で自立した生活を営むために、地域で活用できる社会資源として、どのようなものがあるのか、またその活用の仕方について理解する。
11	地域の社会資源報告	地域における社会資源として、どのようなものがあるか、各自調べてきて報告発表する。
12	地域生活支援事例（事例番号⑭）	チームアプローチによる地域生活支援事例による事例検討
13	地域生活支援事例（事例番号⑭）の続き	地域生活支援センターと精神科病院の医療チームとの連携の仕方や留意することについて検討する。
14	学習の振り返り	これまでの事例検討を通して、精神保健福祉士としての援助の視点や援助技術、関係機関との連携の仕方について、考えてきたことについて振り返る。
15	次年度の精神保健福祉実習に向けて	演習で学んできた精神保健福祉士としての価値、倫理、知識、技術を踏まえて、次年度の精神保健福祉実習に臨むよう準備する。

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	心理検査法実習				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心)</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー)</li> <li>◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる (分析力、プレゼンテーション力)</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる (創造的思考力)</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる (市民性・生涯学習力)</li> </ul>				

《授業の概要》

福祉の現場に出ていった時、臨床心理士から利用者さんの心理検査のデータとしてもらったり、記録の中にある心理検査のデータをケースワークに活かすため、知っておくと役に立つ「心理検査」について知り、実習できるものは体験する。体験・実習した心理検査についてはレポートにまとめて自己理解を深めるためにも役立てほしい。

《テキスト》

『心理検査の理論と実際 第IV版』 花沢・佐藤・大村著 駿河台出版社2800園

《参考文献》

現代のエスプリ『別冊 臨床心理学シリーズII 「心理査定ブックシス」』

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査、性格検査、パーソナリティテストを体験・理解し、自己理解、他者理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで授業にのぞむこと。配布する資料は大量にあるが、将来福祉の現場でも活用できるものであるため、各自ファイルを用意してください。

《成績評価の方法》

受講態度30% 何度かのレポート30% まとめのレポート40%

《備考》

同じ日に2コマ連続で実施する授業である。遅刻欠席厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	
2	パーソナリティテスト	
3	児童相談所で用いられる心理検査①	
4	児童相談所で用いられる心理検査②	
5	児童相談所で用いられる心理検査③	
6	児童相談所で用いられる心理検査④	
7	病院で使用される心理テスト①	
8	病院で使用される心理テスト②	
9	病院で使用される心理テスト③	
10	病院で使用される心理テスト④	
11	投影法①	
12	投影法②	
13	描画テスト	
14	親子関係を知るテスト	
15	高齢者のための心理テスト	

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	行動分析論				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

動物は環境に様々な行動によって働きかけ、その結果によって行動が支配される。結果が行動を支配するという行動分析の考え方や理論、臨床的適用の事例を学び、望ましい行動を形成・維持し、望ましくない行動を抑制させるためのスキルを学ぶ。

《テキスト》

杉山尚子 「行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由」 集英社新書

《参考文献》

P. アルバート 「はじめての応用行動分析入門」 二併社

《授業の到達目標》

\*対象とする行動（ターゲットビヘイビア）が、どのような刺激によって維持されているのかを指摘できる。  
\*行動を変容させるためには、どのような環境操作が必要なのかを指摘でき、行動変容のためのプランニングができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ行動分析の様々な概念や用語、テクニックを日常生活で気になる行動に当てはめてみる。

《成績評価の方法》

試験80%と提出物20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	科学としての心理学のはじまりとその発展	デカルト 精神物理学 ヴント 要素主義 構成主義 科学 意識 無意識 精神分析
2	Pavlovの条件反射を学ぶ	無条件刺激 無条件反射 条件反刺激 条件反射 条件づけ 強化 汎化 分化 消去
3	行動主義心理学のはじまりとその展開	古典的行動主義 新行動主義 Hull Tolman 動因 誘因 認知地図 徹底行動主義
4	Skinnerの徹底行動主義	<ビデオ視聴> 循環論 オペラント レスポンデント 行動工学 ABC分析 強化 随伴性 強化子 反応のレパートリー 強化 消去
5	行動分析1 基礎1	functional analysis 神経生理学的説明 心的な説明 概念的説明 行動の実験的分析
6	行動分析2 基礎2	ラベリング 循環論 医学モデル 死人でもできる？
7	行動分析3 入門3	レスポンデント オペラント
8	行動分析4 行動の強化	行動随伴性 強化 好子 嫌子 好子出現の強化 嫌子消失の強化
9	行動分析5 行動の弱化	嫌子出現の弱化 好子消失の弱化
10	行動分析6 行動制御	強化随伴性による行動の制御 消去 復帰 先行刺激による行動の制御 汎化
11	行動分析7 行動形成	シェイピング シェイピング 強化の種類
12	行動分析の学習への応用	プログラム学習 スモールステップの原理 即時強化の原理 自己ペースの原理 積極的反応の原理 自己検証の原理
13	スキナーの言語理論	マンド タクト エコーイック イントラバーバル
14	応用行動分析	行動目標の設定 観察可能性 データの収集とグラフ化
15	まとめ	この授業で学んだスキナーの考え方、行動分析の理論と実践を振り返る

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	老人・障害者の心理				
担当者氏名	奥 典之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）  
福村出版

《参考文献》

下山晴彦 編「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。  
全評価に対する割合（％）については、最初の授業で説明する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として



《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	色彩論				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

「騒音」という言葉に対して「騒色」という表現がマスコミで用いられている。この言葉は特に、都市における景観色のあり方について、警告の意味として「騒色公害」などとも表現されている。色彩が生活のなかで無秩序で刺激的な色彩の氾濫により私達の日常生活に影響を与える。「色彩と生活」、「色彩と文化」、「環境と色彩等々について、改めて色彩の意味を考えます。

《授業の到達目標》

私達は、多くの色彩に囲まれています。無意識にそれらの色彩にかかわっていて、色が無言で発しているメッセージを「色彩科学」「色彩の感情効果」「社会と色彩」等々の視点から解き明かし、色彩のもつ不思議さを学習する事により、色彩をきれいな色とか汚い色といった感覚的だけでなく、理論的にそしてまた情報伝達の役割を果たしており、自分の生活にも取り入れ役立てることが出来ます。

《成績評価の方法》

- ・レポート課題100%
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

- ・『色彩科学入門』（日本色彩研究所・編 日本色研事業）
- ・『色彩』（大井義雄他・著 日本色研事業）

《授業時間外学習》

- ・各自の身の回りの生活用品（携帯電話、Tシャツ、口紅等々）の色彩を見ておくこと。

《備考》

- ・日常生活のなかで色に注目すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	・色彩論の概説	色彩を科学的、理論的視点からだけでなく、私達の生活のなかでどのように活用されているのかを改めて見直す。
2	・色彩と生活	色彩の時代を迎え、私達の周りにはおびただしい数の色が氾濫しており、色彩の果たす役割りは何かを考える。
3	・色彩と文化	各国によって同じ色でも、解釈の違いがありそれは何故なのか？
4	・色の見え方(色知覚のメカニズム)	色はただ単に見ているのではなく、ある現象によって色の見え方が異なることがあり、それはどうして起こるのか？
5	・色彩の感情効果	色は無言で、暖寒、軽重感等々我々に語りかけてくることについての解説
6	・イメージと色彩・Ⅰ	色は可愛い、落ち着いた、エレガンスというようなイメージを表わすことが出来る。
7	・シンボルとしての色彩・Ⅱ	(例)フランス国旗の色：トリコロールカラー・・・ 青(自由) 白(平等) 赤(博愛)を表わしている (国旗の色に見るシンボリズム)
8	・シンボルとしての色彩・Ⅲ	宗教と色彩、歌舞伎と色彩、視覚言語としての色彩
9	・色の表示方法	数限りない多くの色はどのように表わすのか？
10	・色名	それぞれの色には色の名前が付けられており、日本の色名の由来について説明。
11	・環境と色彩	ピンクの色のマンションが周辺住民の人達から大反対された？施設・病院の色彩
12	・企業と色彩	企業戦略としての色彩：コーポレートカラー(例・ユニクロ、セブンイレブンの色は)
13	・社会と色彩・Ⅰ	流行色が求められる背景とその時代的変遷。伝達手段としての色彩
14	・社会と色彩・Ⅱ	安全色彩について
15	・現代社会における色彩の役割	色彩は社会に於てどのような役割りを果たしているのか？

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法 (I期分)				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

I期では福祉科教育に設定されている9科目について、その教育目標の確認と検討、また生徒の教育上、指導上の留意点について検討を加える。また福祉にかかわる専門職としての価値、態度についても検討を加える。

《テキスト》

文部科学省『高等学校学習指導要領 福祉編』 海文堂 2010

《参考文献》

文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』 海文堂 2009

《授業の到達目標》

- ①福祉科教育に携わる教員として求められる知識と技術について理解でき、説明できる。
- ②専門職として、利用者にどのような態度で関わるべきかの心が構えが説明できる。
- ③教育科目に沿った教材の選定と、準備ができるようになる。
- ④演習科目の実技が指導できるようになる。

《授業時間外学習》

授業に使える教材は生活の中に様々存在している。つねに新聞、雑誌、報道内容、等に注意しておくことと、街中や公共施設での障害者対策の現状を観察しておくこと。授業はシラバスに沿って展開される。教科書、配布資料に常に目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

評価は通年とする。  
評価項目とその関与率は、受講態度30% レポート試験50%、提出物20%とし、その総合計で採点し、評価とする。

《備考》

徹底して、調べる、資料を読み込むという力をつけること。授業中の質問、意見発表は歓迎する。原則、授業の欠席は認めない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高校生に福祉を教える	社会的経験の少ない生徒に社会福祉の目的、具体的な支援方法をどのような観点から伝え、理解を促していくかを検討する。
2	福祉科設定の経過と、生徒の進路	高等学校に福祉科が設置された経緯と、そこでの教育目的、また卒業後の進路について学ぶ。
3	高等学校教育課程編成の方針と標準卒業単位	高校教育課程の中での各科目の単位設定と、福祉科教育科目の単位設定の関係について理解する。
4	高等学校学習指導要領一福祉編一に基づく教育	高等学校学習指導要領で定められている教育内容とその実施展開方法について検討する。
5	社会福祉基礎の目標と内容	社会福祉基礎の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認し、現状理解のための資料の提示方法を検討する
6	介護福祉基礎の目標と内容	介護福祉基礎の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。介護での利用者安全確保について、またサービス提供者の腰痛対策などにも触れる。
7	コミュニケーション技術の目標と内容	コミュニケーション技術の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。特に利用者の家族、サービス提供者への配慮と連携の在り方について学ぶ。
8	生活支援技術の目標と内容	生活支援援助の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。特に各サービス提供での、利用者の安全確保、危険予知について検討する。
9	介護過程の目標と内容	介護過程の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。情報収集と利用者介護のためのアセスメント内容の正確さの関連性について認識させる。
10	介護総合演習の目的と内容	介護総合演習の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。事例を通して個別介護支援計画作成のポイントを確認する。
11	介護実習の目的と内容	介護実習の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。さらに安全かつ適切な実習ができる実践力を生徒が持っているかの評価基準を検討する。
12	心と体の理解の目的と内容	心と体の理解の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。特に認知、高齢、障害に関する理解を深める。
13	福祉情報活用の目的と内容	福祉情報活用の教育目標、教育内容の確認と取り扱いのポイントを確認する。利用者への情報提供と、適切な個人情報の取り扱い方を検討する。
14	指導案の作成注意点一講義科目一	学生の理解度に合わせた講義科目の指導案作成のポイントと、学生の興味を引きつける授業展開の仕方を学ぶ。
15	指導案の作成注意点一演習・実習科目一	体験参加型授業の学習指導案の作成、配布資料、事前指導の内容、使用機器の準備と安全対策について学ぶ。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法 (Ⅱ期分)				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

I期での学びをもとに、Ⅱ期では福祉科の各教科について教材研究を行い、指導案の作成に取り組む。また有効な板書方法についても研究をする。並行して作成した指導案をもとに、模擬授業を重ね、授業展開のポイントを習得できるよう、受講者、担当教員で検討助言を行う。また教材研究は、各自の自主的研究として、授業時間外学習で取り組むことが求められる。

《テキスト》

文部科学省『高等学校学習指導要領 福祉編』 海文堂 2010

《参考文献》

文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』 海文堂 2009

《授業の到達目標》

- ① 高校生の置かれている現実の状況を把握し、それに即した教材の準備と教材研究が行え、高校生に分かる授業展開ができるようになる。
- ② 社会福祉の基本的原理や原則について、わかりやすく説明できるように、教材が準備できるように。
- ③ 各自の大学での学びで得た経験を、高校生の理解に合わせて伝達できるように。

《授業時間外学習》

教材研究や、指導案の作成は授業時間外学習事項として位置付ける。福祉は生活に直接かかわる教科であるだけに、常に日常生活の中から、すべての年代にかかる福祉課題を見つけ出せるように、観察を怠らないこと。

《成績評価の方法》

評価は通年とする。  
評価項目とその関与率は、受講態度30% レポート試験50%、提出物20%とし、その総合計で採点し、評価とする。

《備考》

各授業時間に課せられた課題をなし終えたうえで、毎回の授業に臨むことが求められる。遅刻が認められないのは言うまでもない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業に臨む教員の留意点	教えられる立場から教える立場への転換に必要な、教員としての態度、遵守すべき事柄についての検討する。
2	福祉科の授業形態と準備	講義、演習、実習、事例検討、見学、実習事前指導など授業形態と内容による、教材研究、配布資料、教材の効果的な提示方法のについて検討する。
3	授業の進め方と黒板の使い方	生徒が理解しやすい板書の仕方、資料(図、写真等)の適切な使い方と配置の仕方について体験的に学ぶ
4	模擬授業—社会福祉基礎	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。社会福祉の基礎理論を生徒の理解できる言葉で説明できているのかが検討のポイントとなる
5	模擬授業—介護福祉基礎	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。介護の基礎理論、介護福祉の倫理等が生徒の理解できる言葉で説明できているのかが検討のポイントとなる
6	模擬授業—コミュニケーション技術	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。コミュニケーションでの基本的ルールについてきっちり伝えられているのかが検討のポイントとなる。
7	模擬授業—生活支援技術	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。生活援助、身体介護が適切に生徒に理解でき、生徒が行動化できるのかが検討のポイントとなる
8	模擬授業—介護過程	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。介護計画作成の過程と手順が生徒に理解できる内容として教授されているのかが検討のポイントとなる。
9	模擬授業—介護総合演習	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。介護実習の事前指導にふさわしい教授内容であるかどうかを検討のポイントとなる。
10	模擬授業—介護実習	配属実習中の巡回訪問での、生徒指導の在り方、指導職員との連携の取り方について講義し、その演習を行う。
11	模擬授業—心と体の理解	模擬授業を行い、指導案の検討を行う。支援のために必要な、発達と老化、認知症、障害、心と体についての理解の仕方について教授出来ているのかがポイントとなる。
12	模擬授業—福祉情報活用	指導案に従って模擬授業を行い、指導案の検討を行う。情報の提供と保護のレベルを適切に設定することの必要性が生徒に理解できる教授内容が検討のポイントとなる。
13	指導案、教材研究、資料提示方法の総合検討	模擬授業での指摘、検討事項を踏まえ、どのような改善策があるか、の検討を行い、指導案を再構成する。
14	修正指導案での模擬授業	授業科目、授業内容は、担当学生に任す。これまでの検討をもとにした最終模擬授業として授業展開を行う。
15	福祉以外の教科担当の備えて	実習期間中の担当科目が福祉以外の科目である場合に備え、それぞれの科目での授業展開のポイントについて検討する。

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導				
担当者氏名	稲富 恭、吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1) 自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

(1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。(2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。(3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。(4)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。(5)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)知識・技術の習得10%、(3)模擬授業30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)研究授業20%、(3)問題解決力20%の配点により評価する。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態であるので、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の全体	1) 教師(教員)養成と教育実習 2) 教育実習の目標 3) 教育実習の展開 4) 教育実習の心得
2	教育実習の内容 (1)	1) 学校経営 2) 学校の組織 3) 生徒の理解事項 4) 教育課程 5) 学習指導
3	教育実習の内容 (2)	1) 道徳と特別活動 2) 生徒指導と学級経営 3) 学校の施設と環境 4) 教師としての勤務
4	教育実習の実際	1) 教材研究の実際 2) 学習指導の実際 3) 学習指導案の事例 4) 授業研究の実際 5) 道徳・特別活動・生活指導の実際 6) 教育実習の評価
5	教育の方法及び技術 (ビデオ視聴)	1) 『授業の仕組みとはたらき』 2) 『授業を創る』 3) その他
6	教材研究と指導案づくり	(1) (講義および演習)
7	教材研究と指導案づくり	(2) (講義および演習)
8	教材研究と指導案づくり	(3) (講義および演習)
9	模擬授業 (および討議)	
10	「教育実習」の諸注意と準備	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価
11	「教育実習」全体のふり返り	実習内容の明確化・体系化：討議および発表 (実習内容の検証・共有化)
12	事後の教材研究と事後の授業研究	
13	研究授業 (および討議)	
14	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)	
15	「教育実習」全体の総括	

平成 21（2009）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度(2009年度) 入学者対象  
( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成23年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門	法学	講義		2					2								
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2					2								
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2						2							
	生涯学習論	講義		2					2								
	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◇			2								
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇			2								
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇			2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○					2							
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2						
	美と感性	講義		2					2								
基 礎	ライフデザイン論	講義		2									2		吉原 恵子	207	
	行政法	講義		2					2								
	家族社会学	講義		2						2							
	家族福祉論	講義		2							2						
	発達心理学	講義		2			▲			2							
	人間関係論	講義		2							2						
	親子関係の心理学	講義		2								2					
	健康心理学	講義		2							2						
	集団心理学	講義		2									2				
	社会心理学	講義		2						2							
教 育	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2						2							
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2							2						
	教育心理学	講義		2			△				2						
	ライフステージと健康	講義		2									2		不開講		
	食文化論	講義		2					2								
	食生活論	講義		2						2							
	レクリエーションワークⅠ	講義		2					2								
	レクリエーションワークⅡ	講義		2						2							
	演習Ⅰ	演習		4					4								
	演習Ⅱ	演習		6							6						
専 門 コ ア 目 的	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△	2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△		2								
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇				2							
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇					2						
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○		△	2									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義	2		○		△		2								
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	2		○		△			2							
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義	2		○		△				2						
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○	◇						2					
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義	2		○	◇							2				
ア 目 的	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2		○	◇					2						
	就労支援の制度とサービス	講義	2		○							2					
	権利擁護と成年後見制度	講義	2		○	◇						2					
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△				4						
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△					4					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1		○		△		2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1		○		△					2					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1		○		△						2		牧田、高橋、井上、加藤	208	
	社会調査の基盤	講義	2		○			2									
	社会調査の応用	講義	2						2								

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成23年度の 担 当 者	ページ		
			必修	選択				1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△				2								
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4		○		△				4								
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4		○		△					4							
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2		○		△						2				村上、加藤	209	
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△						12						
	社会統計学Ⅰ	講義		2						2									
	社会統計学Ⅱ	講義		2						2									
	地域経済論	講義		2								2							
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇							2						
	福祉工学	講義		2									2				稲富 恭	210	
	まちづくり論	講義		2									2						
	国際福祉論	講義		2										2			河野 真	211	
	スクールソーシャルワーク	講義		2										2			井上 浩	212	
	更生保護制度	講義		1	○								1						
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○									2					
	インターンシップ	実習		4										12					
	社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2						②		②		②				不開講	
	社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2							②		②		②			不開講	
教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇						2							
	応用医療福祉論	講義		2									2						
	精神保健福祉論	講義		6		◇					6								
	精神医学Ⅰ	講義		2		◇				2									
	精神医学Ⅱ	講義		2		◇					2								
	精神保健学Ⅰ	講義		2		◇						2							
	精神保健学Ⅱ	講義		2		◇							2						
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義		2		◇							2						
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義		2		◇								2					
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義		2		◇						2							
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義		2		◇							2						
	精神保健福祉援助演習	演習		4		◇							4						
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇								12			村上、琴浦、光田	213	
	老年医学	講義		2										2					
	認知心理学	講義		2							2								
	臨床心理学	講義		2							2								
	心理測定法	講義		2							2								
	心理学基礎実験	実験		2								4							
	心理療法Ⅰ	講義		2							2								
	心理療法Ⅱ	講義		2								2							
心理検査法実習	実習		2									4							
行動分析論	講義		2										2						
心理カウンセリング演習	演習		2										2			琴浦 志津	214		
老人・障害者の心理	講義		2										2						
色彩論	講義		2										2						
社会福祉特別演習	演習		4										4			吉原、本多	215		
卒業演習	演習		4										4			※1	216		

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※1 稲富、井上、北島、琴浦、高橋、本多、村上、吉原

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	授 業 方 法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2			△	2										
	教育原理	講義		2			△	2										
	教育制度論	講義		2			△		2									
	教育課程論	講義		2			△			2								
	福祉科教育法	講義		4			△				4							
	特別活動論	講義		2			△			2								
	教育方法・技術論	講義		2			△			2								
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			△			2								
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△		2									
	総合演習	演習		2			△					2						
	事前・事後指導	演習		1			△						1					
	高等学校教育実習	実習		2			△							4		吉原 恵子	217	

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
- ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。



《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	ライフデザイン論				
担当者氏名	吉原恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

生涯学習社会においては、一人ひとりが自分自身の生活・生き方をデザインする力をもつことが必要である。したがって、ソーシャルワークには、その時その場だけの支援ではなく、人々がそれぞれに合った、しかも将来を見通したライフデザインをする力をもつための手助けも含まれる。本講義では、ライフコース論の視点から、自己決定の尊重、生活の質(QOL)の確保、持続可能な社会創造などの諸課題を取り上げる。

《授業の到達目標》

- (1) ライフデザイン論とは何かについて説明できる
- (2) ライフコースの各ステージにおける人々の生活を、家族、労働の視点から説明できる
- (3) 個々人のライフデザインに関わる問題を社会全体の文脈のなかで捉えることができる

《成績評価の方法》

学習のまとめ(1)(2)において、知識の定着度を評価する(45%)。また、所定のテーマについてのレポートを課す(55%)。

《テキスト》

テキストは指定しない

《参考文献》

『生活経営論 一自立と共生のライフデザイナー』藤原千賀他著（同文書院、1996）  
『ライフデザイン学入門（第2版）』古川孝順他編（誠信書房、2007）

《授業時間外学習》

3年次までに修得した社会福祉に関する知識をふり返り、理解が不十分な分野や領域について、自主的に補習を行っておくことが望ましい。

《備考》

各回のテーマによっては、学外での施設見学を行い、ミニレポートを課す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ライフデザイン論とはなにか	～ライフデザイン論の対象と方法
2	ライフデザイン論のアプローチ（1）	「生きること」の意味（哲学、文化人類学、宗教学）
3	ライフデザイン論のアプローチ（2）	「生活すること」の諸側面（身体と心）
4	ライフデザイン論のアプローチ（3）	「豊かさ」の諸側面（モノとココロ）
5	家族とライフデザイン（1）	家族と生活 ～高齢者とその家族～
6	家族とライフデザイン（2）	家族と生活 ～障がい者とその家族～
7	家族とライフデザイン（3）	家族と生活 ～児童とその家族～
8	学習のまとめ(1)	学習内容は適宜提示します
9	労働とライフデザイン（1）	子育て期の家族
10	労働とライフデザイン（2）	高齢者と労働
11	労働とライフデザイン（3）	高齢者と労働
12	健康とライフデザイン	健康と福祉
13	人間環境とライフデザイン	持続可能な社会、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
14	まちづくりとライフデザイン	コミュニティ、地域福祉
15	学習のまとめ(2)	ライフデザインの理論的理解と具体的方法について（総括）

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担当者氏名	井上 浩、牧田 満知子、高橋 千代、加藤 洋子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる （知識・技能の統合）				

《授業の概要》

本科目は、ソーシャルワーク実習（本実習）の事後指導にあたる科目である。実習体験を振り返り、これまで学んできた知識と援助技術を統合化させることを目的とする。内容としては、スーパーヴィジョン、実習報告会の準備と開催、実習報告書の作成が含まれる。

《テキスト》

「ソーシャルワーク実習指導Ⅲの手引き」を使用する

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク実習（本実習）の目的に合わせて、次の観点が理解できる。

- ①実習先の利用者理解
- ②ソーシャルワークの必要性と役割

《授業時間外学習》

実習報告会の準備や計画書作成のための打ち合わせで、授業時間外作業が求められる。

《成績評価の方法》

3年次Ⅱ期に行われた前半分と併せて評価を行う。

《備考》

ソーシャルワーク実習（本実習）の事前・事後指導なので、ソーシャルワーク実習（本実習）を履修しなかった場合、単位はキャンセルされる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	後半オリエンテーション	後半部の進め方について説明する/個人の振り返り
2	実習振り返り (2)	スーパーヴィジョン
3	実習振り返り (2)	スーパーヴィジョン
4	実習報告会 (1)	実習報告会の趣旨説明と進め方について
5	実習報告会 (2)	報告会の準備
6	実習報告会 (3)	報告会の準備
7	実習報告会 (4)	報告会の準備
8	実習報告会 (5)	実習報告会の実施
9	実習報告会の振り返り 実習報告書(1)	実習報告会の振り返り/実習報告書作成の説明
10	実習報告書 (2)	実習報告書の作成
11	実習報告書 (3)	実習報告書の作成
12	実習報告書 (4)	実習報告書の作成
13	実習報告書 (5)	実習報告書の作成
14	実習報告書 (6)	実習報告書の作成
15	予備日	予備日

《基礎科目 専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ				
担当者氏名	村上 須賀子・加藤 洋子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

本科目は、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱでの学びに加え、ソーシャルワーク実習経験をふまえて、卒後ソーシャルワーク実践者としての援助技術の総まとめを各自が行う。

《テキスト》

各回レジメ・プリントを準備する。

《参考文献》

なし

《授業の到達目標》

ミクロ、メゾ、マクロを統合したジェネラリストソーシャルワークの視点で支援を組み立てることができる。

《授業時間外学習》

各支援計画を各自作成して提出する。

《成績評価の方法》

演習は毎回出席が原則である。評価は出席状況（30パーセント）レポート（50パーセント）授業態度（20パーセント）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	実習経験をふまえソーシャルワーク技術の補強点を確認する。
2	実習と演習の関連	実習中の困難場面での援助技術の確認①
3	実習と演習の関連	実習中の困難場面での援助技術の確認②
4	実習と演習の関連	実習中の困難場面での援助技術の確認③
5	①医療分野におけるソーシャルワーク	ミクロの視点からの支援
6	②医療分野におけるソーシャルワーク	ミクロの視点からの支援
7	③医療分野におけるソーシャルワーク	メゾの視点からの支援
8	④医療分野におけるソーシャルワーク	メゾの視点からの支援
9	⑤医療分野におけるソーシャルワーク	マクロの視点からの支援
10	①児童・障害者分野におけるソーシャルワーク	ミクロの視点からの支援
11	②児童・障害者分野におけるソーシャルワーク	ミクロの視点からの支援
12	③児童・障害者分野におけるソーシャルワーク	メゾの視点からの支援
13	④児童・障害者分野におけるソーシャルワーク	メゾの視点からの支援
14	⑤児童・障害者分野におけるソーシャルワーク	マクロの視点からの支援
15	まとめ	ソーシャルワーク援助技術の統合

科目名	福祉工学				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

福祉工学とは、狭義においては高齢者、障がい者、児童を対象に、広義においては全ての人を対象に、快適で公平な社会参加を可能とするための人間工学です。本講義を通して、生活環境における物理的な障壁とその工学的改善手法について学びます。

《テキスト》

テキストは用いない。

《参考文献》

『福祉工学入門』宇土博、労働調査会、2005

《授業の到達目標》

- 福祉工学の基本的考え方、各研究分野について理解する。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案する事ができ能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法  
事前に各回の授業内容に関連した事例を新聞、Web等の媒体を用いて調査する。
- ・復習の方法  
授業内容に従い、ノートを制作する

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施するレポート(60%)、授業中に不定期に実施する小テスト(40%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉工学とは何か	福祉工学の背景と目的
2	福祉機器の現状	福祉機器の開発動向について
3	高齢者と福祉工学(1)	老化による身体諸機能の変化と工学的対応(1)
4	高齢者と福祉工学(2)	老化による身体諸機能の変化と工学的対応(2)
5	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの背景と現状
6	福祉ロボットの開発	生活支援ロボットの開発と現状
7	食生活における福祉工学	食生活と着衣における福祉用具
8	衣服における福祉工学	高齢者・障がい者のファッションと着衣補助用品
9	住環境における福祉工学(1)	高齢者の特性と住空間の整備手法(1)
10	住環境における福祉工学(2)	高齢者の特性と住空間の整備手法(2)
11	移動手手段の福祉工学	福祉車両と車いす
12	視覚障害・聴覚障害の支援技術	聴覚障害の支援技術と発声を代行する機器
13	義肢・装具の開発	義肢・装具の種類と役割
14	レポート課題の発表	提出されたレポート課題を発表するとともに、ディスカッションを行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

科目名	国際福祉論				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

福祉国家政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大させてきた。本講義では、社会福祉や社会保障制度の仕組みや政策を比較することの意義やその手法について学ぶ。その上で福祉国家の類型を代表する諸外国と日本の制度や社会状況を比較し、共通点や相違点、制度発展の社会・経済・歴史的背景について学ぶ。

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考文献》

《授業の到達目標》

福祉国家類型を代表する諸外国や急速に福祉国家化が進む東アジアの精度の特質や発展過程を理解する。諸外国との比較を通じて、日本の福祉国家制度の水準や特質、制度形成の背景についてより深く理解することができるようになる。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験70%、授業への参加とその成果30%（小テスト等により評価する）。

《備考》

今日日本では経済的繁栄を優先する政策運営には見直しが迫られており、福祉国家のあり方にも大きな変化が進行しつつある。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉国家の国際比較 (1)	社会福祉制度や社会保障制度を比較する上での留意点、比較のポイント等について学ぶ。
2	福祉国家の国際比較 (2)	福祉国家制度の動向
3	福祉国家の国際比較 (3)	福祉国家制度比較のための諸理論 (1) 産業化理論、権力資源論、コーポラティズム論等
4	福祉国家の国際比較 (4)	福祉国家制度比較のための諸理論 (2) 福祉レジーム論
5	福祉国家の国際比較 (5)	福祉国家制度比較のための諸理論 (3) クオリティオブライフ・アプローチ、ソーシャルクオリティ・アプローチ
6	イギリスの福祉国家政策 (1)	古い伝統を有するイギリス福祉国家の過去を学ぶ（歴史的経緯）
7	イギリスの福祉国家政策 (2)	古い伝統を有するイギリス福祉国家の現在を学ぶ（現在）
8	スウェーデンの福祉国家 (1)	高福祉高負担の北欧型福祉国家のあり方をスウェーデンを通じて学ぶ（歴史的経緯）
9	スウェーデンの福祉国家 (2)	高福祉高負担の北欧型福祉国家のあり方をスウェーデンを通じて学ぶ（現在）
10	アメリカの福祉国家政策 (1)	市場重視型の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ（歴史的経緯）
11	アメリカの福祉国家政策 (2)	市場重視型の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ（現在）
12	ドイツの福祉国家政策 (1)	社会保険方式の福祉国家を代表するドイツの制度について学ぶ（歴史的経緯）
13	ドイツの福祉国家政策 (2)	社会保険方式の福祉国家を代表するドイツの制度について学ぶ（現在）
14	韓国や台湾の福祉国家政策	近年急速に福祉国家が進む韓国と台湾の制度について学ぶ
15	東アジア諸国の福祉国家政策	韓国や台湾を除く東アジア諸国の状況について学ぶ

《専門教育科目 専門コア科目》

科目名	スクールソーシャルワーク論				
担当者氏名	井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input checked="" type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） <input type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

スクールソーシャルワークは、ソーシャルワークを学校という場においていかに実践していくかという考え方である。この科目では、スクールソーシャルワークに関する概念整理、特に子どもの学習保証という観点から講義を展開する。内容としては、スクールソーシャルワークと子どもを巡る現状、歴史、専門職としてのスクールソーシャルワークに分けて受講生とともに考えていく。

《授業の到達目標》

- ① スクールソーシャルワークが専門職であるという認識ができる
- ② 子どもの学習保証にとってスクールソーシャルワークがどのような役割を担っているのかを説明できる

《成績評価の方法》

学期末試験で評価する

《テキスト》

『スクールソーシャルワーク論』山下 英三郎・内田 宏明・半羽 利美佳、学苑社、2008

《参考文献》

適宜紹介するが、スクールソーシャルワークの歴史から英語の文献を紹介することが多くなる

《授業時間外学習》

教科書に沿って授業を展開するので、次回予定する講義内容のページに合わせた部分を読み、受講生がレジュメを用意することが求められる。

《備考》

毎回、受講生は人数分のレジュメを用意すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	スクールソーシャルワークと子ども（1）	スクールソーシャルワークと子どもを巡る現状（1）
2	スクールソーシャルワークと子ども（2）	スクールソーシャルワークと子どもを巡る現状（2）
3	スクールソーシャルワークの歴史（1）	スクールソーシャルワークの歴史（1）
4	スクールソーシャルワークの歴史（2）	スクールソーシャルワークの歴史（2）
5	学校現場における実践理論（1）	ソーシャルワーク実践理論の応用（1）
6	学校現場における実践理論（2）	ソーシャルワーク実践理論の応用（2）
7	学校現場における実践理論（3）	ソーシャルワーク実践理論の応用（3）
8	子どもの課題とスクールソーシャルワーク（1）	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（1）
9	子どもの課題とスクールソーシャルワーク（2）	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（2）
10	子どもの課題とスクールソーシャルワーク（3）	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（3）
11	子どもの課題とスクールソーシャルワーク（4）	子どもが抱える課題とスクールソーシャルワーク（4）
12	ソーシャルワークと学校現場（1）	専門職としてのスクールソーシャルワーク（1）
13	ソーシャルワークと学校現場（2）	専門職としてのスクールソーシャルワーク（2）
14	ソーシャルワークと学校現場（3）	専門職としてのスクールソーシャルワーク（3）
15	スクールソーシャルワークの今後	これからのスクールソーシャルワーク

《基礎科目 専門コース科目》

科目名	精神保健援助実習				
担当者氏名	村上須賀子・光田豊茂・琴浦志津				
授業方法	実験	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

1、必要な知識及び援助並びに関連知識の理解を深める。2、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。3、職業倫理を身につける。4、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。5、専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2011年

《参考文献》

《授業時間外学習》

実習報告書作成、実習報告会プレゼンテーション内容準備など授業時間内では出来ない内容を各自、学習する。

《成績評価の方法》

実習先からの評価票（30%）、実習記録（70%）で評価する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉現場実習振り返り	オリエンテーション・実習振り返り・各実習施設の印象・特色・全体的な振り返り
2	精神保健福祉現場実習振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
3	精神保健福祉現場実習振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
4	精神保健福祉現場実習振り返り	実習報告書作り
5	精神保健福祉現場実習振り返り	実習報告書作り
6	精神保健福祉現場実習振り返り	実習報告書作り
7	精神保健福祉現場実習振り返り	実習報告書提出
8	精神保健福祉現場実習	実習報告会・プレゼンテーション内容掘り下げ
9	精神保健福祉現場実習	実習報告会・プレゼンテーション内容掘り下げ
10	精神保健福祉現場実習	実習報告会・プレゼンテーション内容提出
11	精神保健福祉現場実習	実習報告会準備
12	精神保健福祉現場実習	実習報告会準備
13	精神保健福祉現場実習	実習報告会準備
14	精神保健福祉現場実習	実習報告会
15	精神保健福祉現場実習	実習報告会・反省・課題の整理

科目名	心理カウンセリング演習				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input checked="" type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） <input type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

心理援助の基本は、クライアントの希望を引き出し応援することである。田嶋誠一氏の本をテキストにして実践的サイコセラピーのコツを学ぶ。このテキストに詳述されている「多面的援助アプローチ」は面接室内でのカウンセリングだけでなく、クライアントをとりまく生活空間全体に注目して非密室型カウンセリングを駆使し、その人に合った幅広い援助を行おうとするものである。

《授業の到達目標》

学校現場や様々な臨床現場で活躍してきたセラピスト田嶋誠一氏のテキストにして、様々なテーマに関する実際の事例にふれ、見立ての基本から効果的な面接、援助のコツを学ぶ。その中から臨床心理士がオープンな場で動くということと、ソーシャルワーカーの動きとの共通点・相違点を見出し、現場に出た時の支えとなるよう学んでほしい。

《成績評価の方法》

受講態度30% 何度かのレポート30% まとめのレポート40%

《テキスト》

『現実に介入しつつ心に関わる 多面的援助アプローチと臨床の知恵』 田嶋誠一 金剛出版3800円

《参考文献》

『心理臨床の実践 つなぐこと 支えること さまざまな工夫共に育つ』 村瀬嘉代子編 誠信書房 1850円

《授業時間外学習》

授業に臨む前に、テキストを読みこんできてほしい。受講者で順番をきめて担当部分の発表をしながら、輪読方式で読み進めていく。詳しくは授業初回に説明するので、初回授業を欠席しないこと。

《備考》

卒業論文に役立ててほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15回の授業の進め方
2	現実に介入しつつ心に関わる①	内面探求的アプローチとは
3	現実に介入しつつ心に関わる②	ネットワーク探求型アプローチとは
4	現実に介入しつつ心に関わる③	システム形成型アプローチとは
5	多面的援助アプローチの考え方①	3つのキーワード
6	多面的援助アプローチの考え方②	さらなる3つのキーワード
7	臨床の知恵が生まれる時	臨床実践とは
8	学校心理臨床とカウンセリング	密室カウンセリングからの脱却
9	心理援助と心理アセスメントの基本的視点	心理的援助は、可能性へのアセスメントである。現場で役立つ基本的モデル
10	事例研究の視点①	面接室内の要因と面接室外の要因について
11	事例研究の視点②	ネットワークとコミュニティー
12	ネットワーク活用型アプローチの事例①	学生相談と精神療法
13	ネットワーク活用型アプローチの事例②	クライアントとの付き合い方①
14	ネットワーク活用型アプローチの事例③	クライアントとの付き合い方②
15	全体のまとめ	動く臨床心理士とソーシャルワーカーの共通点・相違点



《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	社会福祉特別演習				
担当者氏名	吉原 恵子・本多 彩				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

4年間の学びの集大成の一環として、社会福祉士国家試験の合格をめざし、そのための学習を集中して行うことが授業のねらいです。合わせて精神保健福祉士の国家試験の準備講座も行います。各受験科目については、担当分野の教員から講義も受けますが、自主的に学習に取り組んでください。不明なところは教員に質問したり、友人と学び合いながら、成果を上げることがめざします。

《授業の到達目標》

- ・社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の各試験科目ごとの出題基準と傾向を理解します。
- ・各試験科目の要点やキーワードを整理して理解します。
- ・模擬試験等により、試験の特徴をつかみ、合格をめざします。

《成績評価の方法》

出席・授業態度（50%）、模擬試験等の結果（50%）

《テキスト》

社会福祉士国家試験ワークブック（適宜指定する）  
精神保健福祉士国家試験ワークブック（適宜指定する）

《参考文献》

適宜提示します。

《授業時間外学習》

- ・授業時間だけでは国家試験に合格することは難しいと思われます。受験生であることを常に意識して、法改正のほか、新聞の福祉関連記事等にも目を通すようにしましょう。
- ・また、模擬試験は実施に5時間以上かかります。変則的なスケジュールに対応できるよう、生活スタイルを受験用に整えておくことが望まれます。

《備考》

本演習の履修が国家試験受験の前提条件となります。注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人体の構造と機能及び疾	(以下、Ⅱ期) 保健医療サービス
2	心理学理論と心理的支援	就労支援サービス
3	社会理論と社会システム	更生保護制度
4	現代社会と福祉	権利擁護と成年後見制度
5	社会調査の基礎	(以下、精神保健福祉士科目) 精神医学
6	相談援助の基盤と専門職	精神保健学
7	相談援助の理論と方法	精神科リハビリテーション学
8	地域福祉の理論と方法	精神保健福祉論
9	福祉行財政と福祉計画	精神保健福祉援助技術
10	福祉サービスの組織と経営	学内模擬試験(1)
11	社会保障	学内模擬試験(2)
12	高齢者に対する支援と介護保険制度	学内模擬試験(3)
13	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	学外模擬試験(1)
14	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	学外模擬試験(2)
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	学外模擬試験(3)

《専門教育科目 専門コース科目》

科目名	卒業演習				
担当者氏名	稲富 恭・井上 浩・北島 律之・琴浦 志津・高橋 千代・本多 彩・村上 須賀子・吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	4年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）				

《授業の概要》

4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。その論文を皆の前で発表します。卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要で、さらにそれを論文として仕上げるための整理することや執筆することの能力が求められます。

《授業の到達目標》

卒業論文を執筆し発表することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることができます。卒業論文の発表によりプレゼンテーション能力を身につけることができます。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程、及び論文の内容とその発表内容を踏まえて評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	卒業論文の締め切り	決められた日時までに卒業論文を完成させましょう。
15	卒業論文の発表	作成した卒業論文を発表します。

《テキスト》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《参考文献》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆に係る、文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらくは最初の（そして、もしかしたら最後の）論文の執筆かもしれません。全ての能力を傾けて取り組んでください。

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

授業のねらいは、教育実習の目的を達成することにある。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識と理論を統合化する。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議などにより経験の共有化を図る。

《授業の到達目標》

- (1) 教職に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (2) 教科に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (3) 教職を希望する者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《成績評価の方法》

実習校による実習評価(50%)、およびレポート(50%)による総合評価

《テキスト》

『教育実習の研究』教師養成研究会（学芸図書，2001）

《参考文献》

『教育実習の新たな展開』有吉秀樹・長沢憲保（ミネルヴァ書房，2001）  
『福祉教育論』村上尚三郎他（1998、北大路書房）  
『福祉教育の理論と実践』阪野貢編著（2000、相川書房）

《授業時間外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って行動することが求められる。

《備考》

授業案作成および模擬授業に関しては授業外の指導も合わせて行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習全体の理解	教科「教育実習」の目的と方法の理解
2	教育実習の全体（1）	1) 教員養成と教育実習 2) 教育実習の目的
3	教育実習の全体（2）	3) 教育実習の展開 4) 教育実習の心得
4	教育実習の内容（1）	1) 学校経営 2) 学校の組織
5	教育実習の内容（2）	3) 生徒の理解 4) 教育課程 5) 学習指導
6	教育実習の実際（1）	1) 教材研究の実際 2) 学習指導の実際
7	教育実習の実際（2）	3) 学習指導案の事例
8	教育実習の実際（3）	4) 授業研究の実際
9	教育実習の実際（4）	5) 道徳・特別活動・生活指導の実際 6) 教育実習の評価
10	教育の方法及び技術（1）	1) 授業の仕組みとはたらき
11	教育の方法及び技術（2）	2) 教育方法および教育技術
12	教材研究と指導案づくり（1）	1) 学習指導要領 2) 学習分野
13	教材研究と指導案づくり（2）	3) 発問や応答 4) 時間配分 5) 学習目標と評価
14	模擬授業（1）	1) 授業の位置づけ 2) 授業の構成要素
15	模擬授業（2）	3) 授業内容の難易度 4) 授業目標の達成と評価

